

令和2年度

授業改善のための学生アンケート報告書

令和3年3月

拓殖大学 FD委員会

はじめに

予測困難な時代の到来と言われる中、大学教育の責務として学士課程教育の質の保証が強く求められるようになり、教員の授業に対しては学生の興味を引き出すこと、生涯学ぶ習慣や主体的に考える力の育成、どんな状況にも対応できる力を育成することなどが包括的に求められています。

本学では「拓殖大学FD委員会」により、「教員の授業の改善に役立てること並びに本学における教育の質の向上を図ること」を目的に「授業改善のための学生アンケート」を実施してきました。学生アンケートは教育課程の質的転換の始点であり、本学ではアンケート集計結果にもとづく分析、学生の意見や教員による授業の振り返りを通じて、教育方法の改善や学修支援環境の充実などにつなげ、学修成果の把握、学生の主体的な学びを促す効果的学修の推進、国際化・情報化などに積極的に取り組んでおります。

なお、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染が拡大する困難な状況の中、初めて経験する遠隔による授業を展開せざるおえない状況にありました。そのため、令和2年度実施の「授業改善のための学生アンケート」につきましては、アンケート用紙の配布によるマークシート方式から学修支援システム (Blackboard) を利用したオンライン方式に急遽変更したことや学生のアンケート回答に対する負担を考慮して、全体の設問数を精選するとともに、新たに遠隔授業に関する設問を設定いたしました。調査結果は、「全体集計」と「学部・学科別集計」により、大学全体から各学部・学科まできめ細かな分析を試み、各学部における評価及び課題を明確にしております。

本報告書を活用し、教員並びに各学部・学科においては、他学部・学科の状況も参考にしながら、今後の教育内容・教育方法等の改善に役立てて下さるようお願いいたします。

大学全体としては、教育の質の向上を図るための教学マネジメントの一環として、遠隔授業環境の充実や各学部・学科における取組に対する適切な支援などを引き続き実施していきます。

令和3年3月

拓殖大学 学長
川 名 明 夫

目 次

はじめに

I 学生アンケートの実施について

1. 経緯と実施方針	1
2. 実施状況	1
3. 集計結果の概要	2
4. 学生アンケート実施に向けた今後の課題	3
5. 今後の展望	4

II 実施状況

1. 実施期間	5
2. アンケート回答数・回答率	5

III 全体集計

1. 満足度	7
2. 理解度	9
3. 課題の分量	1 1
4. 遠隔授業	1 3
5. 満足度・理解度・課題の分量における相対比較	1 9

IV 学部別集計

1. 商学部	2 1
2. 政経学部	2 5
3. 外国語学部	2 9
4. 工学部	3 3
5. 国際学部	3 7
6. 学科別満足度の推移	4 1
7. 学科別理解度の推移	4 2

V 科目別集計

1. 教養教育科目	4 3
2. 専門科目	4 5
3. 外国語科目	4 7
4. 教職科目	4 9

VI 評価及び課題

1. 商学部	5 1
2. 政経学部	5 4
3. 外国語学部	5 6
4. 工学部	5 9
5. 国際学部	6 2
6. 教養教育科目	6 4
7. 専門科目	6 6
8. 外国語科目	6 8
9. 教職科目	7 0

参考資料

1. 令和2年度「授業改善のための学生アンケート」実施要領	7 3
2. アンケート様式	7 4

I 学生アンケートの実施について

1. 経緯と実施方針

拓殖大学における教育内容と教育方法の改善を目的とした組織的な取り組みは、平成4(1992)年の拓殖大学自己点検評価委員会の設置から始まり、各学部自己点検評価委員会が設置され、検証と評価を繰り返しながら教育の改革・改善に取り組んできました。平成24(2012)年4月から拓殖大学FD委員会による取り組みとして現在に至っております。

具体的には、平成6(1994)年から始まった「学生による授業評価(現・授業改善のための学生アンケート)」の実施、全学的なFDワークショップ及び各学部独自のFDワークショップの開催、教育・研究等業績報告書の作成、新任教員研修会の実施、教員相互の授業参観の実施などであります。このうち「授業改善のための学生アンケート」は、これら一連の教育改革の柱となるものであり、次のような特色を持っております。

- (1) 大学(5学部)全体の取り組みとして実施していること。
- (2) 全教員が参加していること。
- (3) 授業科目ごとの集計表には、統計処理したデータだけでなく学生からの要望・担当教員の所見及び改善に向けた取組方針を記載し、改善に向けて取り組んでいること。
- (4) 集計・分析結果のみならず、授業科目毎の集計及び担当教員による所見を公開し、全教員が参照できるようにしていること。

なお、令和2(2020)年度「授業改善のための学生アンケート」は、新型コロナウイルス感染が拡大する困難な状況の中で、遠隔による授業を展開せざるを得ない状況にあり、これまで実施してきた学生アンケートの実施方法(教員がアンケート用紙を配布・回収する方法)では対応できない状況であると判断いたしました。そこで、急遽遠隔システムを利用したオンライン方式にて実施することとし、全体の設問数の精選などを行いました。また、令和3(2021)年度「授業改善のための学生アンケート」は、本年度の経験を活かし、オンライン方式による本格的な学生アンケートを実施することとし、検討を開始いたしました。

2. 実施状況

アンケートは、全学部生(8,638名)を対象に、令和2年12月14日(月)から令和2年12月22日(火)まで実施(実施期間は要項の期間より3日間延長)しました。回答者数3,251名、回答率37.6%で、例年と比べて回答率が低い状況でした。また、教職科目に関する設問は、同科目登録者に限定したにも係わらず、登録者数以上の回答がありました。過去の履修学生からの回答が含まれていると思っておりますが、そのまま分析を行いました。

今後、学生アンケートをオンライン方式で実施する際には、実施時期や周知方法の検討など回答率の向上に資する方策の必要性が顕著になりました。

3. 集計結果の概要

学生アンケートを実施した科目全体の「満足度」の平均値は3.20ポイントで、昨年度(3.95ポイント)と比べ0.75ポイント下がりました。科目別では、教職科目(3.23)が最も高く、次いで、外国語科目(3.22)、教養教育科目(3.20)、専門科目(3.19)で、学年別では、4年(3.26)が最も高く、1年(3.23)、3年(3.19)、2年(3.15)となっております。

「理解度」については、科目全体の平均値は3.28ポイントで、昨年度(3.77ポイント)と比べ0.49ポイント下がりました。科目別では、教養教育科目(3.29)、外国語科目(3.29)、教職科目(3.26)、専門科目(3.25)で、学年別では、4年(3.30)が最も高く、1年(3.29)、2年(3.26)、3年(3.25)となっております。

「満足度」「理解度」が昨年度より低下した要因としては、本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の一環として、1年間を通じて遠隔授業を中心に授業展開をしましたが、通信環境が十分ではないなど、多くの学生が十分な教育環境の中で遠隔授業を受講できたわけではないことや、教員・学生ともに、遠隔授業に精通しているとは言いがたく、試行錯誤を繰り返しながら授業を展開せざるを得ないことなどが考えられます。自由記述では、「パソコンは正直苦手で通信状況も悪いので歯痒さを感じました。」「オンデマンド型授業で、雑音が入っていたり音量が小さかったりでほとんど聞こえないものや、画質が悪すぎて文字が見えない動画だとモチベーションが下がる。」「オンデマンド型の授業で、資料の配布のみの科目があり、資料だけでは物足りず、理解するのが難しいので、動画や課題も出してほしいです。」「オンデマンド型の授業は好きな時に受講できるという利点はありますが、授業の理解度は非常に低かったと感じました。」「実験、プログラミングや製図など実際に手を動かして理解していく授業に関しては対面でしか理解できないところもあると思った。」などの意見が寄せられています。また、今回のアンケートでは、対象を個々の授業科目から科目全般いわゆる総論に変更したことも要因の一つになっていると推測されます。

「課題の分量」については、科目全体では「適切」との回答が58.5%、「とても多い」「多い」の合計が33.2%で、一方、「とても少ない」「少ない」の合計が8.3%であり、平均値では3.33ポイントとなっております。また、自由記述では、「ほとんどすべての授業から課題が出され、期日も短いためとても大変です。」「全体的に課題の量が多く感じました。オンライン授業ということもあり、仕方ない部分もあると思うが、毎日毎日課題に追われる日々だったので、モチベーションを保つことが難しかったです。」などといった意見が多数あることから、課題の分量と内容については、それぞれの授業科目において、再検討の必要性が窺えます。

「遠隔授業に対する状況」については、「オンデマンド型授業は、都合の良い時間に勉強できるので良い」(71.6%)、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」(70.5%)、「提出した課題が先生に届いているか心配である」(58.3%)が高い回答率となっております。

ます。また、自由記述では、遠隔授業システムや受講環境、遠隔授業における教育方法・内容、課題の分量や提出方法・期限、成績評価、授業料など幅広い項目で、様々な意見・要望がありました。上記の「提出した課題が先生に届いているか心配である」に関連した意見としては、「課題の再送信として Blackboard で先生宛にメールをしても返事が返ってこず、点数もそのままという事があったので Blackboard での先生との意思疎通の面を改善してほしいと思いました。連絡用掲示板を常設するのを提案します。」「Blackboard で課題を間違えて違うファイルで提出してしまったときに、すぐに気がついてもう一度再提出をしたかったのですが、再提出できずメールで先生に連絡したのですが、何も返信がなくてとても困りました。」「シラバスに連絡先が載っていない先生がいて、連絡が取りたくても取れない。」「教科によっては先生のメールアドレスがわからず、連絡が取れないことがあった。」など多数の意見が見受けられたことから、学生の不安を払拭し、より良い授業を実施するために、教員からの積極的な情報発信が求められます。

なお、学部・学科や学年により状況が異なっているため、今後の課題も含め学部・学科別に分析がなされておりますので、本報告書「VI評価と課題」をご覧ください。

また、繰り返しになりますが、本年度と昨年度では、アンケートの対象（科目全般、個々の授業科目）や回答率が異なるため、年度間の比較データは参考情報としてご覧いただければ幸いです。

※Blackboard とは、学修支援システムの一つであり、本学では、令和 2 年度の遠隔授業の実施に当たって、このシステムも活用した。

4. 学生アンケート実施に向けた今後の課題

(1) オンライン方式による学生アンケートの構築

本年度の学生アンケートは、試行的に Blackboard を利用してのオンライン方式による実施を試みました。Blackboard では、多くの質問項目を設定することの困難さや、アンケート集計などのデータ処理が迅速に実現できないことなどの課題があり、来年度以降の本格実施に向け、外部委託による調査方法を含め、システム構築に向けた検討が必要となっております。また、アンケートの実施時期や周知方法を検討するなど、回答率の向上を図るための方策が必要となっております。

(2) 学生アンケートの実施目的と設問などの見直し及び対象科目の拡大

アンケート結果を有効活用するため、アンケートの活用方法や実施目的を明確にするとともに設問の見直しが必要となっております。また、従前は対象外としていた授業科目（SPI などの委託授業科目など）の取り扱いを検討しつつ、全学部の全授業科目のアンケート実施に向けた計画を早急に策定することが緊要となっております。

5. 今後の展望

18歳人口の減少や文部科学省による定員管理の厳格化から、大学を取り巻く環境は厳しくなっており、本学においても持続可能な社会の担い手を育むため、教育の質と学生満足度の向上を図るための取り組みをより一層追求する必要があります。

今後は、対面授業、遠隔授業それぞれの長所を活かしながらの授業展開が必要になります。令和3（2021）年度においては、「対面授業」と「オンデマンド型授業」のハイブリッドでの授業展開となりますが、本年度の遠隔授業での経験と反省を踏まえ、令和2年12月に『2021（令和3）年度「オンデマンド型授業」実施要件』を明確化し、情報共有を図ったところであります。このことは、今回のアンケートにおける自由記述で多く見受けられた意見や要望にも対応するものであり、授業の質の向上や学生の不満解消につながるものであります。

本学では、建学の精神及び大学の理念等に基づき、国際的な視野を持ち、タフな人間力を身につけた『拓殖人材』を育むためには、学修者本位の教育の質の向上は当然の責務であり、『授業改善のための学生アンケート』を大学教学マネジメントの柱の一つと位置づけ、積極的に学士教育課程の編成・実施に係る組織的な取り組みを行っていくことといたします。

令和3年3月

拓殖大学FD委員会

委員長 鈴木 昭 一

II 実施状況

1. 実施時期

令和2年12月14日(月)～令和2年12月19日(土)

[期間延長]

令和2年12月20日(日)～令和2年12月22日(火)

2. アンケート回答者数・回答率

所 属	1 年		2 年		3 年		4 年		合 計	
	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
商学部	320	53.8%	293	47.8%	171	30.2%	130	19.5%	914	37.4%
経営学科	207	54.2%	173	44.8%	106	29.2%	67	16.5%	553	36.0%
国際ビジネス学科	74	51.0%	82	52.6%	43	30.3%	36	20.8%	235	38.1%
会計学科	39	57.4%	38	53.5%	22	36.1%	27	30.3%	126	43.6%
政経学部	376	54.5%	257	41.1%	202	31.0%	171	19.6%	1,006	35.4%
法律政治学科	139	61.0%	88	44.9%	73	34.9%	63	19.4%	363	37.9%
経済学科	237	51.3%	169	39.3%	129	29.1%	108	19.6%	643	34.1%
外国語学部	149	55.0%	97	47.3%	70	36.3%	48	23.2%	364	41.6%
英米語学科	78	65.5%	67	65.7%	46	45.5%	30	28.8%	221	51.9%
中国語学科	23	50.0%	12	23.1%	14	28.6%	6	11.8%	55	27.8%
スペイン語学科	20	34.5%	18	35.3%	10	23.3%	12	23.1%	60	29.4%
国際日本語学科	28	58.3%							28	58.3%
工学部	206	58.5%	176	54.5%	118	41.8%	37	12.6%	537	42.9%
機械システム工学科	49	62.8%	55	67.9%	29	43.9%	8	10.5%	141	46.8%
電子システム工学科	43	51.8%	40	50.6%	33	49.3%	10	15.4%	126	42.9%
情報工学科	64	61.0%	51	60.0%	39	52.7%	14	18.9%	168	49.7%
デザイン学科	50	58.1%	30	38.5%	17	22.7%	5	6.3%	102	32.1%
国際学部	178	55.5%	127	43.3%	80	26.4%	45	14.5%	430	35.0%
国際学科	178	55.5%	127	43.3%	80	26.4%	45	14.5%	430	35.0%
合 計	1,229	55.1%	950	46.1%	641	32.1%	431	18.3%	3,251	37.6%

Ⅲ 全体集計

1. 満足度

「あなたが履修している○○○科目全般について満足度はどの程度ですか。」という質問を、教養教育科目、専門科目、外国語科目、教職科目を対象に行った。

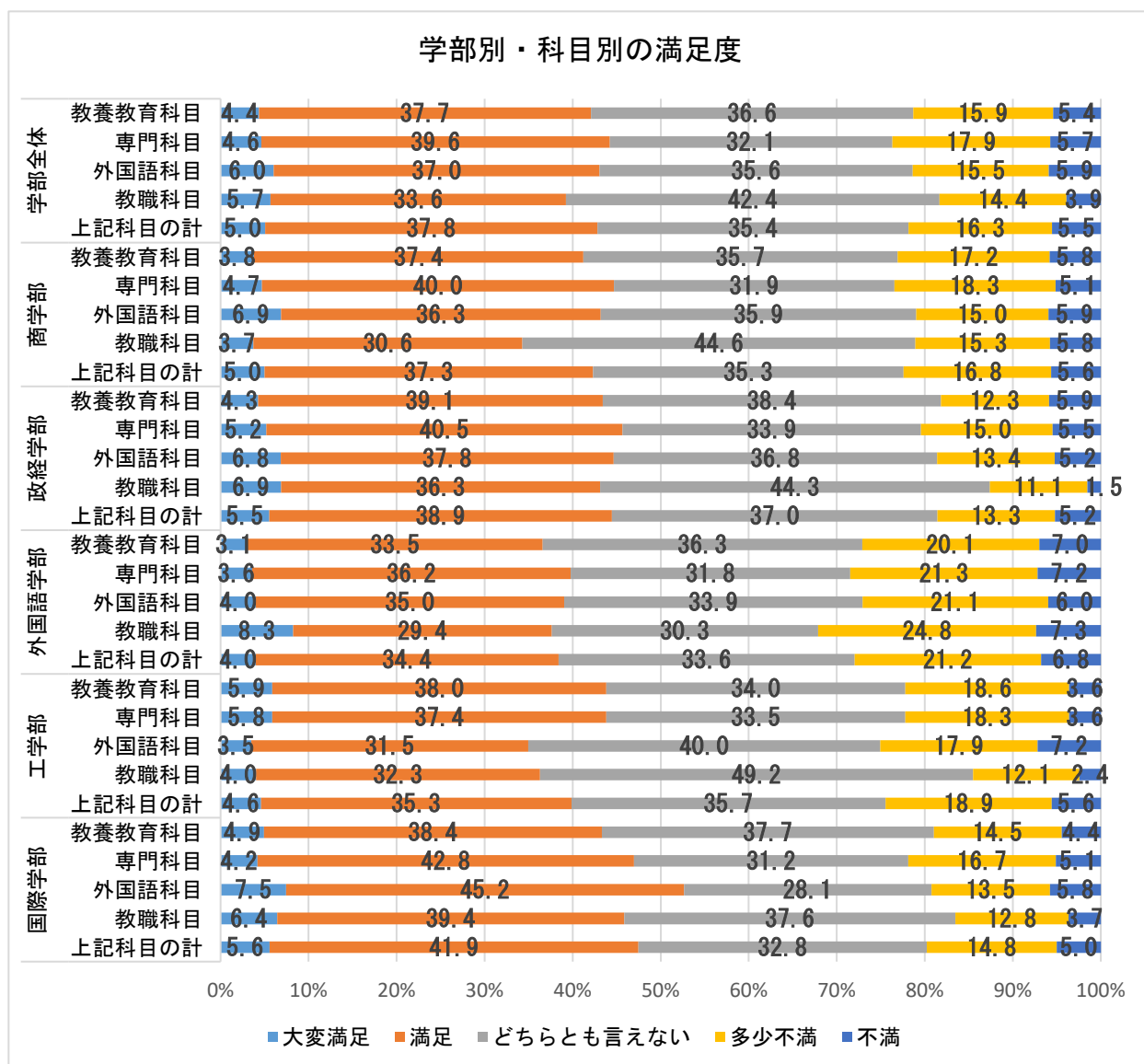
その結果、学部全体では、「大変満足」「満足」という割合が42.8%であった。科目別では、教養教育科目42.1%、専門科目44.2%、外国語科目43.0%、教職科目39.3%で、専門科目が最も高かった。

また、学部別では、商学部42.3%、政経学部44.4%、外国語学部38.4%、工学部39.9%、国際学部47.5%で、国際学部が最も高かった。

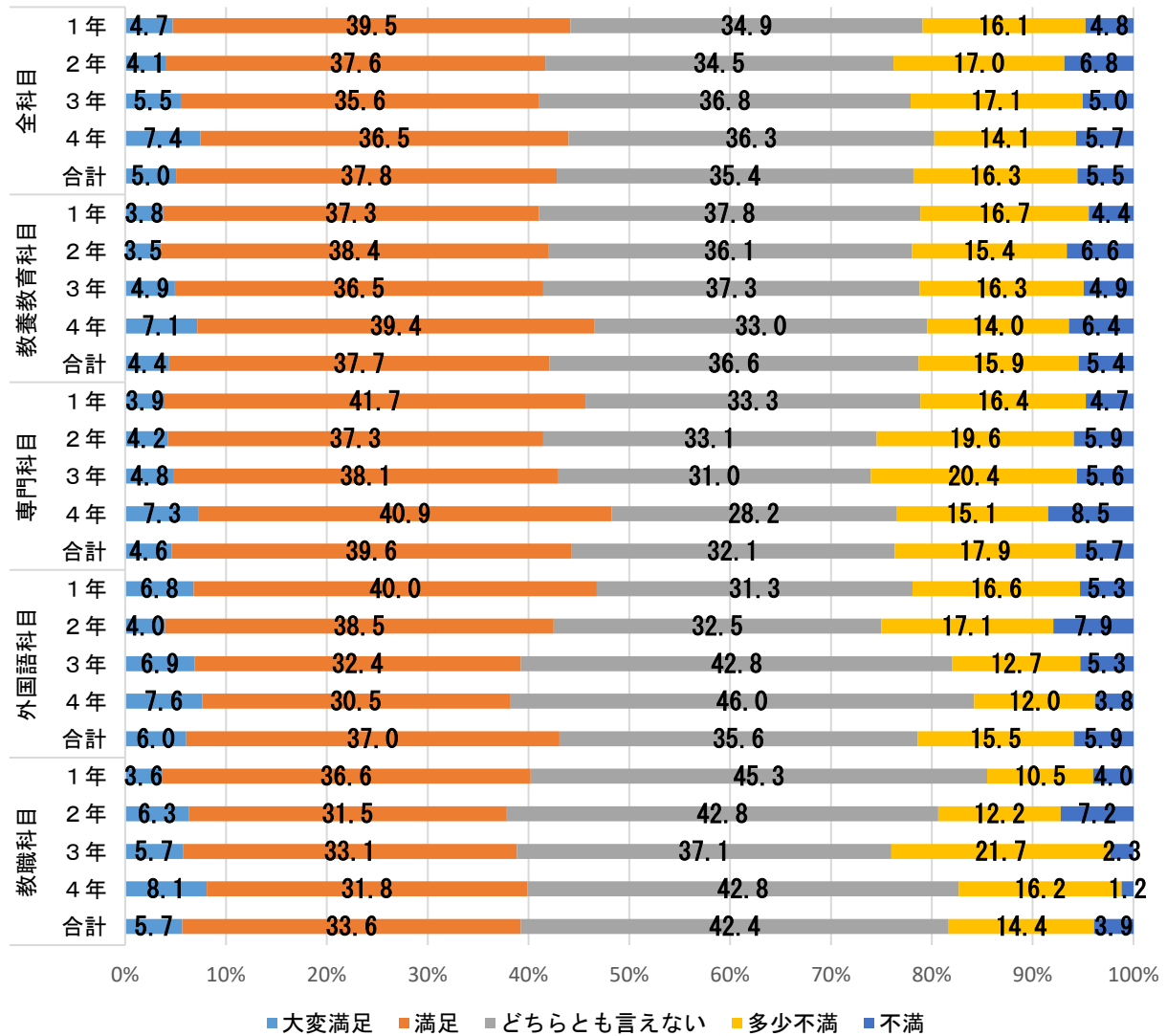
学部別・科目別では、国際学部の外国語科目が52.7%、専門科目が47.0%、教職科目が45.8%、政経学部の専門科目が45.7%と高かった。一方で、「不満」「多少不満」という割合が高かったのは、外国語学部の教職科目が32.1%、専門科目が28.5%、教養教育科目及び外国語科目が27.1%、工学部の外国語科目が25.1%であった。

学年別では、1年44.2%、2年41.7%、3年41.1%、4年43.9%であり、学年別・科目別では、4年の専門科目が48.2%、1年の外国語科目が46.8%、4年の教養教育科目が46.5%と高かった。一方で、「不満」「多少不満」という割合が高かったのは、3年の専門科目が26.0%、2年の専門科目が25.5%、2年の外国語科目が25.0%であった。

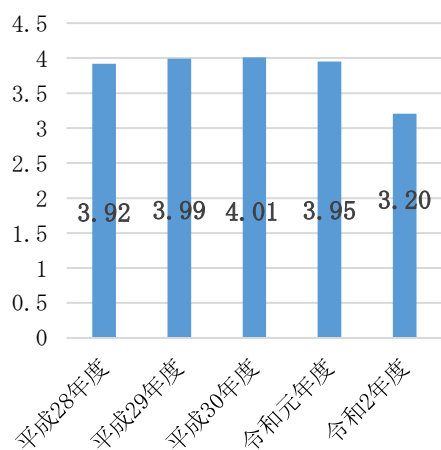
アンケート結果は総体的なものではあるが、満足度が低い科目においては、学生の興味を引き出す工夫や教育内容の改善方策の検討が必要である。



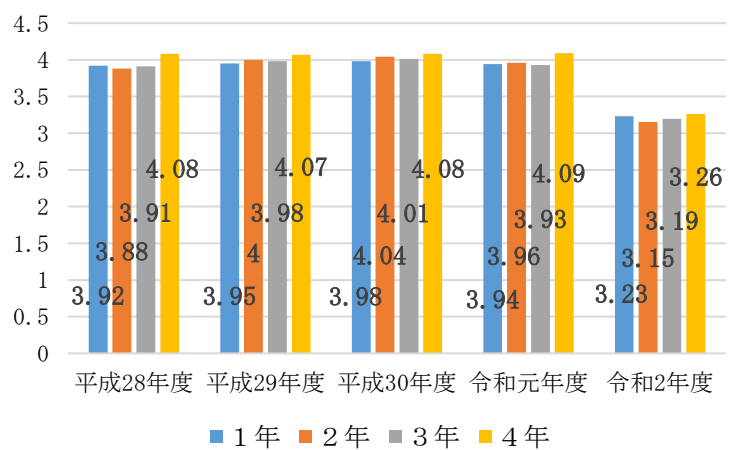
学年別・科目別の満足度



【参考】
満足度（平均値）の推移



【参考】
学年別の満足度（平均値）の推移



2. 理解度

「あなたが履修している○○○科目全般について理解度はどの程度ですか。」という質問を、教養教育科目、専門科目、外国語科目、教職科目を対象に行った。

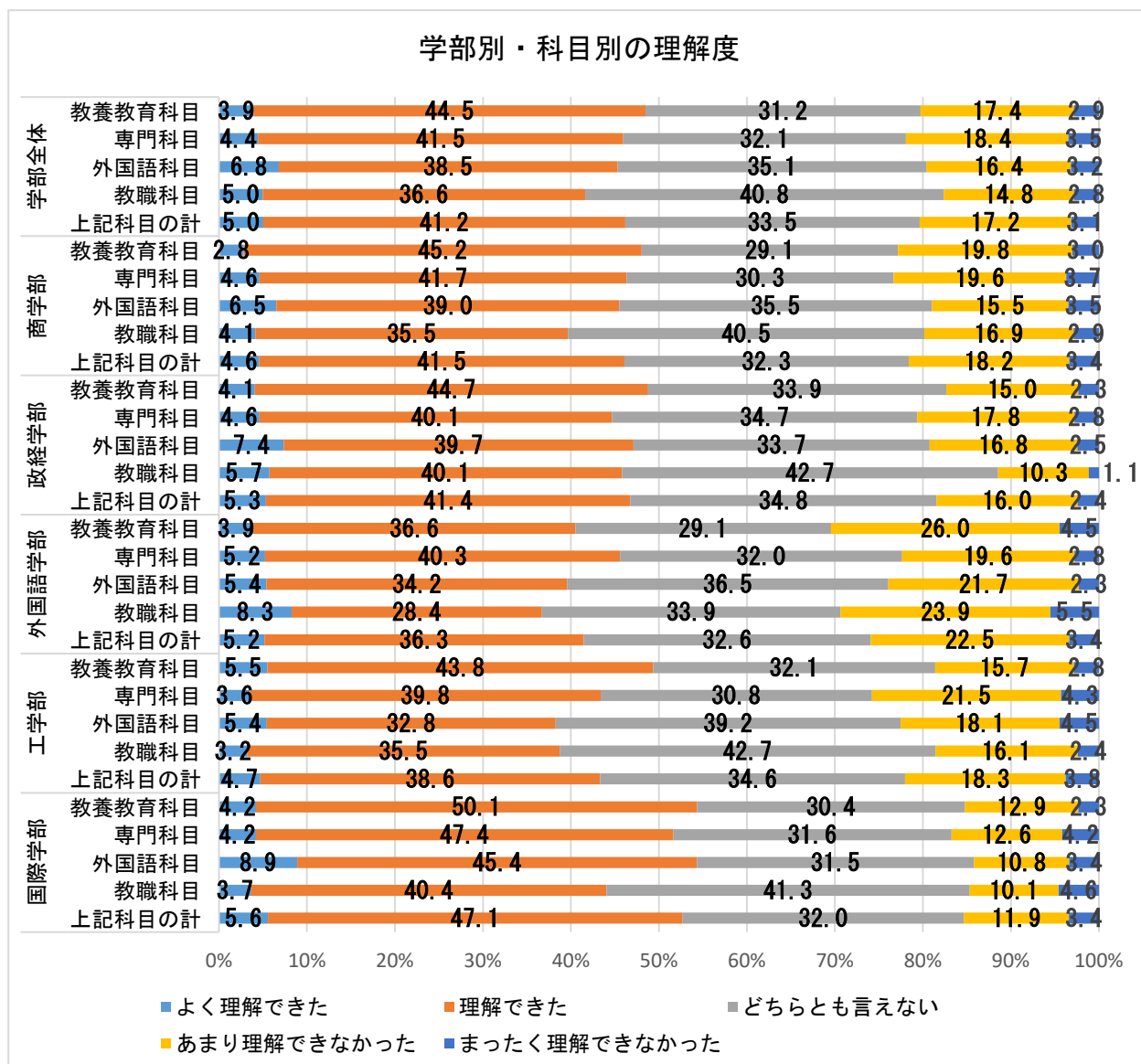
その結果、学部全体では、「よく理解できた」「理解できた」という割合が46.2%であった。科目別では、教養教育科目48.4%、専門科目45.9%、外国語科目45.3%、教職科目41.6%であり、教養教育科目が最も高かった。

また、学部別では、商学部46.1%、政経学部46.7%、外国語学部41.5%、工学部43.3%、国際学部52.7%で、国際学部が最も高かった。

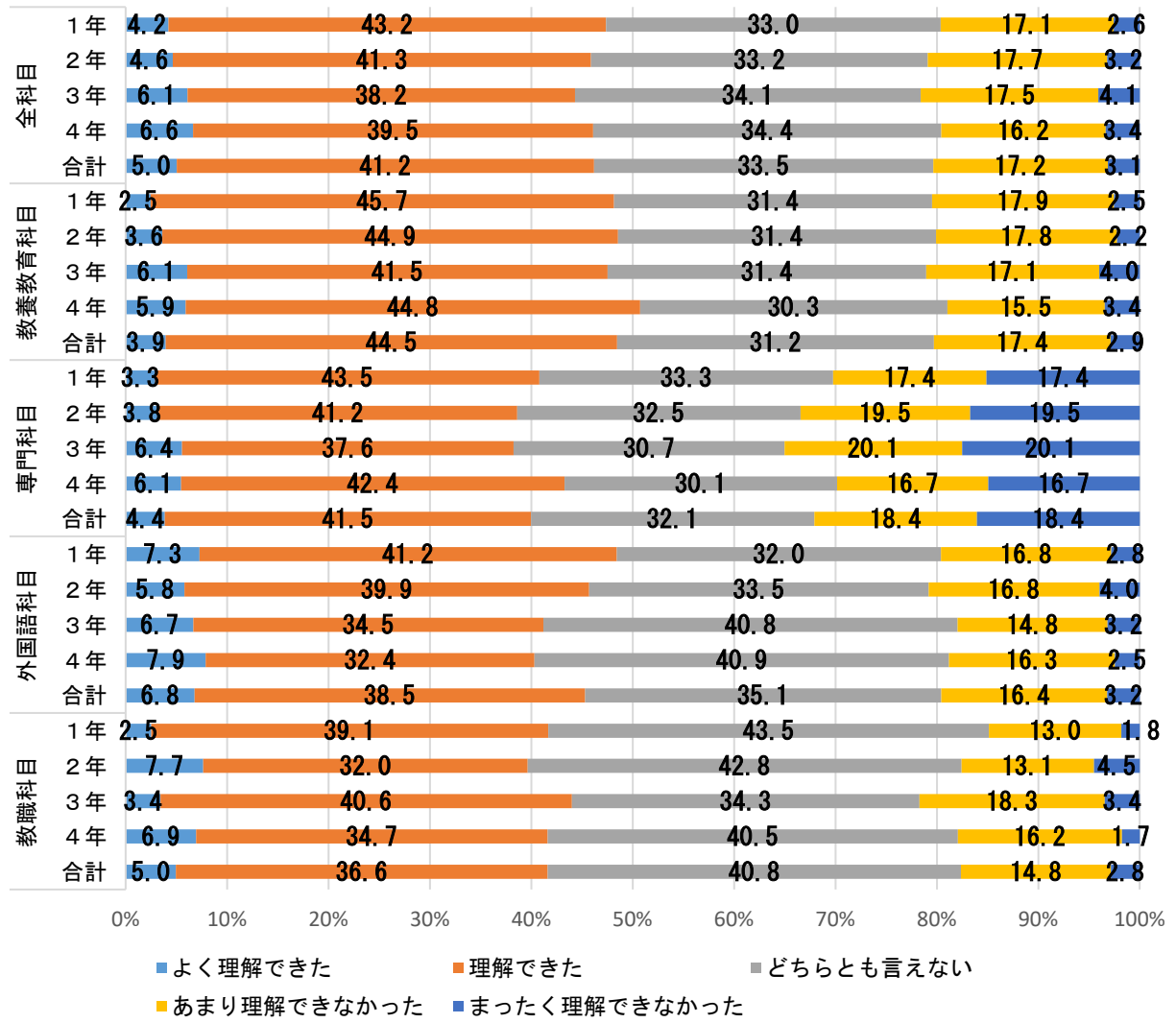
学部別・科目別では、国際学部の教養教育科目及び外国語科目が54.3%、専門科目が51.6%、工学部の教養教育科目が49.3%、政経学部の教養教育科目が48.8%と高かった。一方で、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」という割合が高かったのは、外国語学部の教養教育科目が30.5%、教職科目が29.4%、工学部の専門科目が25.8%であった。

学年別では、1年47.4%、2年45.9%、3年44.3%、4年46.1%であり、学年別・科目別では、4年の教養教育科目が50.7%、1年の外国語科目、2年の教養教育科目及び4年の専門科目が48.5%と高かった。一方で、「不満」「多少不満」という割合が高かったのは、3年の専門科目が40.2%、2年の専門科目が39.0%、1年の専門科目が34.8%であった。

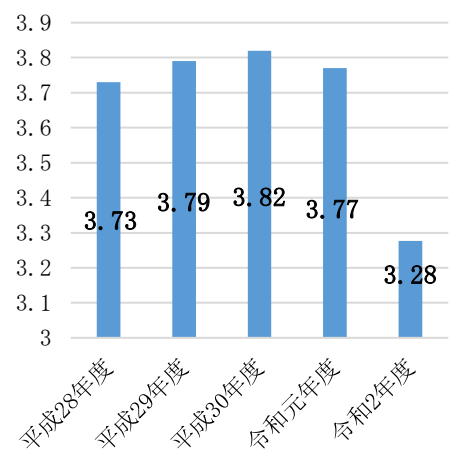
アンケート結果は総体的なものではあるが、理解度が低い科目においては、教育方法や教育内容の改善方策の検討が必要である。



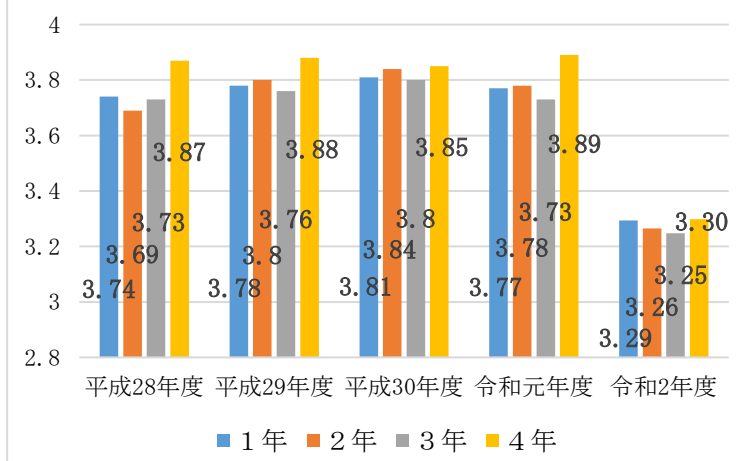
学年別・科目別の理解度



【参考】
理解度（平均値）の推移



【参考】
学年別の理解度（平均値）の推移



3. 課題の分量

「ここまでの○○○科目全般における課題の分量はどの程度ですか。」という質問を、教養教育科目、専門科目、外国語科目、教職科目を対象に行った。

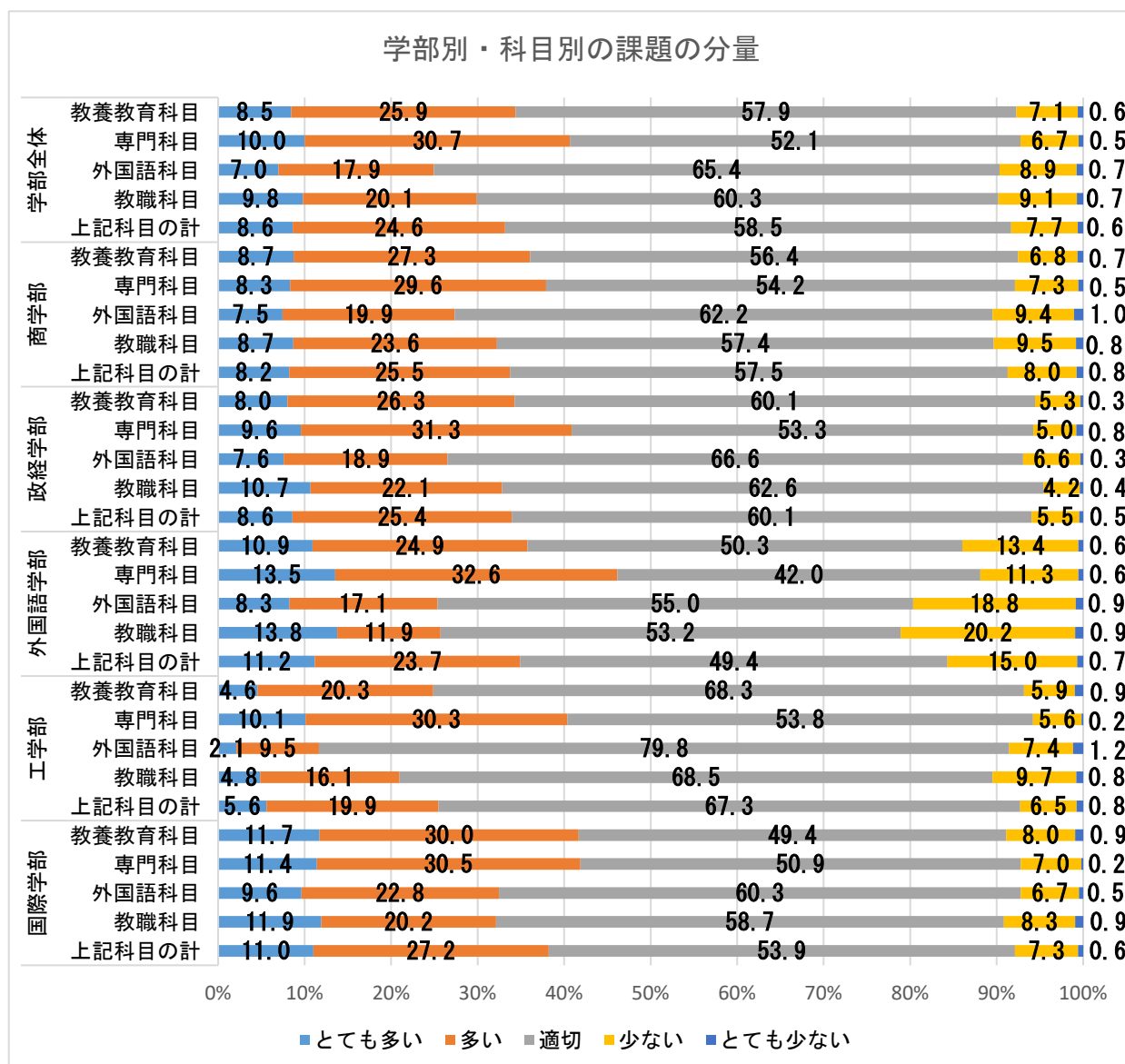
その結果、学部全体では、「とても多い」「多い」という割合が33.2%であった。科目別では、教養教育科目34.4%、専門科目40.7%、外国語科目24.9%、教職科目29.9%であり、専門科目が最も高かった。

また、学部別では、商学部33.7%、政経学部34.0%、外国語学部34.9%、工学部25.5%、国際学部38.2%で、国際学部が最も高かった。

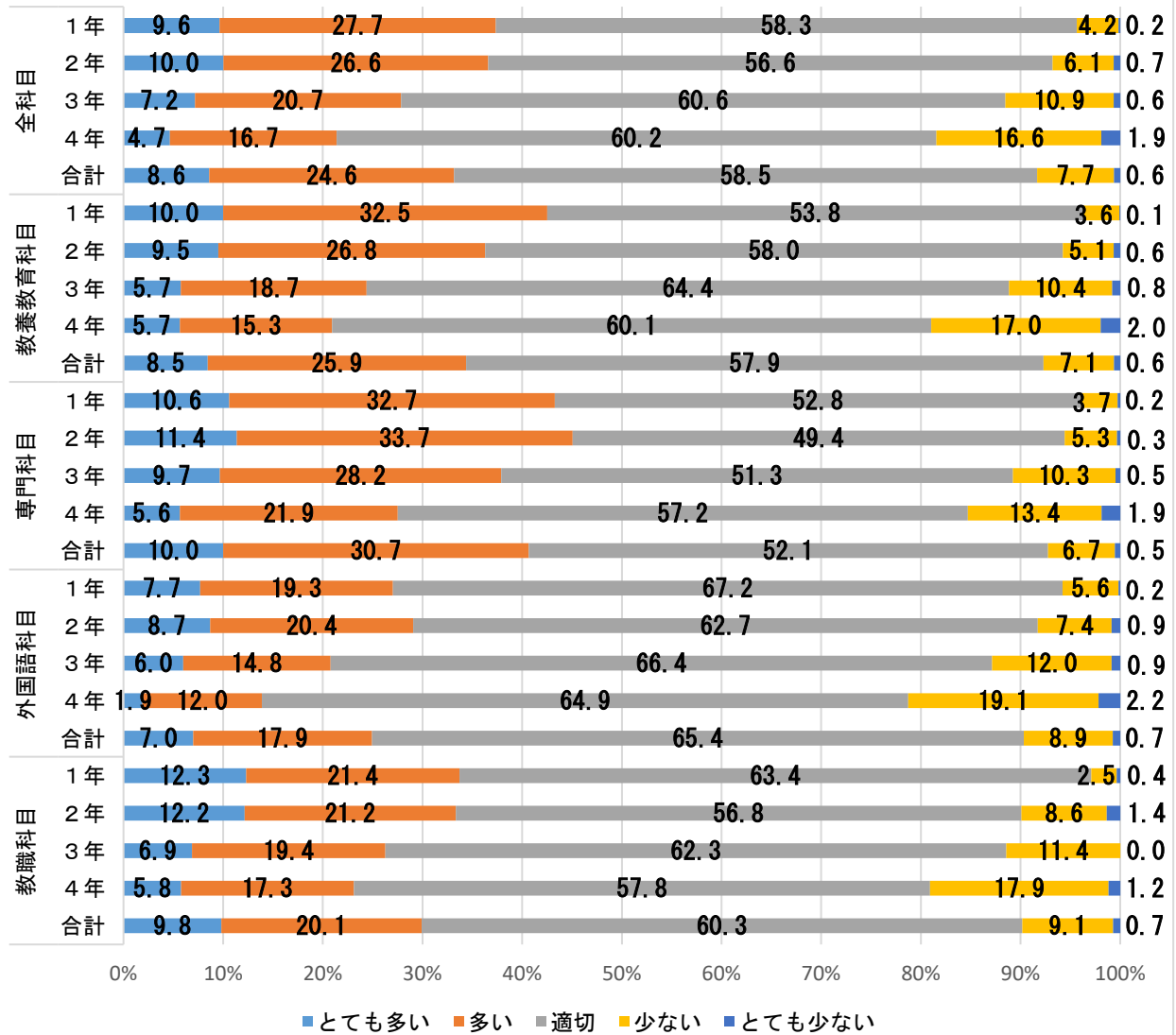
学部別・科目別では、外国語学部の専門科目が46.1%、国際学部の専門科目が41.9%、教養教育科目が41.7%、政経学部の専門科目が40.9%であった。一方で、「とても少ない」「少ない」という割合が高かったのは、外国語学部の教職科目が21.1%、外国語科目が19.7%、教養教育科目が14.0%であった。

学年別では、1年37.3%、2年36.6%、3年27.9%、4年21.4%であり、学年別・科目別では、2年の専門科目が45.1%、1年の専門科目が43.3%、1年の教養教育科目が42.5%であった。一方で、「少ない」「とても少ない」という割合が高かったのは、4年の外国語科目が21.3%、4年の教職科目が19.1%、4年の教養教育科目が19.0%であった。

アンケート結果は総体的なものではあるが、「適切」という割合も、工学部の教職科目68.5%が最も高く、外国語学部の専門科目42.0%が最も低かった。教育の質を高めるために、さらに課題の内容及び分量についての検討が必要である。



学年別・科目別の課題の分量

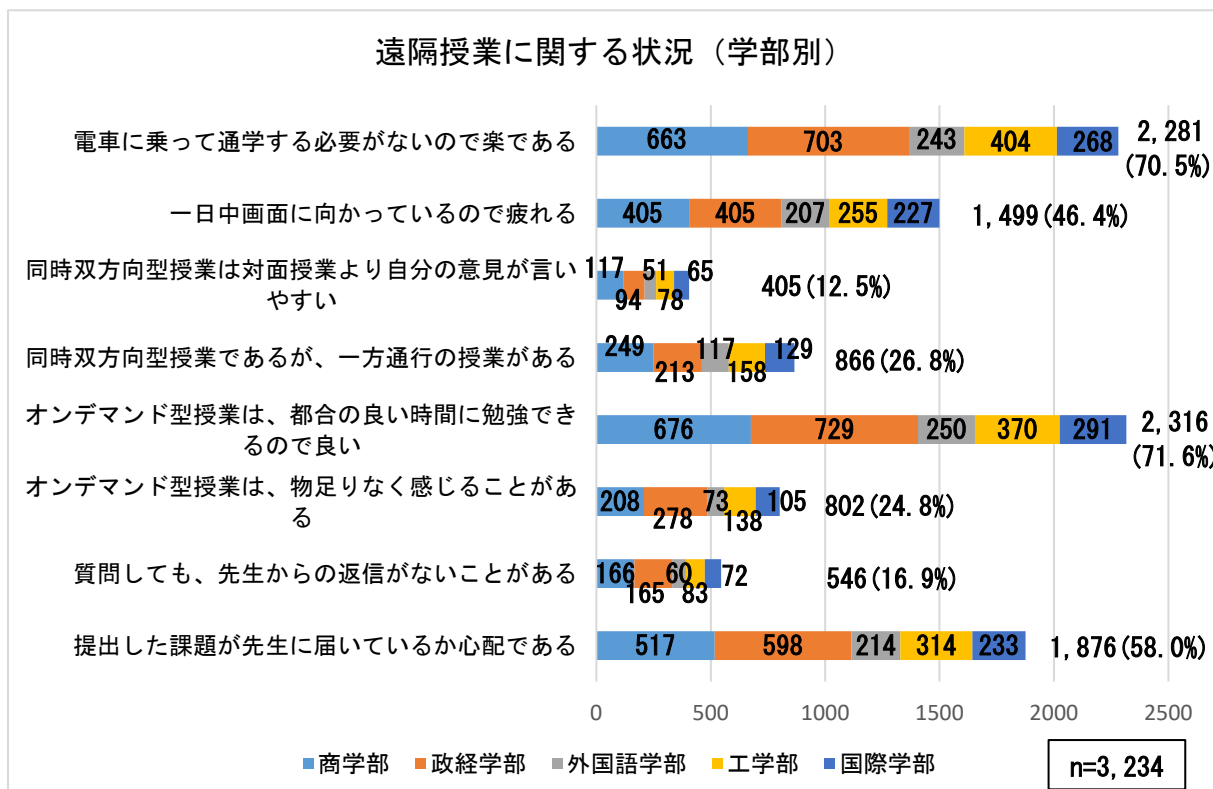


4. 遠隔授業

「これまでの遠隔授業全般について、自分の状況に当てはまるものを教えてください。（複数回答可）」という質問を行った。その結果、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」が70.5%（2,281件）である一方、「一日中画面に向かっているので疲れる」が46.4%（1,499件）であった。同時双方向型授業については、「対面授業より自分の意見が言いやすい」が12.5%（405件）と低く、「一方通行の授業がある」が26.8%（866件）となっており、授業科目によっては、授業方法に課題があると言える。一方、オンデマンド型授業については、「物足りなく感じることもある」が24.8%（802件）であるが、「都合の良い時間に勉強できるので良い」が71.6%（2,316件）であることから、授業形態としての満足度は高いと推測できる。「質問しても、先生からの返信がないことがある」が16.9%（546件）で、「提出した課題が先生に届いているか心配である」が58.0%（1,876件）であり、教員側からの積極的な情報発信が求められる。

また、学年別では、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」「提出した課題が先生に届いているか心配である」に対する回答率の差は見受けられないが、その他の項目に対する回答率は、高学年ほど比率が低い傾向にある。特に、「一日中画面に向かっているので疲れる」は、1年52.1%に対し4年は30.2%であり、これは受講科目数との関連が推測される。また、「同時双方向型授業であるが、一方通行の授業がある」は、2年30.8%に対し4年は18.3%で、「質問しても、先生からの返信がないことがある」は、1年18.6%に対し4年は11.7%である。これは4年の授業は少人数科目が多く、きめ細かな授業が実施されていることに起因するものと思われる。

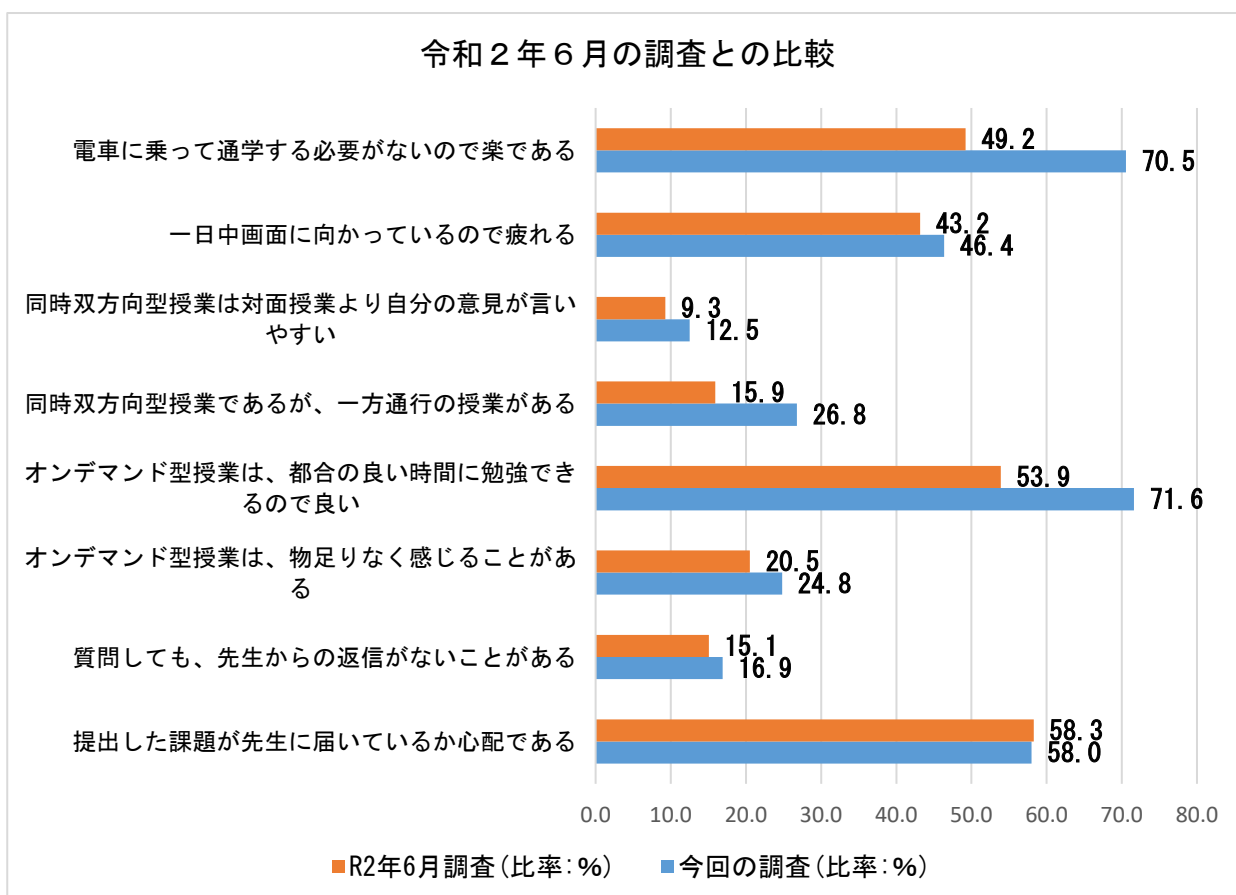
前回（令和2年6月）調査との比較では、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」が21.3%、「オンデマンド型授業は、都合の良い時間に勉強できるので良い」が17.7%上昇しており、時間の制約がない状況に対する満足度は高くなっている。また、「同時双方向型授業であるが、一方通行の授業がある」が10.9%上昇しており、教員側における授業改善の必要性が窺える。そのほかの項目は大幅な変化は見受けられない。



遠隔授業に関する状況（学年別）

項目	1年 (n=1,222)		2年 (n=944)		3年 (n=641)		4年 (n=427)	
	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)
電車に乗って通学する必要がないので楽である	853	69.8 %	653	69.2 %	467	72.9 %	308	72.1 %
一日中画面に向かっているので疲れる	637	52.1 %	470	49.8 %	263	41.0 %	129	30.2 %
同時双方向型授業は対面授業より自分の意見が言いやすい	162	13.3 %	120	12.7 %	81	12.6 %	42	9.8 %
同時双方向型授業であるが、一方通行の授業がある	352	28.8 %	291	30.8 %	145	22.6 %	78	18.3 %
オンデマンド型授業は、都合の良い時間に勉強できるので良い	892	73.0 %	702	74.4 %	459	71.6 %	263	61.6 %
オンデマンド型授業は、物足りなく感じることもある	334	27.3 %	232	24.6 %	141	22.0 %	95	22.2 %
質問しても、先生からの返信がないことがある	227	18.6 %	168	17.8 %	101	15.8 %	50	11.7 %
提出した課題が先生に届いているか心配である	697	57.0 %	560	59.3 %	365	56.9 %	254	59.5 %

令和2年6月の調査との比較



【意見・要望】

自由意見欄「遠隔授業について、改善してほしい点があれば具体的に書いて下さい。」を設けて、学生の意見を求めた結果、遠隔授業の環境、授業形態（オンデマンド型授業、同時双方向型授業、対面授業）、授業内容・授業方法、レポート課題の分量・提出期限、成績評価など幅広い項目で、様々な貴重な意見をいただいた。中には、具体的に授業科目名や担当教員名を記載した意見もあり、提出された意見・要望等は、学部・学科や個々の教員にフィードバックして、今後の授業改善等に役立てることとしている。

なお、寄せられた意見・要望等は総数で1,000件を超えていたため、いくつかの意見を抽出し、記載させていただくこととした。

○遠隔授業の環境について

- ・BB、Teams、Zoomなど授業を行うプラットフォームや課題の提出先にばらつきがあり把握がしづらいので、できれば統一していただけると嬉しいです。
- ・Teamsを使う授業とzoomを使う授業があり、混乱してしまう事があったので、使うアプリをどちらか1つに統一していただけると嬉しいです。
- ・Bbの課題欄があるのに、Googleフォームで課題を提示してくるのは少し理解できなかったため統一してほしいです。
- ・学校のネットは不安定な状態が結構多いので、授業に参加できなくなることが困ります。
- ・先生側の通信環境が悪く、声がよく聞こえないことがある。
- ・自宅の回線が悪く、テストや課題の読み込みや送信に時間がかかったり、オンライン授業や記入中にサーバーが落ちてしまうこともあった。
- ・TakudaiPortalがスマートフォンのUIに対応してほしいと思っています。
- ・スマートフォンでもバグらないように調整してもらいたい。

○遠隔授業全般について

- ・遠隔授業は通学面で楽な反面、思い描いていた大学生活とは大きくかけ離れたものになってしまいました。
- ・遠隔授業だと楽な姿勢で授業に望むことが出来るので、自分の空間で集中して課題に取り組むことが出来た。
- ・遠隔授業になったことで勉強への意欲も取り組む時間も大幅にアップしました。自分は家が大学からとても遠く電車を使っての通学は感染症の心配もあり、今年の春はとても不安でした。ですが遠隔授業を取り入れてくださったことで今年度は安心して勉学に臨むことができました。
- ・遠隔授業はやっている意味がない。高い学費を払っているのに身になっていないと思えない。工学部の実験も先生がやってまったく自分の身にならずほんとにわからない。対面の授業にしてほしい。
- ・先生と学校側で意見があっていない時があったのできちんと確認してほしいと思いました。（リアルタイム授業が休みなのに授業をしている先生もいた。）

○オンデマンド型授業について

- ・オンデマンドでは、講義の資料、音声ファイルを視聴し課題に取り組むという繰り返しですが、課題自体かなり時間を要するものもあり非常に大変です。
- ・オンデマンド型で授業をする場合、ある程度聞きやすい、また見やすい動画であってほしい。雑音が入っていたり音量が小さかったりでほとんど聞こえないものや、画質が悪すぎて文字が見えない動画だとモチベーションが下がる。
- ・オンデマンド授業で、文書やPowerPoint資料のみを載せる授業があります。詳細で分かりやすい解説があれば文書のみでも全く問題ないので、詳細な解説がついていると大変ありがたいです。
- ・オンデマンドの授業で、課題が多い授業があるのですが、最近先生のフィードバックが追いついていない印象があります。

○同時双方向型授業について

- ・オンライン講義の方が意見を言いやすいことには必ずしもつながらない。ディスカッションを中心に学生の間で主体的に取り組めば、より学習定着率は向上して、学習へのモチベーションが湧きやすい。なるべく対面の授業と同程度の質に授業を提供する様に教員側の創意工夫や努力を期待したい。
- ・オンライン授業はずっとパソコンの画面を見ていなければならないため、とても疲れる。対面授業ではないため講義の理解度が落ちてしまうのは仕方がないと思っている。しかし、その理解度が落ちる部分を毎回の講義の課題でカバーしようとするのは話が違ふと思う。
- ・同時双方向型の授業だと都合のいい時間に受けられないことも多く、ネット環境が悪いと何も聞こえないことや、音声聞きづらい、映像が乱れることなどがあつた。そのため、オンデマンド型授業の方がよかった。
- ・同時双方向型の授業については、学生がよく話を聞いておらず授業の進みが遅くなることや一度自分の発言が終わったら授業を抜け出す学生がおり先生がいくら頑張ってもどうにもできない状況になっていると感じました。
- ・オンライン上で初対面の学生同士でのグループワークは精神的にも活動時間的にも大変難しく、正直困惑していることが多いので、簡単なグループセッションならわかるが本格的なグループワークはできれば避けてほしいと思った。

○対面授業について

- ・やはり対面授業じゃないと理解度が違ってきてしまうのでこの1年でオンライン授業だと少し物足りなく感じました。せっかく大学生なので来年こそは対面でしっかり学びたいです。
- ・授業の内容によってはオンラインのほうが良いという場合もあるが、対面の授業のほうが有効な授業（言語系・簿記などの多くの質問があるもの）は、来年度は対面にしてほしい。
- ・実験、プログラミングや製図など実際に手を動かして理解していく授業に関しては対面でしか理解できないところもあると思った。
- ・他校に通学している友人に話を聞くと圧倒的に登校頻度が低いと感じている。通信制ではないのだから、もう少し実技を行いたかった。
- ・専門科目はやはり対面で先生だけでなく同じ授業を受けている人との意見交換がしたいと感じました。
- ・対面授業の方が質問を聞きやすいです。
- ・対面授業への参加は任意のはずが、なぜ来れないのかと聞かれたり、別で課題を出しているのにも関わらず対面授業への参加者に比べて出席点が劣るといふようなことを言われるなど対面授業への参加が強制で、まるで行けないのが悪いような雰囲気は先生によってはありました。

○授業内容・授業方法について

- ・科目によって内容量に差がありすぎると感じたので、講義資料と課題を一方向的に送信して終わる授業ではなく、きちんと対面授業のクオリティに及ぶような映像と音声してほしい。
- ・教科書を読むだけ、資料を配るだけなどの授業は改善してほしい。
- ・レジュメ配布のみの授業があり、理解するのにとても苦戦します。動画でレジュメの内容を説明していただくと理解が深まると思います。
- ・講義資料や課題の内容は授業開始時間よりも早く提示してほしいです。
- ・授業時間を過ぎても会議を立ち上げない先生が数人います。
- ・授業時間的には30分ほどで終わってしまう授業があつたのでもう少し伸ばしてほしいと思いました。
- ・双方向の授業は後期から60分目安で行うと後期の初めに聞いたが、授業によっては、90分ギリギリ、もしくは90分を過ぎる授業があつた。
- ・授業時間にルーズになる先生が多い(90分以上やられる方も)と感じております。通信料の問題以上に、あとのコマに響きますので、改善をお願いします。
- ・グループワークをやる際は、特段の配慮があるとさらに良いと思った。

- ・ほとんど開かないのに教科書を買わせるのはやめてほしい。今までの授業でもそうでしたが、数ページしか使わないならPDFにでもして送ってほしい。
- ・先生の声が小さくて聞こえないことが多いです。（パソコンの音量を最大にしても小さい）

○レポート課題の分量・提出期限について

- ・テストの代替の課題の難易度が高すぎる科目もあるので、改善してほしい。
- ・軽い課題、重い課題どちらもあって良いと思うが重い課題の時はもう少し期限を伸ばして欲しい時がしばしばある。
- ・ほとんどすべての授業から課題が出され、期日も短いためとても大変です。課題の量や質を考慮して早めに課題の内容をアップするか期日に余裕を持たせてほしいと思います。
- ・授業理解が出来ているかの確認とはいえ、課題の量が多すぎる。レポートの課題もかなりの文字数を要求されるため追いつくことが出来ない。
- ・科目によって毎週出される課題の採点が返ってくる授業と帰ってこない授業があります。提出するのはいいのですが、採点されないと改善のしようがないので、課題を伴う授業では毎回しっかり採点をしてほしいです。
- ・課題は多くてちょっと難しいので、週末の時間も使って課題をする。そして毎週課題を発表するが、その点数は公開しないと、不安になる。
- ・課題のフィードバックもなければ課題が提出されているのかもわからない。
- ・課題提出した際に教授にちゃんと届いているのかが心配です。一言でもいいので提出できたという連絡が欲しいです。
- ・提出した課題を確認されていない先生がいる。こまめにチェックしてほしい。
- ・課題の提出期限がバラバラなので、統一できるのならしてほしい。
- ・課題の提出方法を1つのプラットフォームで完結するようにしてほしい。
- ・提出先が先生によってバラバラなのでそれを改善してほしい。

○成績評価について

- ・初めの授業の時に、成績評価の方法を教えてもらえない授業が多くあり予定が組みづらいです。
- ・出席も評価に反映すると告知のある授業で、出席を確認する日としない日があって、不平等だと思う。出席の取り方も明確にしてほしい。
- ・科目によっては課題の採点基準や評価のポイントなどを明確にしていない先生がいるので統一か、ポイントなどを明確に記載してほしい。
- ・よくわからない基準の採点をしてくる教授が数名いる。授業の趣旨とは関係ない減点をされるのは意味がわかりません。
- ・レポート課題だと点数のつけ方が教授の好みに分かれるので単位取得が心配。
- ・Wi-Fiの調子が悪い時に課題を提出できなかった時があり、機材の影響で成績が下がるのはやめてほしいです。

○授業料・施設費について

- ・遠隔授業になって利用できる大学のサービスや大学活動が減っている一方、学費は前と同じのは不合理ではないか。
- ・通学と同等の授業がなされていないのに、学費が例年通りであることが不思議です。学費をこのまま変更しないのなら、通学と同等の授業をしてほしい。
- ・遠隔授業を1年間行っていて授業内容に対しては満足しているが学費が安くならなのか。通常と同じは不満である。
- ・明らかに学費が高すぎます。授業料は変わらなくていいので施設利用料は1割ほどにするべきです。
- ・遠隔授業で大学に登校できていないにも関わらず、施設費を以前と同じ額取られることに不満を感じる。
- ・学費を半額くらい返してほしいです。寮にいないのに、一年基本光熱費や寮費を払い続けていますが、あんまりです。
- ・コロナ禍で金銭面的に難しい生徒がいることをもっと考えていただきたい。
- ・前期に5万配布してから後期は何もなしはおかしい。手当を厚くしてください。

○その他

- ・スクーリングがちょくちょくあると友達に会えるのは嬉しいが、定期が買えないので交通費がすごいことになる。
- ・特別授業期間も、定期を購入しないと大学に行くまでのお金が高く、行くことができませんでした。
- ・来年度以降対面授業を再開するのであれば一部の授業のみ対面というのはやめてほしい。その理由は交通費です。私の場合半年の定期代が6万円以上します。
- ・なぜ拓殖大学は授業再開ができないのでしょうか。再開している大学・短大、専門学校と拓殖大学の違いを明確にしてください。
- ・小中高はすでに再開しているのになぜ大学は再開しないのか分からない。早めに来年度の授業が対面授業なのか遠隔授業なのか決定してほしい。
- ・来期の授業も遠隔になる場合は、早めに告知をしていただけるとありがたい。
- ・実家に帰省しており、来年度が遠隔授業になるか否かという情報をできうる限り早く出してほしいと考えています。
- ・大学の決断をはっきりしてほしいです。今年度すべてオンライン授業だと早めに分かっていたら、地方から一人暮らしをしている学生はアパート1年分の家賃が浮いたはずで。
- ・ずっと一人でパソコンの画面と向き合い、多くの課題をこなし、友達はできませんでした。もう疲れました。
- ・毎回課題を一人でこなし、友達もいないのでわからないところも自己解決しなければならない、そんな日々を1年間続けて精神的にもきつい。
- ・もうすぐ4年生になるので早く学校に行けるようになって欲しいです。せっかく日本に留学しに来ているから、もっと大学生活楽しみたかったです。
- ・一刻でも早く学校へ通学するように願います。
- ・来年のコロナの状況が大丈夫なら、学校に行って授業を受けたいです。

○アンケートについて

- ・授業ごとのアンケートを取るべきなのではないか。そうしたことをしないと遠隔の問題点を解決することはできないと思う。
- ・授業ごとに月1回程度の学生アンケートを実施してほしい。授業への改善要望があっても授業期間が終わるころにアンケートをしては意味がない。
- ・アンケートはTakudai Portalのアンケート機能や今回のようにBlackboardを活用してほしい。
- ・このようなアンケートは自分を安心させます、ありがとうございました。

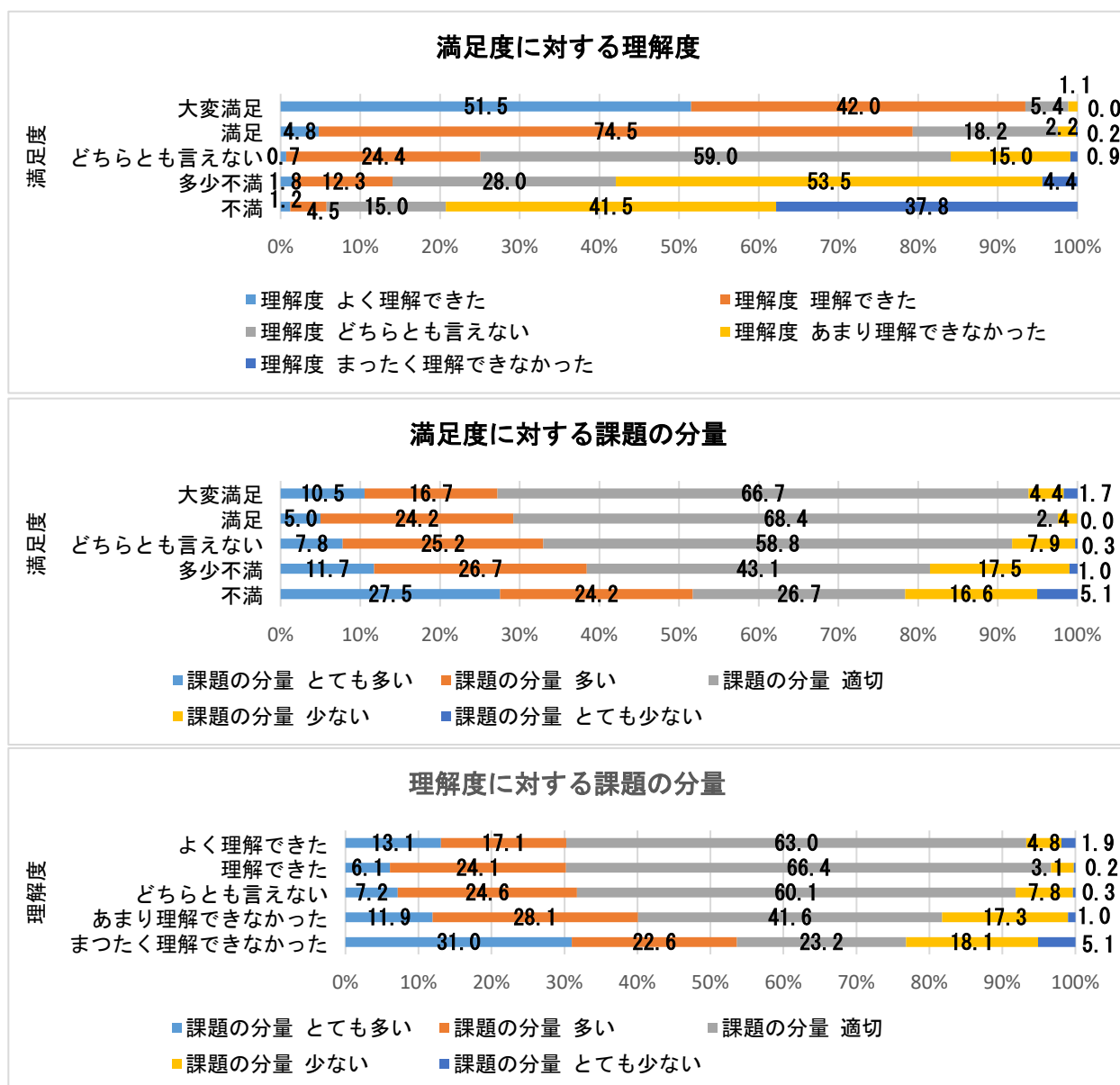
5. 満足度・理解度・課題の分量における相対比較

「満足度に対する理解度」「満足度に対する課題の分量」「理解度に対する課題の分量」について分析した結果は次のとおりである。

「満足度に対する理解度」においては、「大変満足」と回答した学生は「よく理解できた」「理解できた」の合計が93.5%で、一方「不満」と回答した学生は「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」の合計が79.3%であった。

「満足度に対する課題の分量」においては、「大変満足」又は「満足」と回答した学生は「適切」が70%に近いのに対し、「不満」と回答した学生は「とても多い」「多い」の合計が51.7%である一方で、「とても少ない」「少ない」の合計が21.7%である。「多少不満」と回答した学生は「少ない」が17.5%であることから、課題の分量の少なさが不満につながっているケースがあることが想定できる。「理解度に対する課題の分量」については、「満足度に対する課題の分量」と同様の傾向にある。

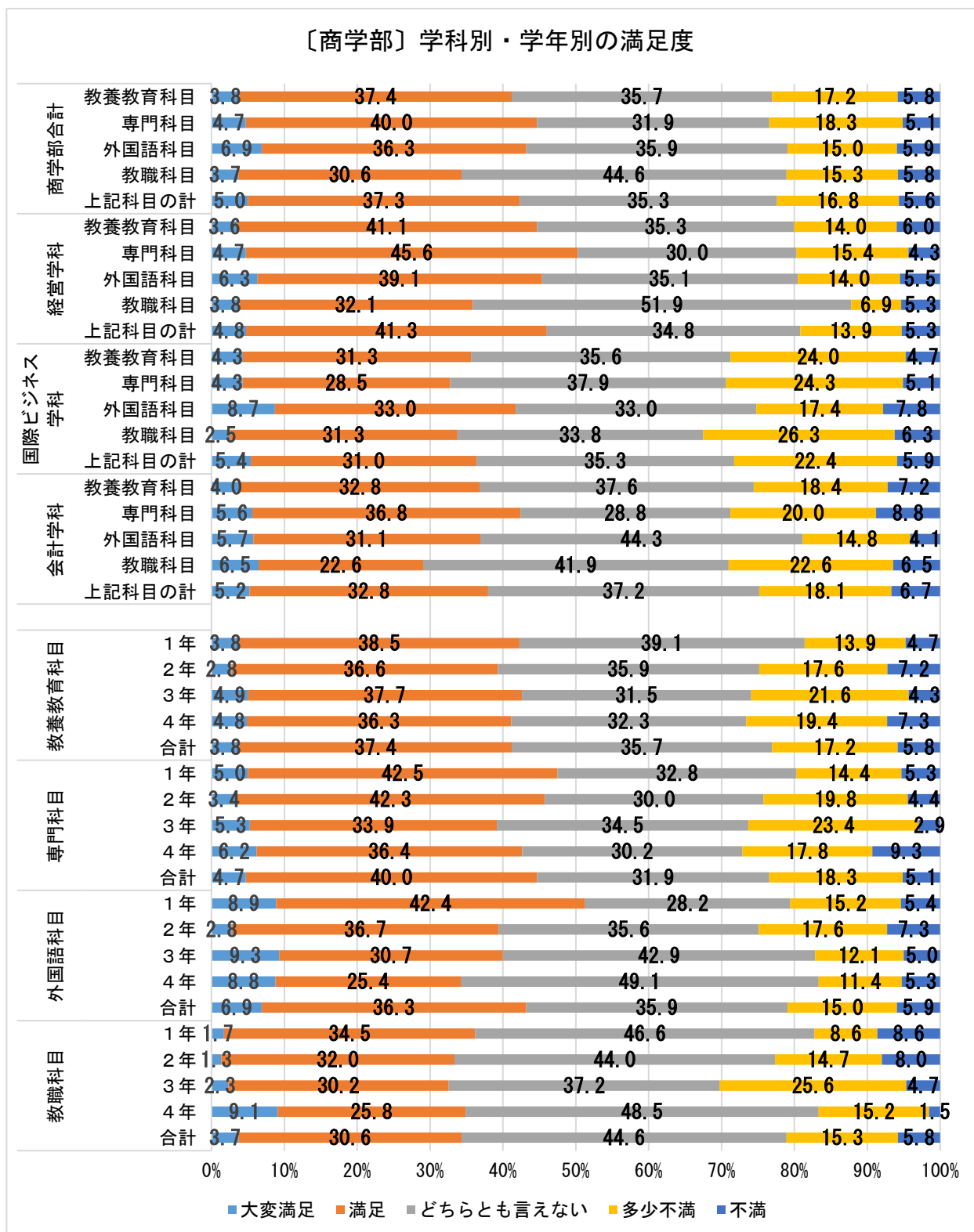
「満足度」と「理解度」は比例傾向にあり、「理解度」を高めることにより「満足度」も高まるものと想定できる。一方、「理解度」と「課題の分量」との相関関係は見受けられないことから、理解度を高めるためには、当然のことではあるが、「課題の分量」ではなく、授業方法や授業内容の工夫が必要となる。



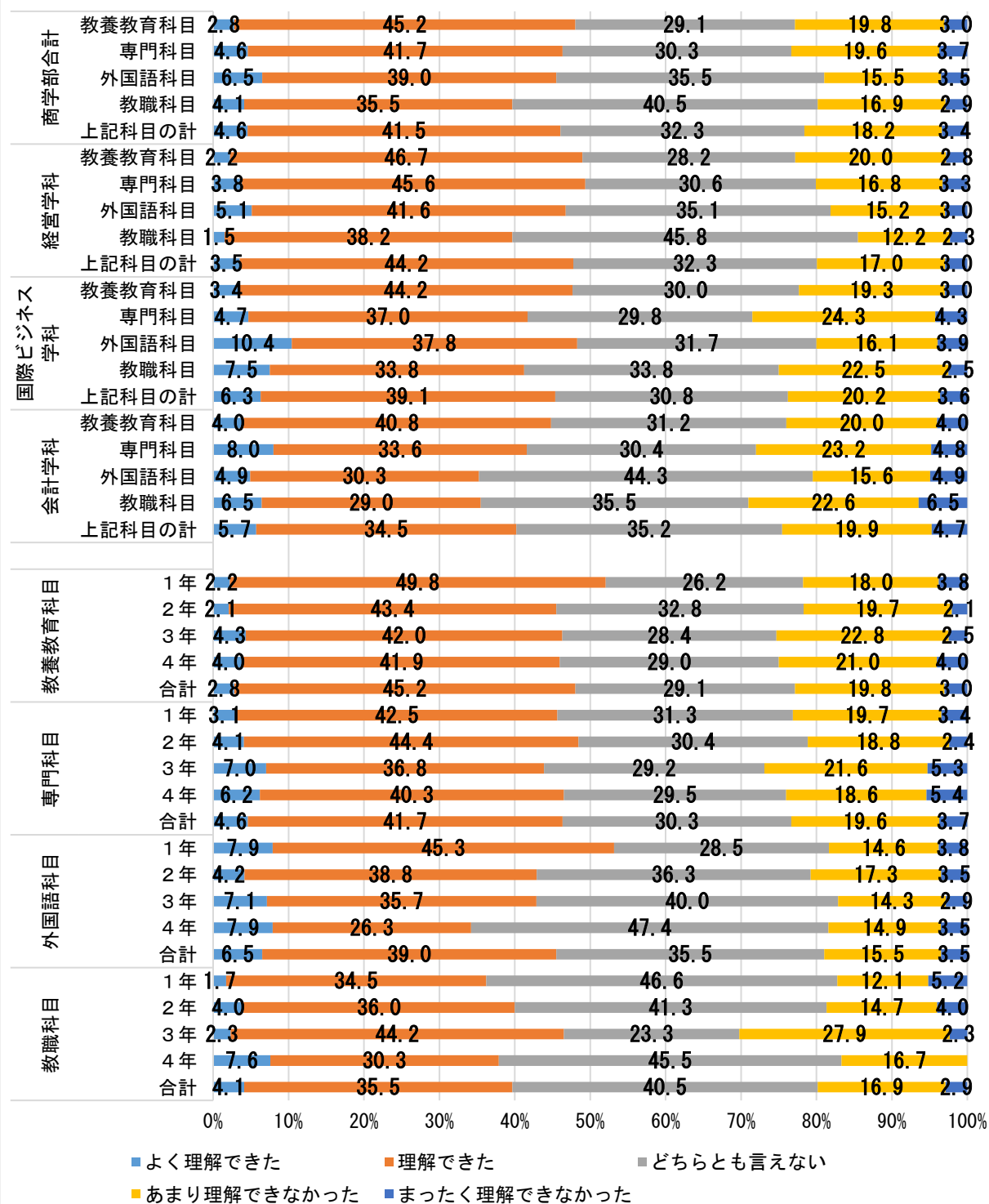
IV 学部別集計

1. 商学部

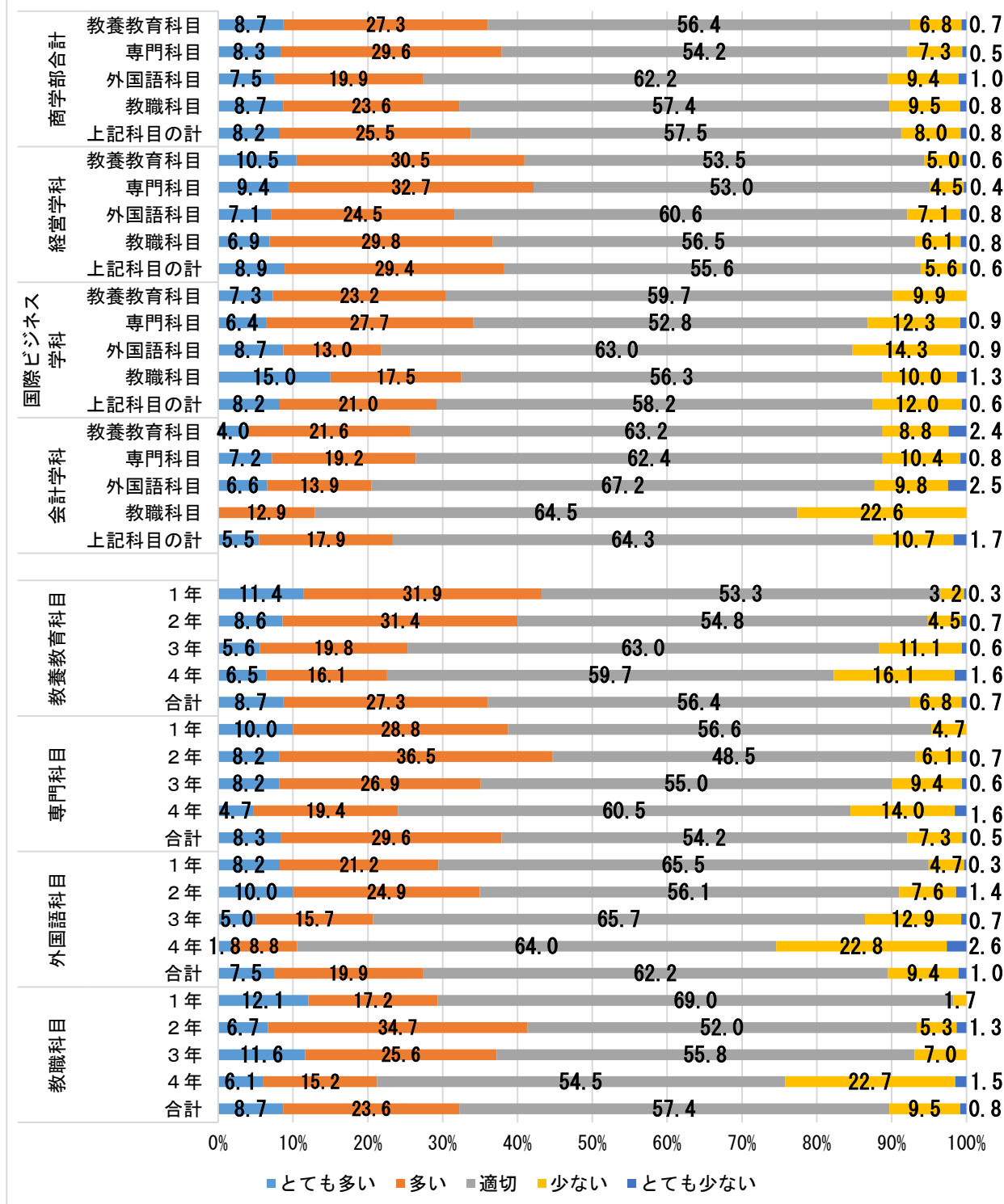
〔商学部〕 学科別・学年別の満足度



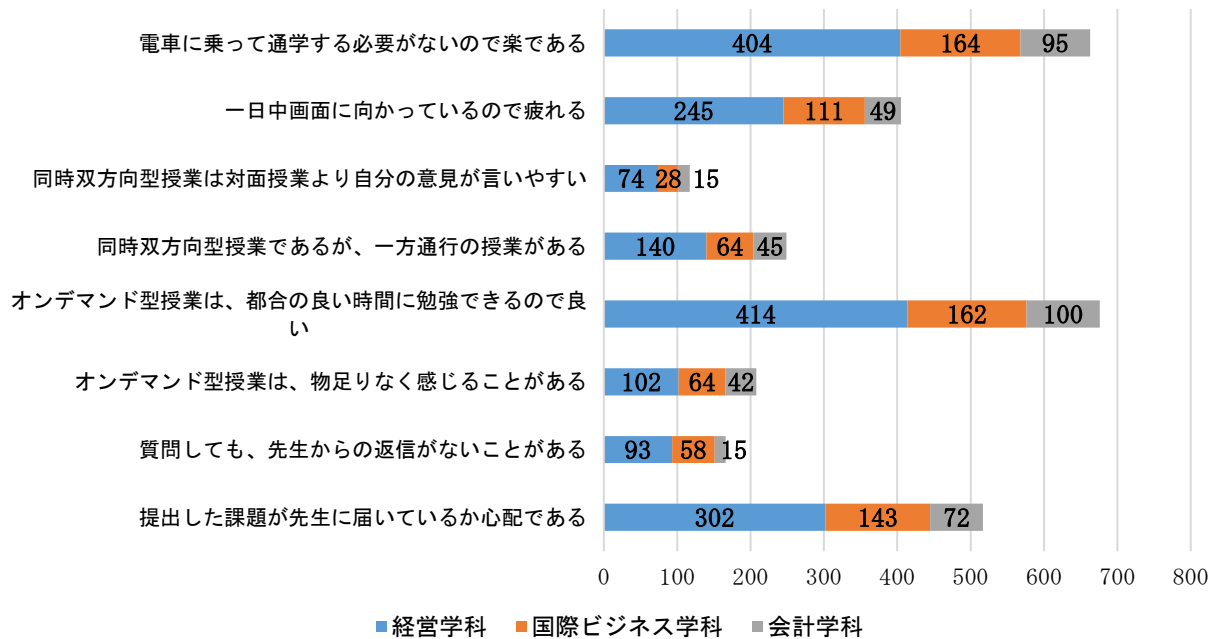
〔商学部〕 学科別・学年別の理解度



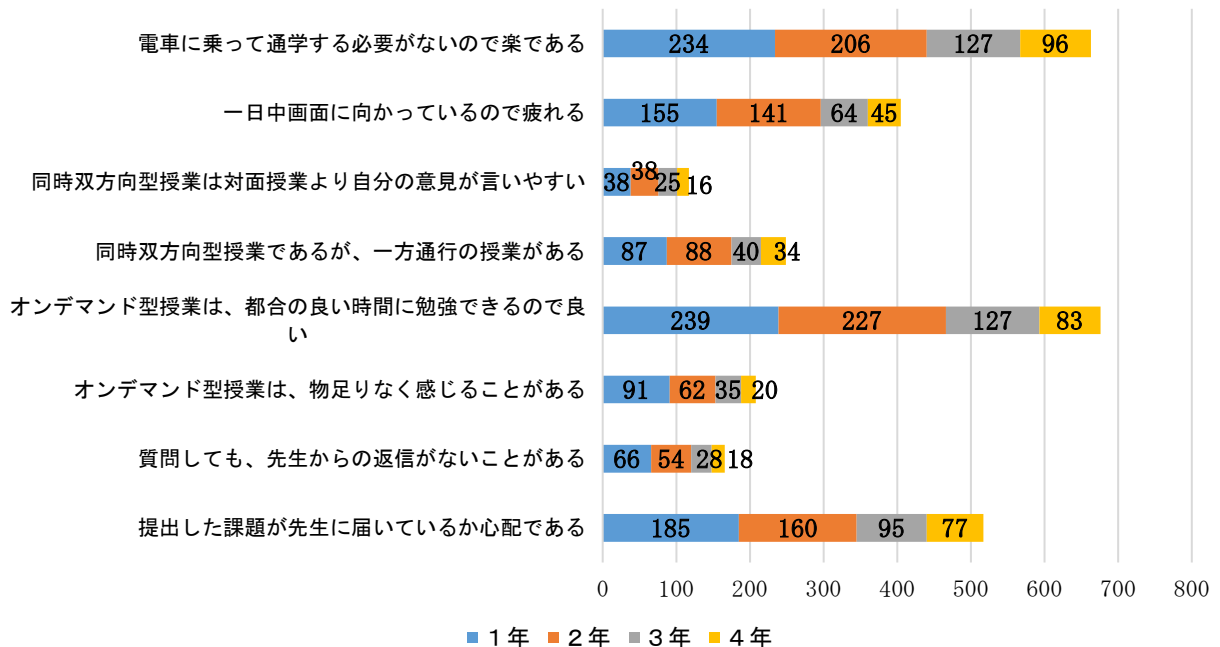
〔商学部〕 学科別・学年別の課題の分量



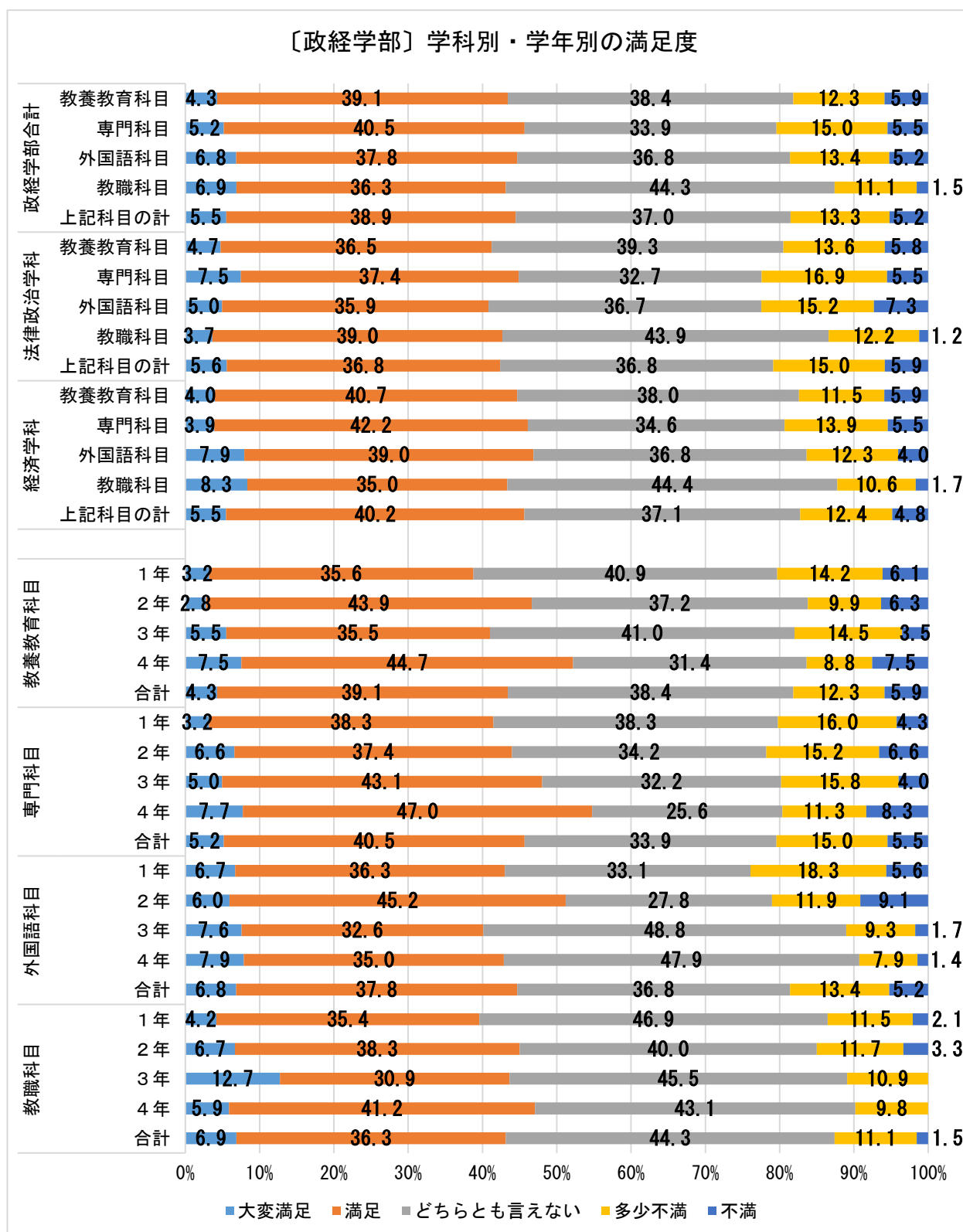
〔商学部〕 学科別の遠隔教育に関する状況



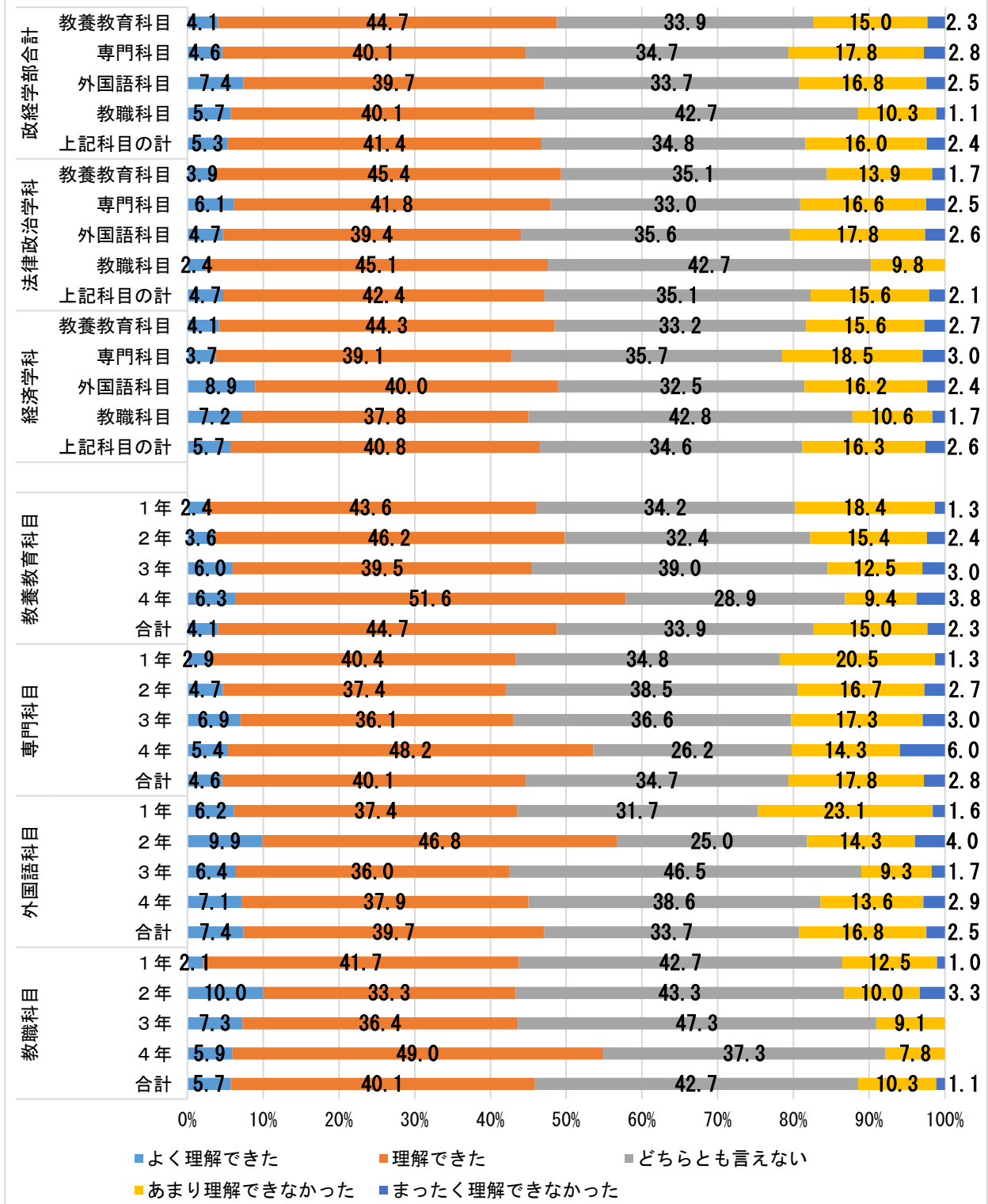
〔商学部〕 学年別の遠隔教育に関する状況



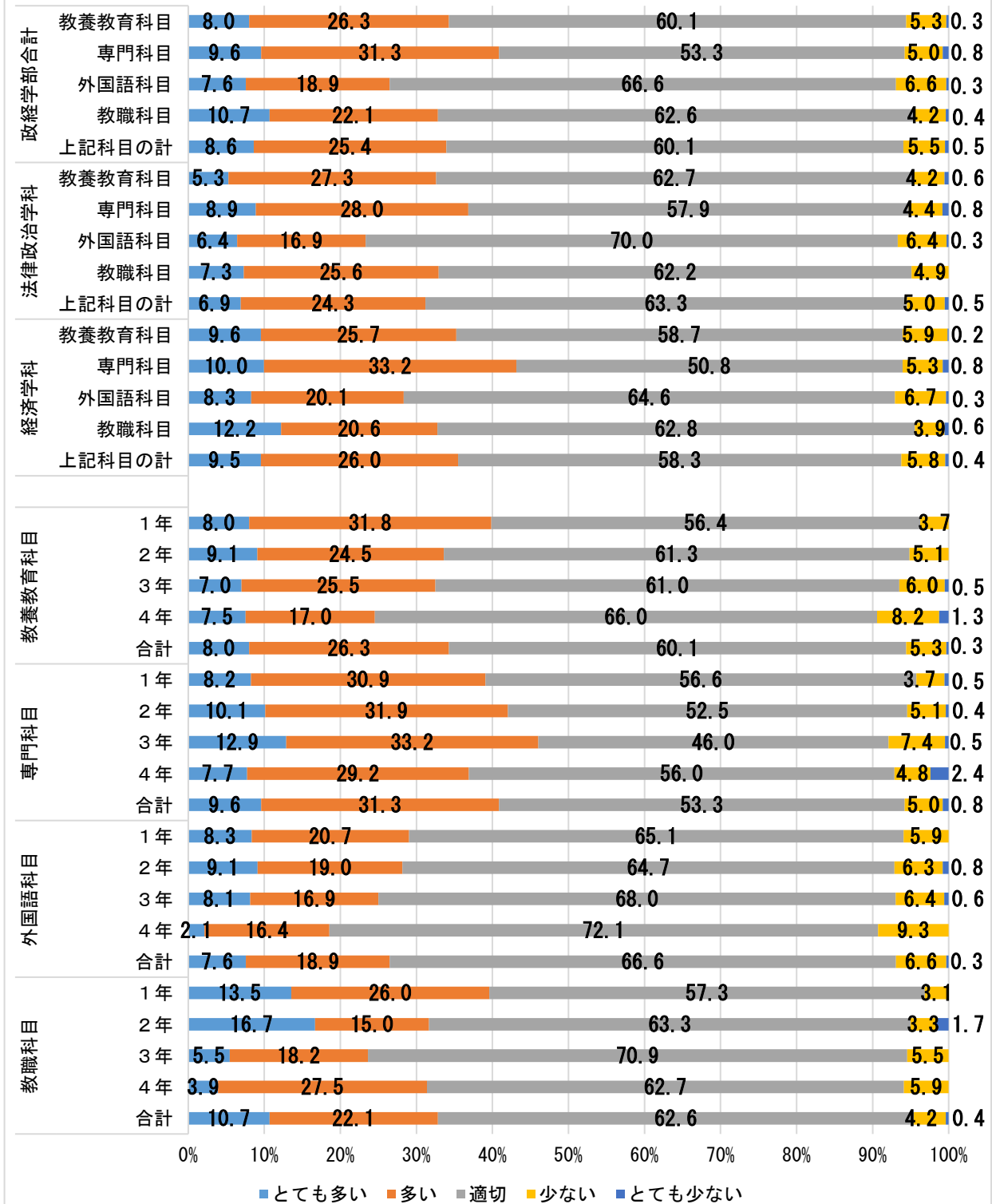
2. 政経学部



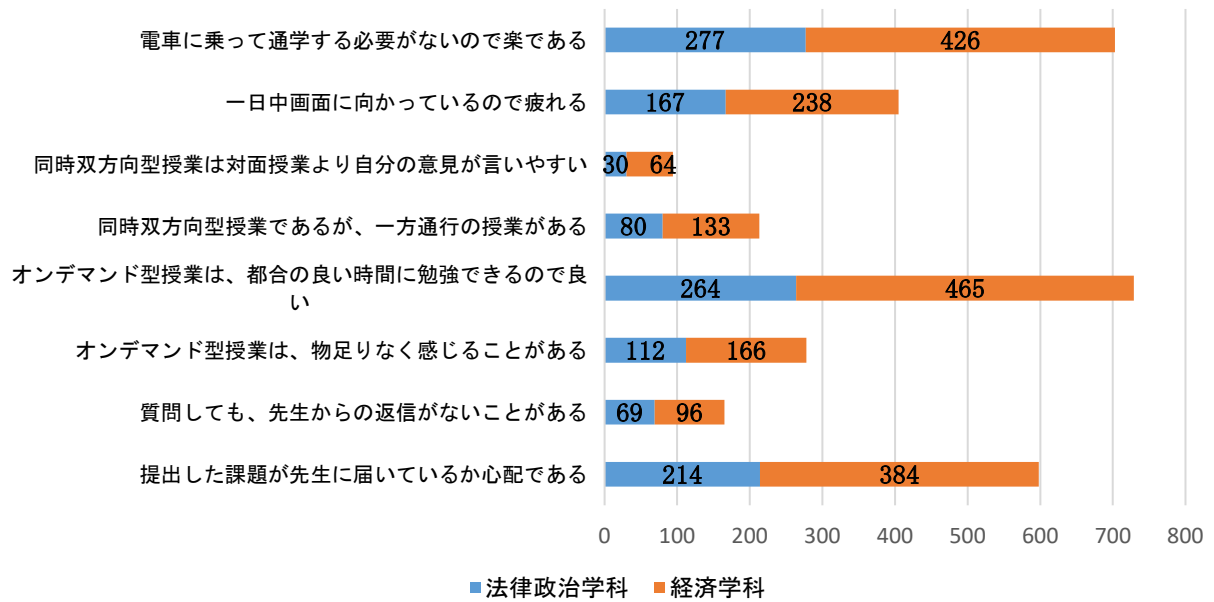
〔政経学部〕 学科別・学年別の理解度



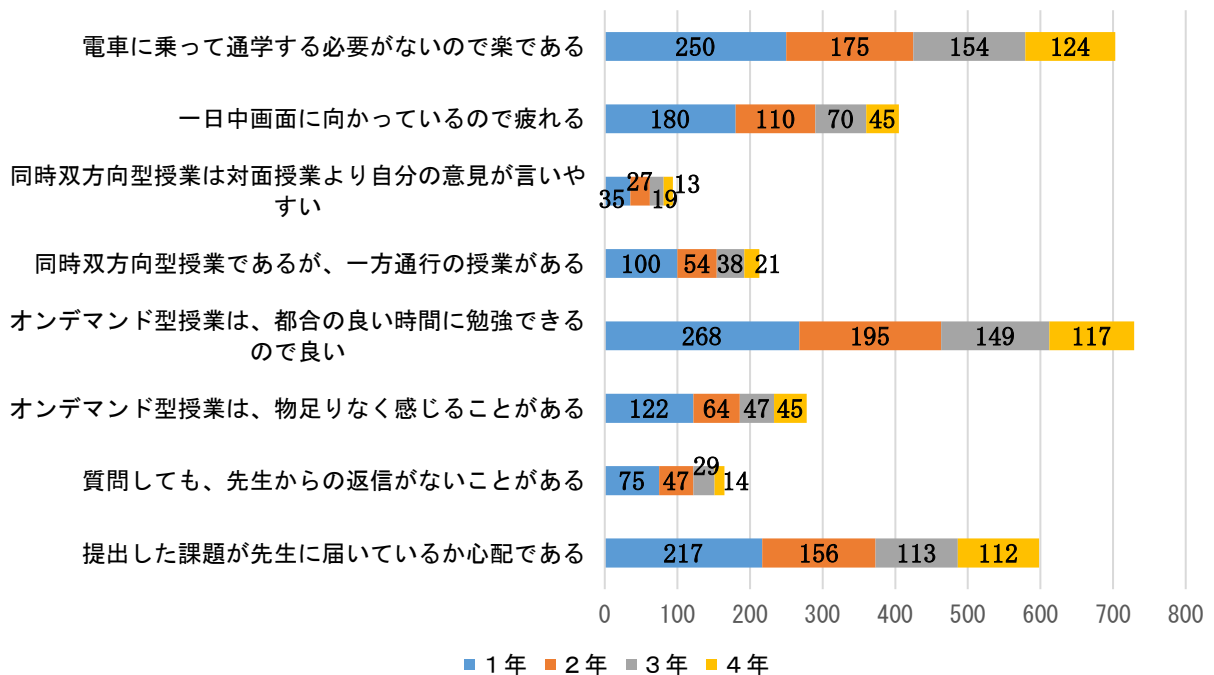
〔政経学部〕 学科別・学年別の課題の分量



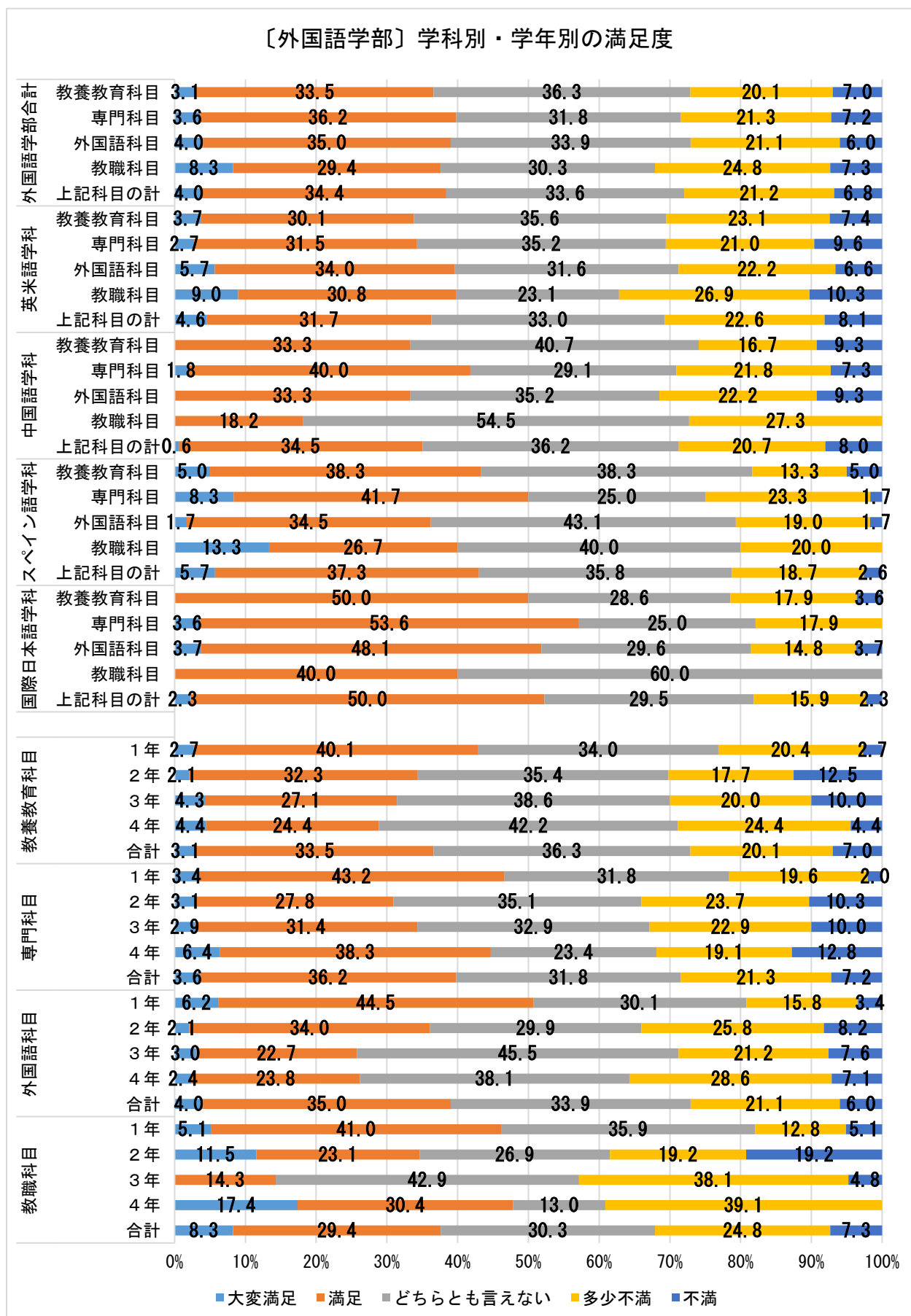
〔政経学部〕 学科別の遠隔授業に関する状況



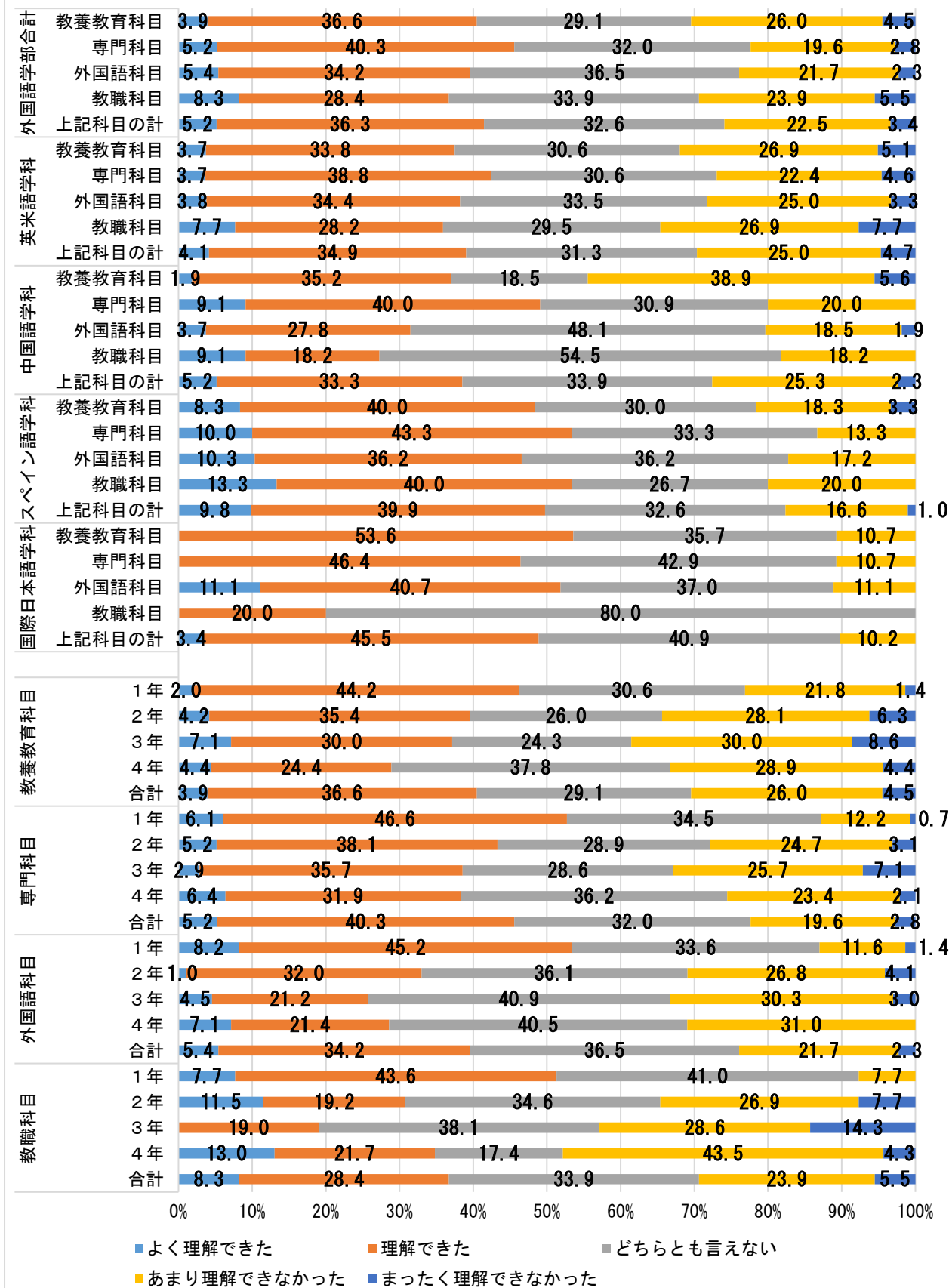
〔政経学部〕 学年別の遠隔授業に関する状況



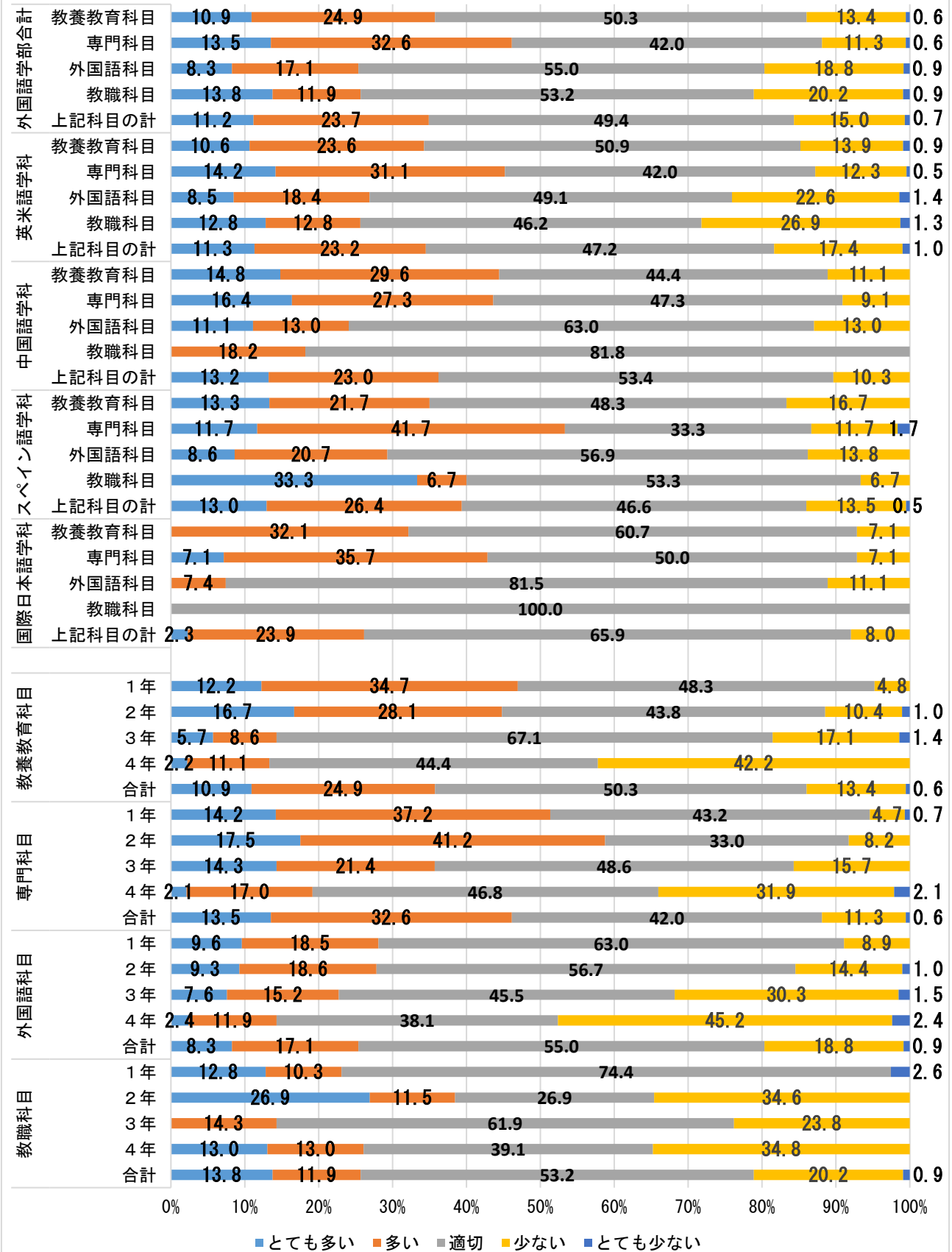
3. 外国語学部



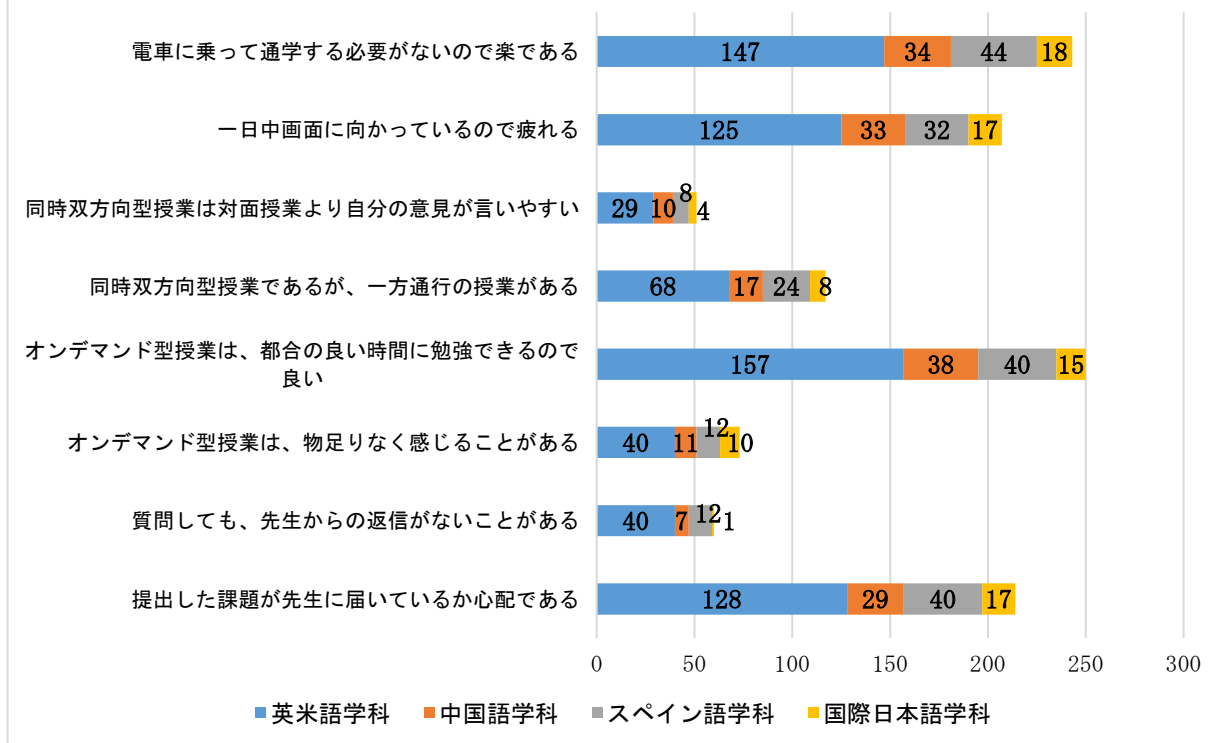
〔外国語学部〕 学科別・学年別の理解度



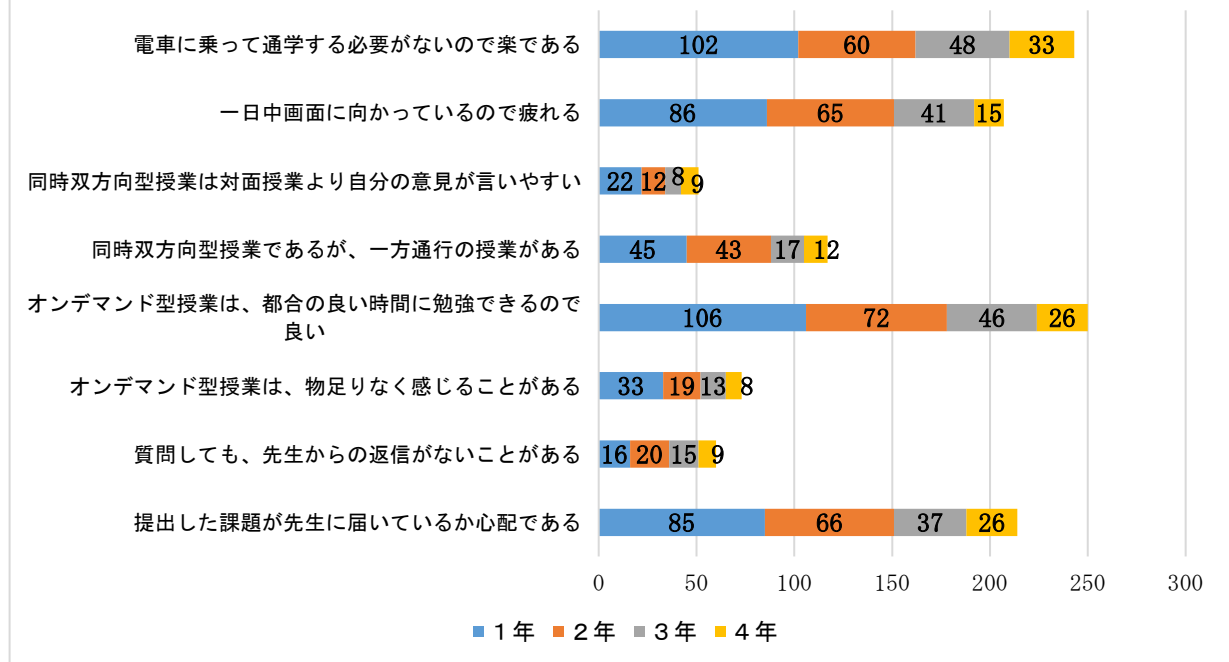
〔外国語学部〕 学科別・学年別の課題の分量



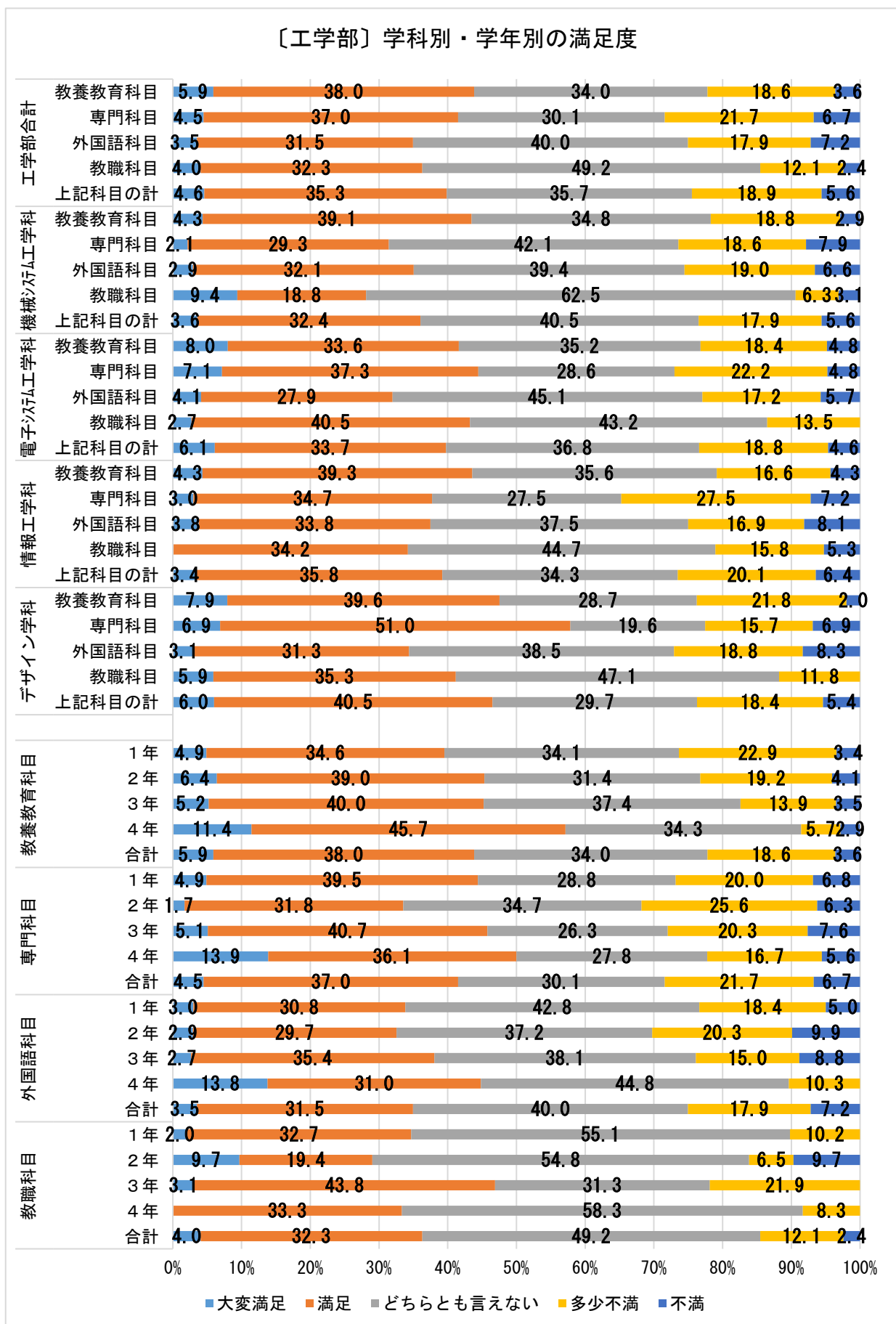
〔外国語学部〕 学科別の遠隔授業に関する状況



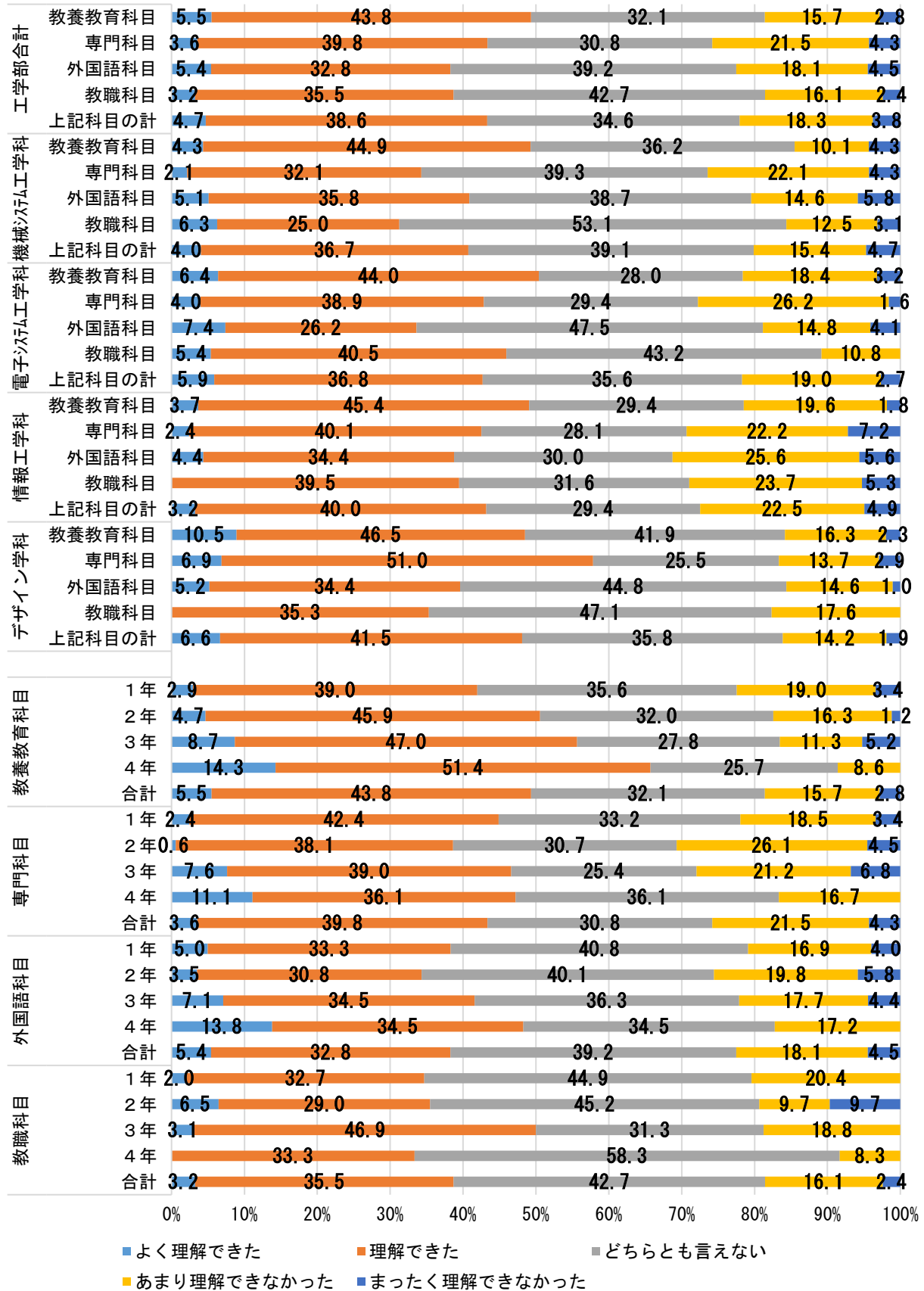
〔外国語学部〕 学年別の遠隔教育に関する状況



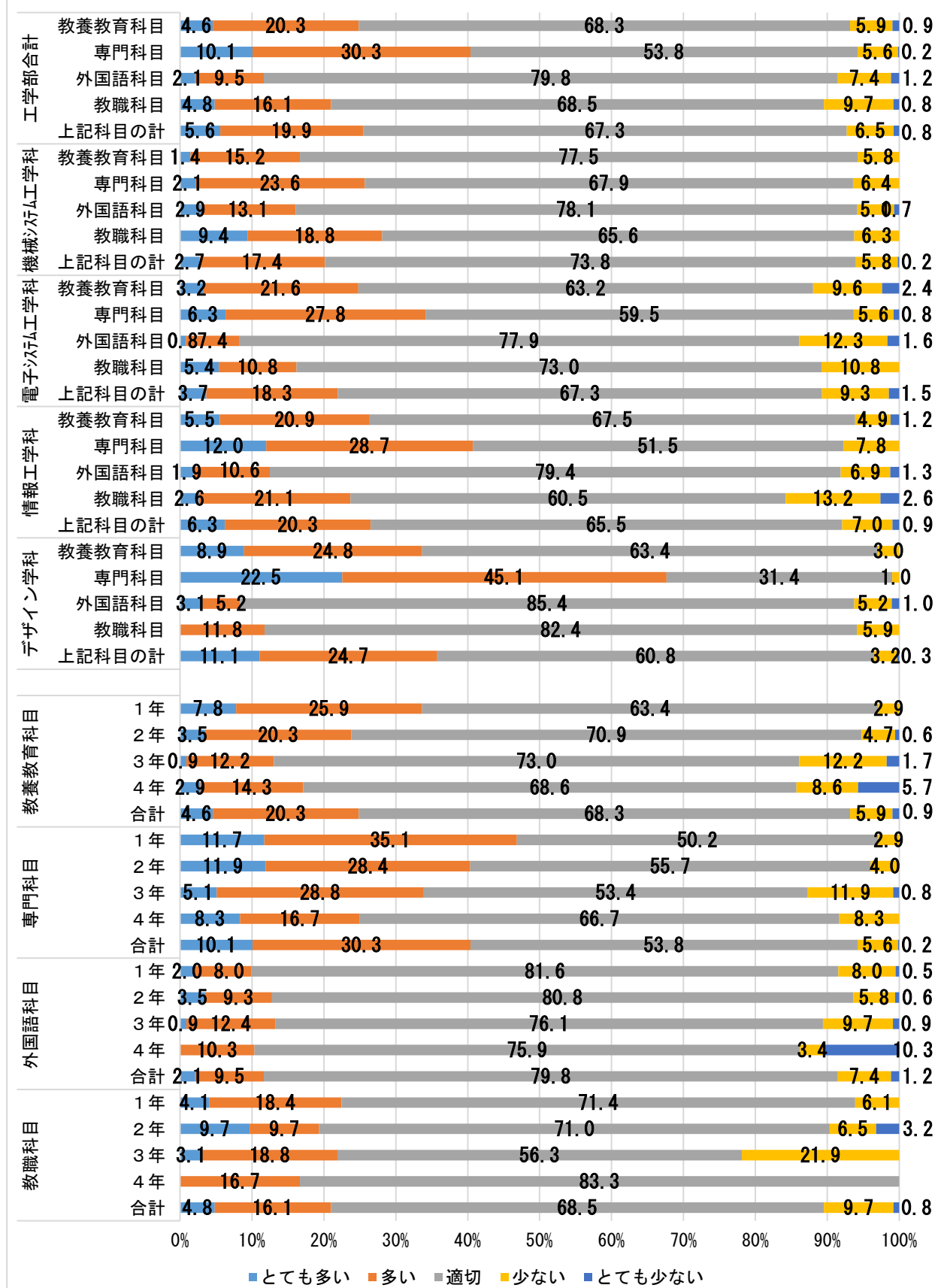
4. 工学部



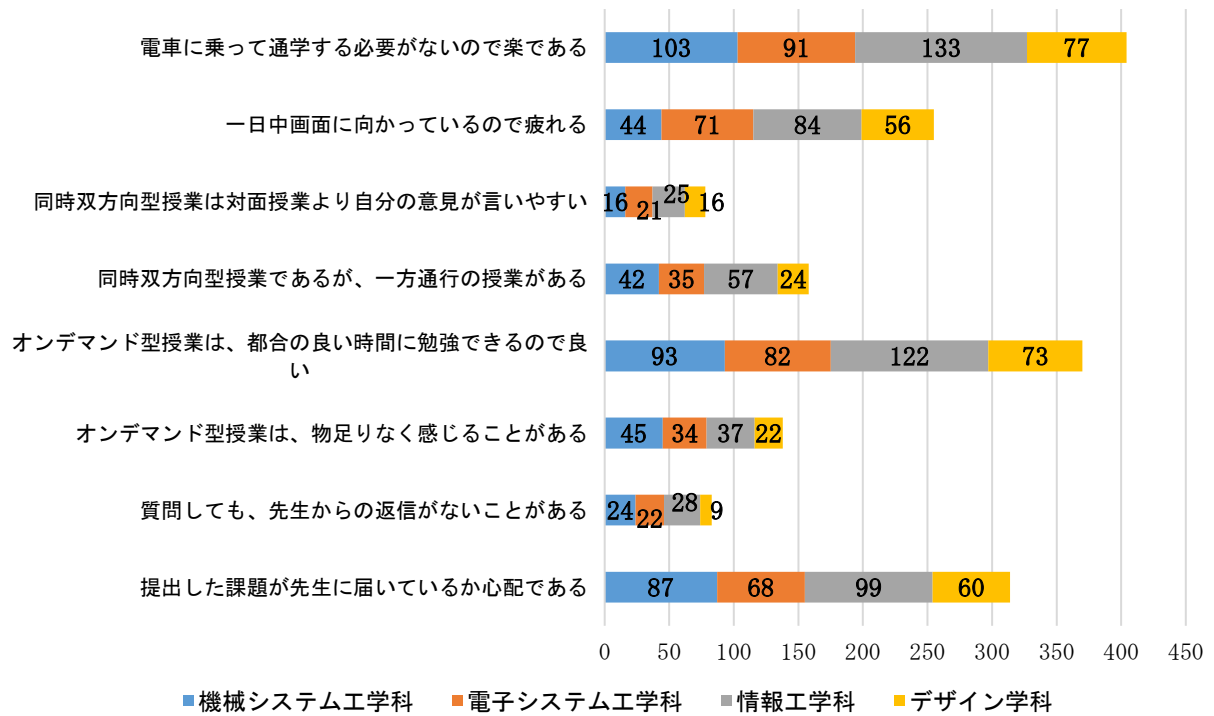
〔工学部〕 学科別・学年別の理解度



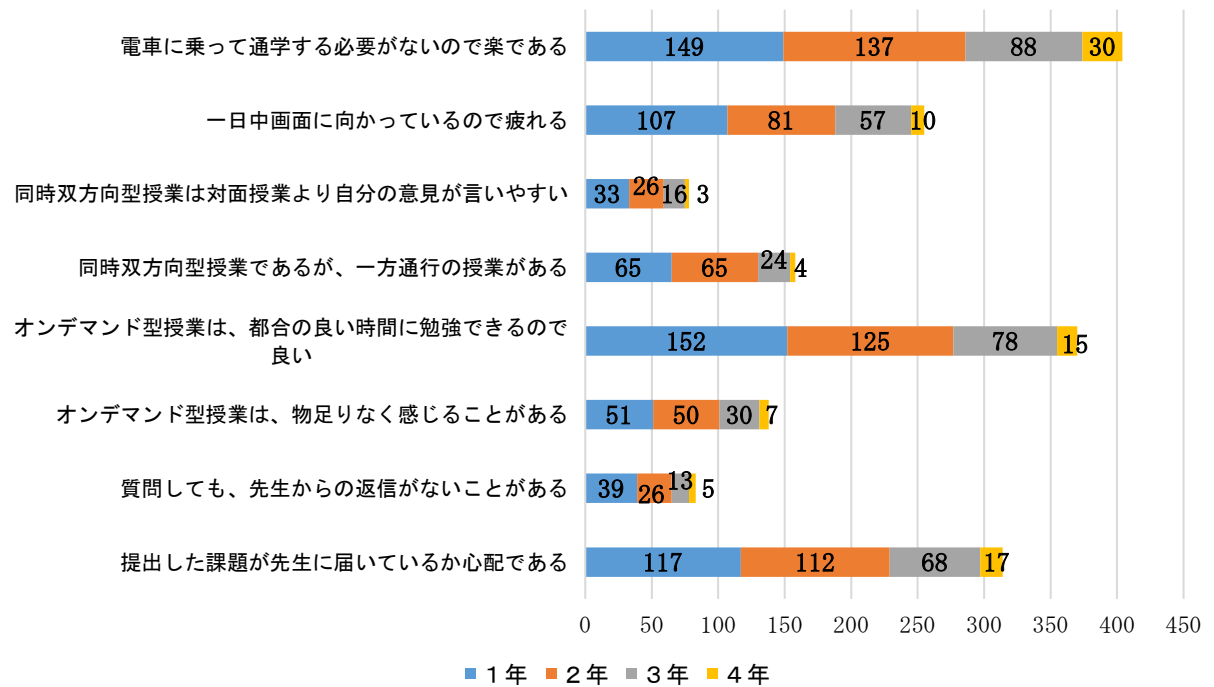
〔工学部〕 学科別・学年別の課題の分量



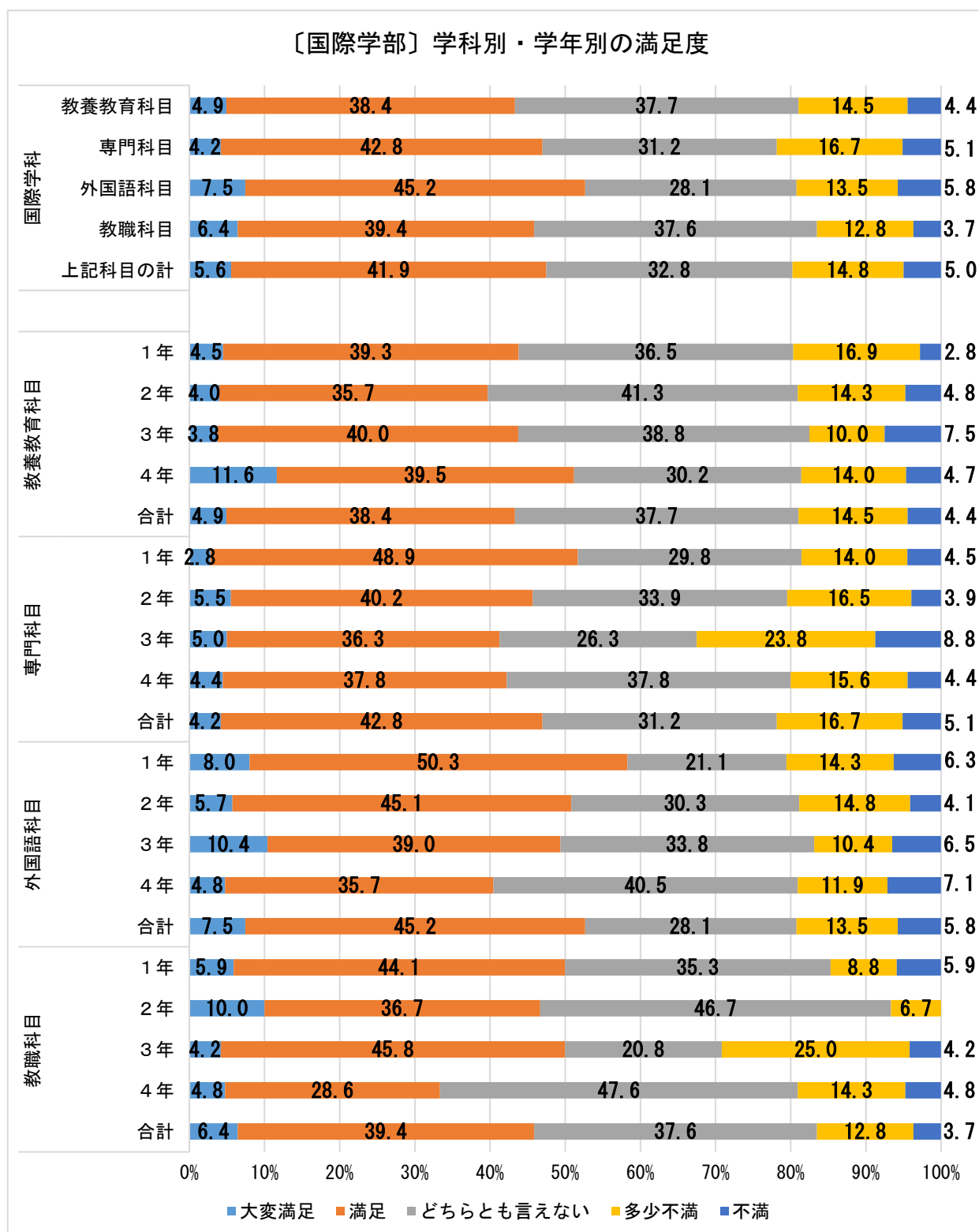
〔工学部〕 学科別の遠隔教育に関する状況



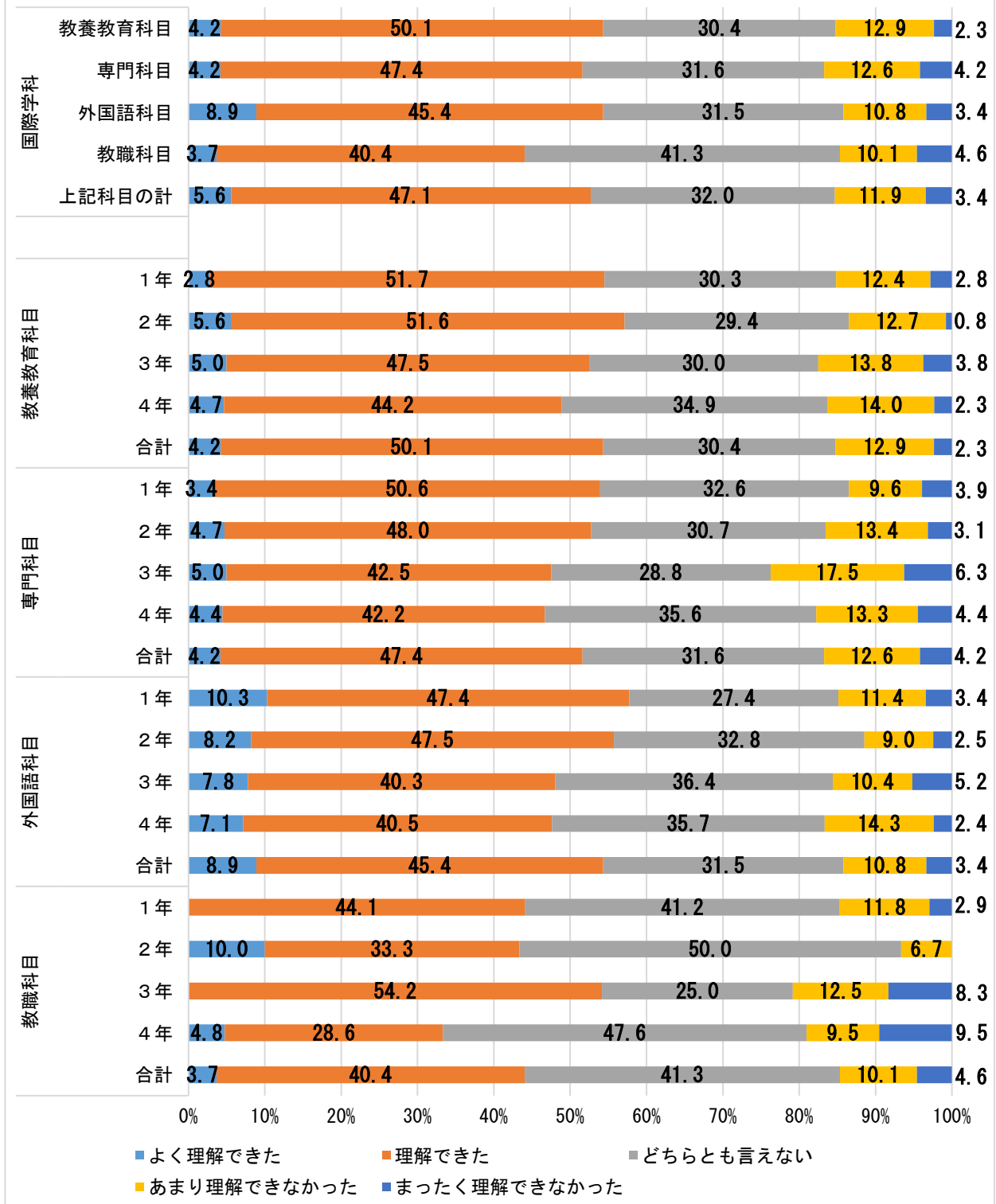
〔工学部〕 学年別の遠隔教育に関する状況



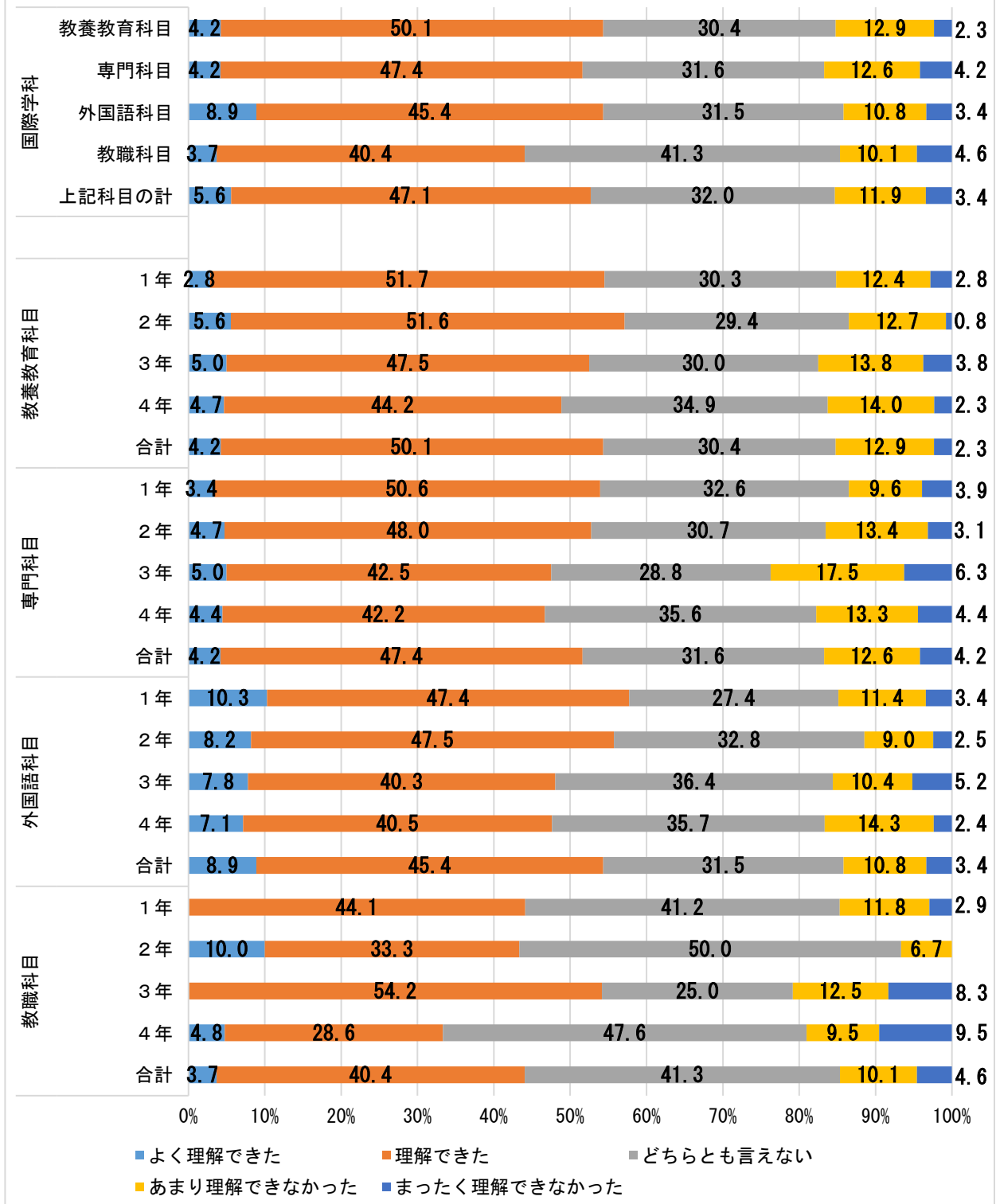
5. 国際学部



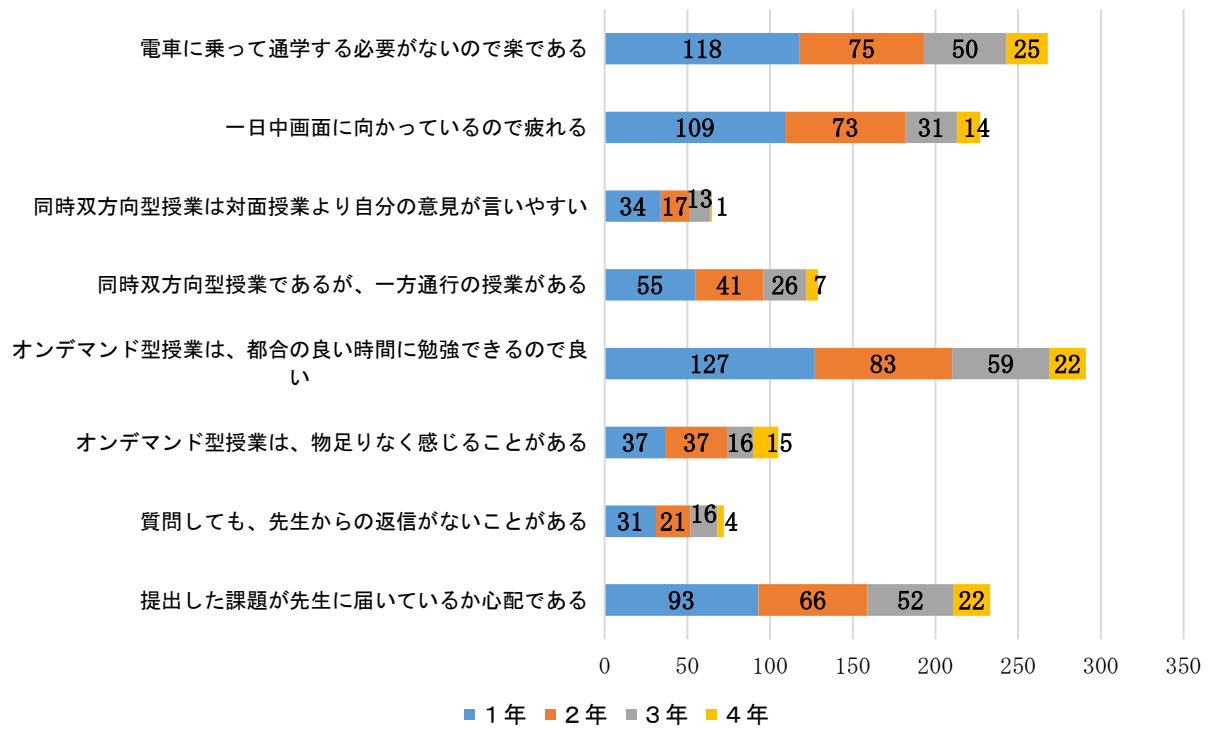
〔国際学部〕 学科別・学年別の理解度



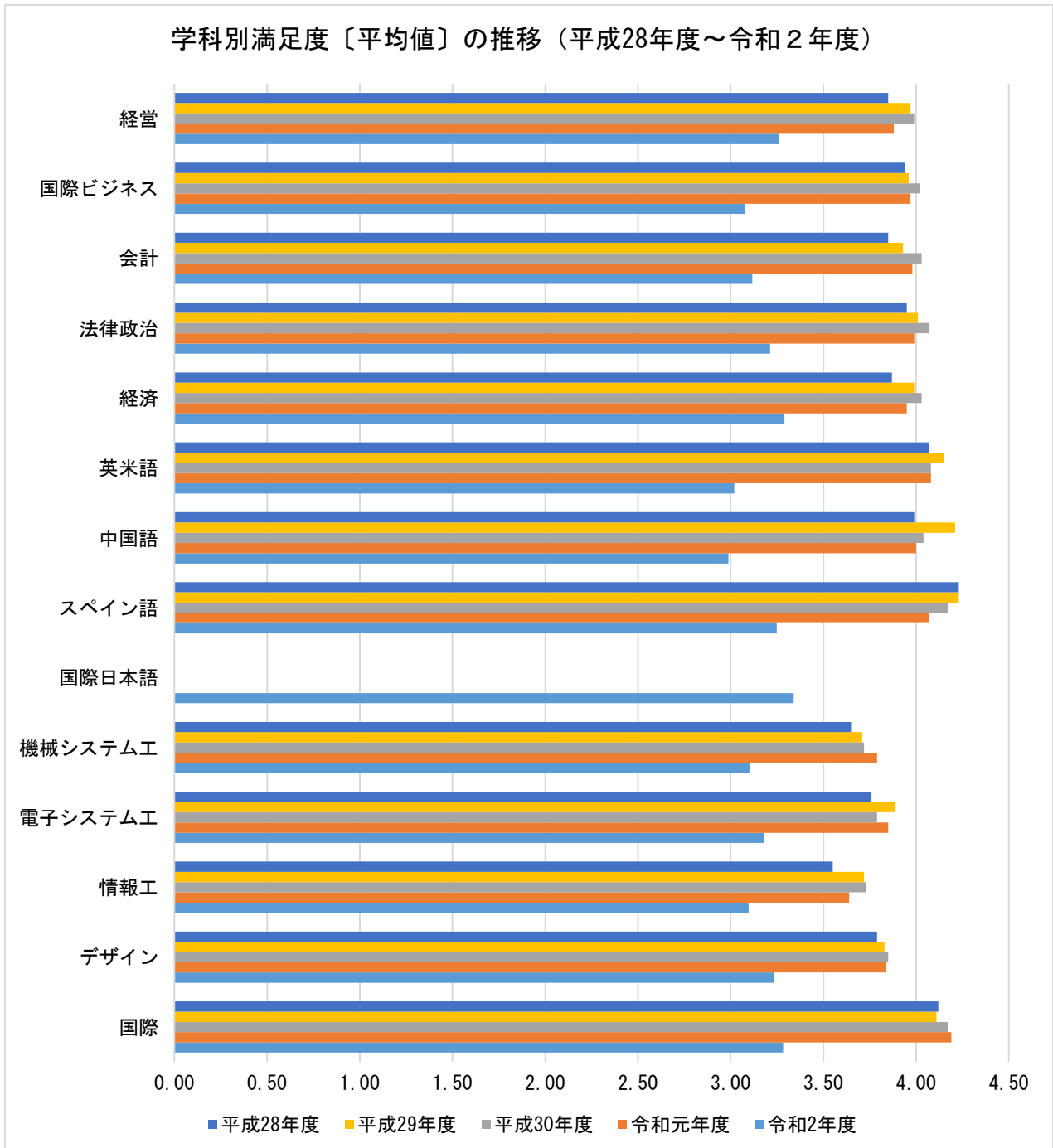
〔国際学部〕 学科別・学年別の理解度



〔国際学部〕 学年別の遠隔教育に関する状況

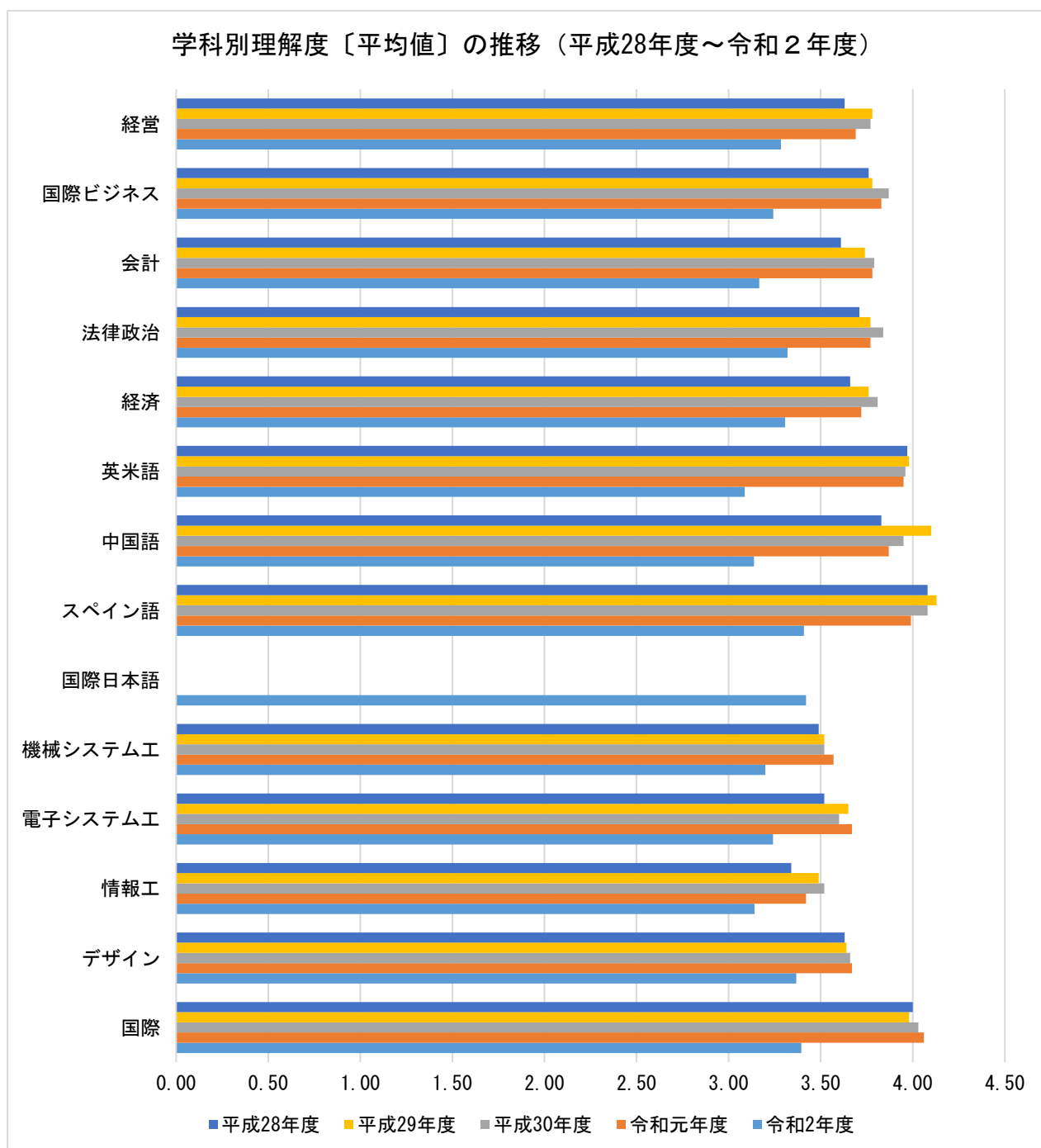


6. 学科別満足度の推移



	経営	国際 ビジネス	会計	法律政治	経済	英米語	中国語	スペイン語	国際日本語	機械 システム	電子 システム	情報工	デザイン	国際
平成28年度	3.85	3.94	3.85	3.95	3.87	4.07	3.99	4.23	—	3.65	3.76	3.55	3.79	4.12
平成29年度	3.97	3.96	3.93	4.01	3.99	4.15	4.21	4.23	—	3.71	3.89	3.72	3.83	4.11
平成30年度	3.99	4.02	4.03	4.07	4.03	4.08	4.04	4.17	—	3.72	3.79	3.73	3.85	4.17
令和元年度	3.88	3.97	3.98	3.99	3.95	4.08	4.00	4.07	—	3.79	3.85	3.64	3.84	4.19
令和2年度	3.26	3.08	3.12	3.21	3.29	3.02	2.99	3.25	3.34	3.11	3.18	3.10	3.23	3.28

7. 学科別理解度の推移



	経営	国際 ビジネス	会計	法律政治	経済	英米語	中国語	スペイン語	国際日本語	機械 システム 工	電子 システム 工	情報工	デザイン	国際
平成28年度	3.63	3.76	3.61	3.71	3.66	3.97	3.83	4.08	—	3.49	3.52	3.34	3.63	4.00
平成29年度	3.78	3.78	3.74	3.77	3.76	3.98	4.10	4.13	—	3.52	3.65	3.49	3.64	3.98
平成30年度	3.77	3.87	3.79	3.84	3.81	3.96	3.95	4.08	—	3.52	3.60	3.52	3.66	4.03
令和元年度	3.69	3.83	3.78	3.77	3.72	3.95	3.87	3.99	—	3.57	3.67	3.42	3.67	4.06
令和2年度	3.28	3.24	3.17	3.32	3.31	3.09	3.14	3.41	3.42	3.20	3.24	3.14	3.37	3.40

V 科目別集計

1. 教養教育科目

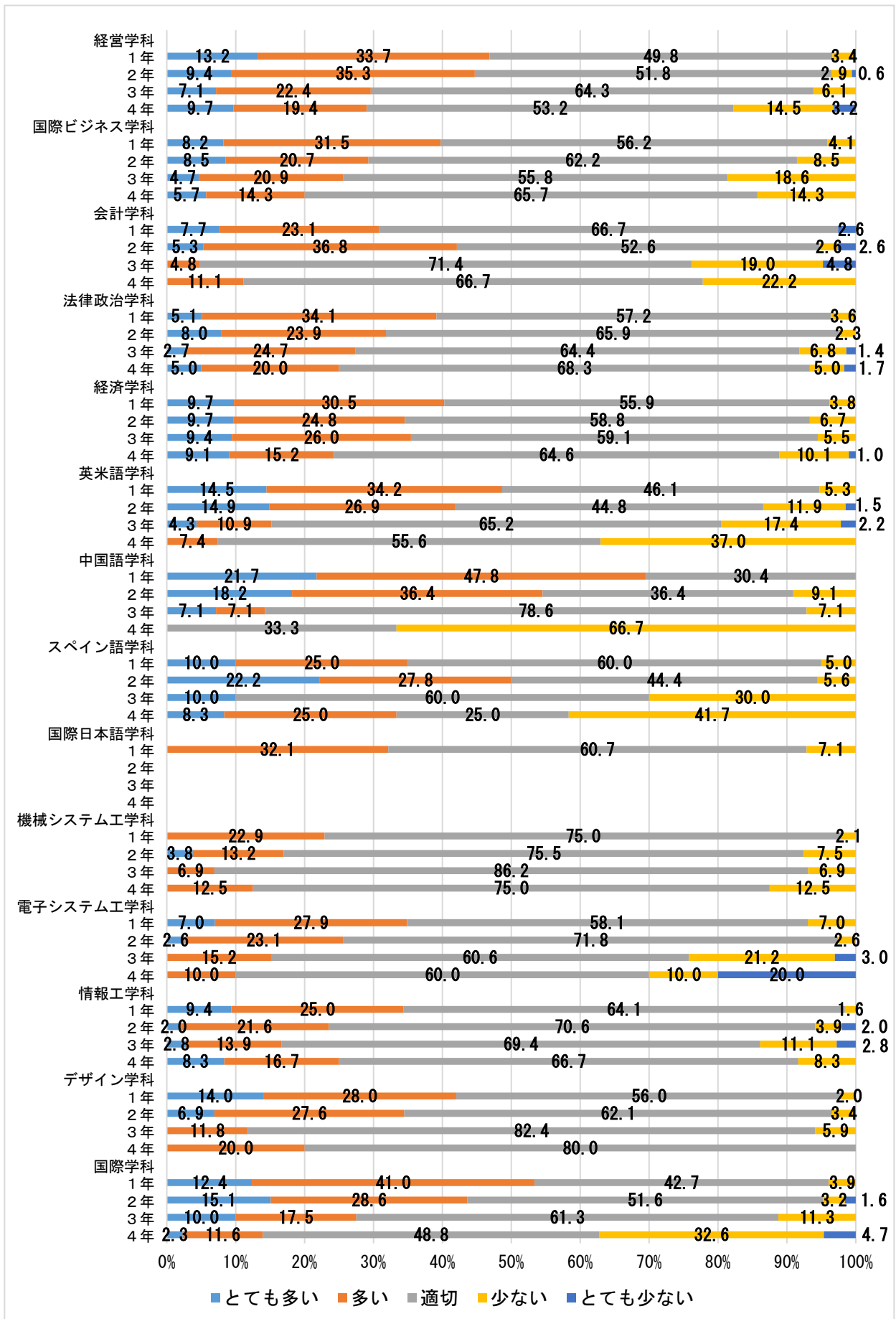
(1) 満足度 (平均値)

学部・学科名		1年	2年	3年	4年	全学年
商学部	経営学科	3.27	3.21	3.30	3.00	3.22
	国際ビジネス学科	3.08	3.00	2.95	3.31	3.06
	会計学科	3.28	2.84	3.05	3.15	3.08
	学部全体	3.23	3.10	3.17	3.12	3.16
政経学部	法律政治学科	3.12	3.23	3.16	3.42	3.21
	経済学科	3.17	3.29	3.30	3.32	3.25
	学部全体	3.16	3.27	3.25	3.36	3.24
外国語学部	英米語学科	3.12	2.96	2.91	2.89	3.00
	中国語学科	3.30	2.55	2.79	3.00	2.98
	スペイン語学科	3.30	3.11	3.40	3.25	3.25
	国際日本語学科	3.25	—	—	—	3.25
	学部全体	3.20	2.94	2.96	3.00	3.06
工学部	機械システム工学科	3.27	3.11	3.38	3.25	3.23
	電子システム工学科	3.28	3.23	2.97	3.70	3.22
	情報工学科	2.95	3.37	3.42	3.50	3.23
	デザイン学科	3.16	3.28	3.53	4.00	3.30
	学部全体	3.15	3.24	3.30	3.57	3.24
国際学部	国際学科	3.26	3.20	3.23	3.40	3.25
	学部全体	3.26	3.20	3.23	3.40	3.25
大 学 全 体		3.19	3.17	3.20	3.27	3.20

(2) 理解度 (平均値)

学部・学科名		1年	2年	3年	4年	全学年
商学部	経営学科	3.28	3.29	3.30	3.00	3.26
	国際ビジネス学科	3.27	3.22	3.05	3.57	3.26
	会計学科	3.33	3.03	3.29	3.22	3.21
	学部全体	3.29	3.24	3.23	3.21	3.25
政経学部	法律政治学科	3.28	3.31	3.36	3.63	3.36
	経済学科	3.27	3.35	3.31	3.37	3.32
	学部全体	3.27	3.33	3.33	3.47	3.33
外国語学部	英米語学科	3.14	3.07	2.91	2.89	3.04
	中国語学科	3.17	2.55	2.86	2.50	2.89
	スペイン語学科	3.40	3.17	3.40	3.33	3.32
	国際日本語学科	3.43	—	—	—	3.43
	学部全体	3.24	3.03	2.97	2.96	3.09
工学部	機械システム工学科	3.27	3.23	3.62	3.63	3.35
	電子システム工学科	3.30	3.36	3.12	3.90	3.32
	情報工学科	3.08	3.37	3.53	3.42	3.29
	デザイン学科	3.16	3.62	3.47	4.20	3.40
	学部全体	3.19	3.37	3.43	3.71	3.33
国際学部	国際学科	3.39	3.48	3.36	3.35	3.41
	学部全体	3.39	3.48	3.36	3.35	3.41
大 学 全 体		3.28	3.30	3.29	3.34	3.29

(3) 課題の分量



2. 専門科目

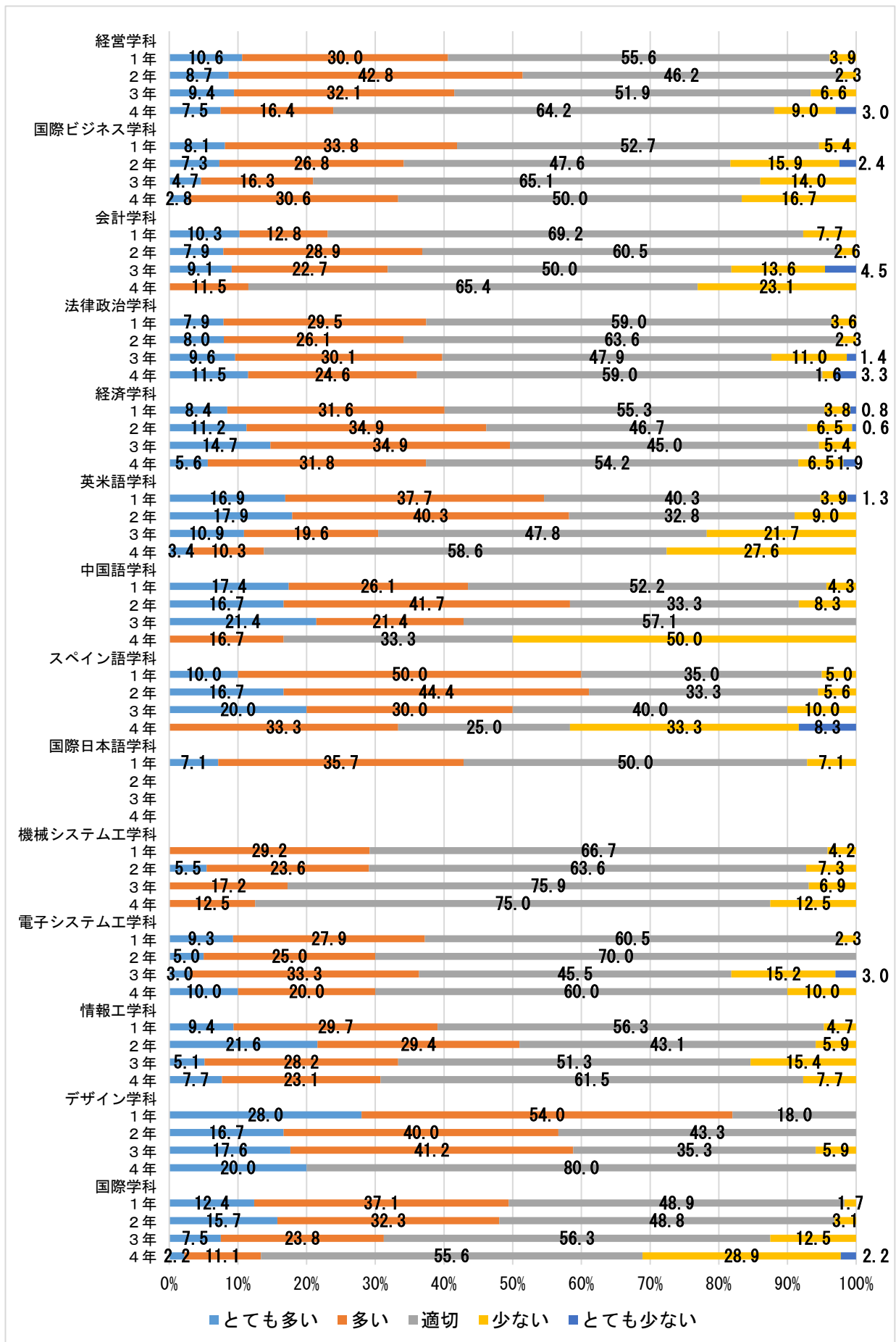
(1) 満足度 (平均値)

学部・学科名		1年	2年	3年	4年	全学年
商学部	経営学科	3.37	3.36	3.31	2.99	3.31
	国際ビジネス学科	3.08	2.94	2.81	3.36	3.03
	会計学科	3.15	3.05	3.05	3.15	3.10
	学部全体	3.28	3.20	3.15	3.12	3.21
政経学部	法律政治学科	3.13	3.26	3.23	3.49	3.24
	経済学科	3.24	3.20	3.33	3.26	3.25
	学部全体	3.20	3.22	3.29	3.35	3.25
外国語学部	英米語学科	3.10	2.84	2.91	3.00	2.97
	中国語学科	3.52	2.83	2.64	2.83	3.07
	スペイン語学科	3.35	3.17	3.50	3.33	3.32
	国際日本語学科	3.43	—	—	—	3.43
	学部全体	3.26	2.90	2.94	3.06	3.08
工学部	機械システム工学科	3.19	2.78	3.07	3.00	2.99
	電子システム工学科	3.30	3.00	3.15	3.70	3.20
	情報工学科	2.97	2.90	3.03	3.31	2.99
	デザイン学科	3.24	3.40	3.59	3.40	3.35
	学部全体	3.16	2.97	3.15	3.36	3.11
国際学部	国際学科	3.31	3.27	3.05	3.22	3.24
	学部全体	3.31	3.27	3.05	3.22	3.24
大 学 全 体		3.24	3.14	3.16	3.24	3.19

(2) 理解度 (平均値)

学部・学科名		1年	2年	3年	4年	全学年
商学部	経営学科	3.22	3.42	3.33	3.18	3.30
	国際ビジネス学科	3.23	3.10	2.86	3.36	3.14
	会計学科	3.23	3.11	3.14	3.19	3.17
	学部全体	3.22	3.29	3.19	3.23	3.24
政経学部	法律政治学科	3.29	3.27	3.26	3.54	3.32
	経済学科	3.19	3.23	3.27	3.21	3.22
	学部全体	3.23	3.25	3.27	3.33	3.26
外国語学部	英米語学科	3.36	3.13	2.87	3.03	3.15
	中国語学科	3.83	2.92	3.14	3.17	3.38
	スペイン語学科	3.50	3.50	3.50	3.50	3.50
	国際日本語学科	3.36	—	—	—	3.36
	学部全体	3.45	3.18	3.01	3.17	3.26
工学部	機械システム工学科	3.23	2.87	3.07	3.25	3.06
	電子システム工学科	3.30	3.05	3.06	3.50	3.17
	情報工学科	3.14	2.88	3.18	3.31	3.08
	デザイン学科	3.24	3.60	3.71	3.80	3.45
	学部全体	3.22	3.04	3.19	3.42	3.17
国際学部	国際学科	3.40	3.38	3.23	3.29	3.35
	学部全体	3.40	3.38	3.23	3.29	3.35
大 学 全 体		3.28	3.23	3.20	3.28	3.25

(3) 課題の分量



3. 外国語科目

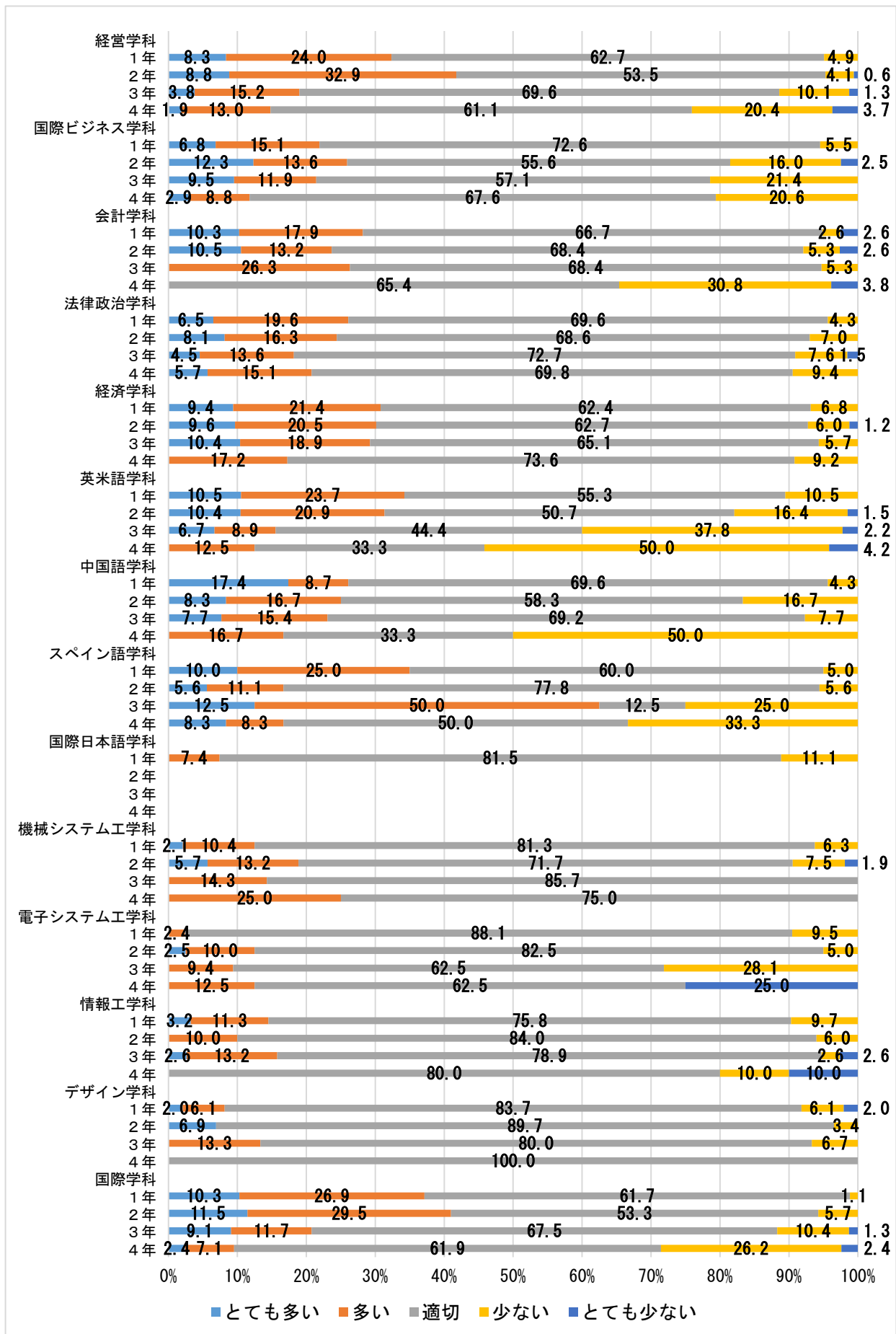
(1) 満足度 (平均値)

学部・学科名		1年	2年	3年	4年	全学年
商学部	経営学科	3.32	3.19	3.39	3.11	3.27
	国際ビジネス学科	3.38	2.94	3.05	3.44	3.17
	会計学科	3.36	3.05	3.26	3.12	3.20
	学部全体	3.34	3.10	3.27	3.21	3.23
政経学部	法律政治学科	3.07	3.06	3.39	3.28	3.16
	経済学科	3.28	3.38	3.32	3.47	3.34
	学部全体	3.20	3.27	3.35	3.40	3.28
外国語学部	英米語学科	3.38	2.96	3.04	2.71	3.10
	中国語学科	3.17	2.75	2.62	3.00	2.93
	スペイン語学科	3.40	3.11	2.75	3.08	3.16
	国際日本語学科	3.33	—	—	—	3.33
	学部全体	3.34	2.96	2.92	2.86	3.10
工学部	機械システム工学科	3.10	2.91	3.25	3.13	3.06
	電子システム工学科	3.17	2.90	3.00	3.75	3.07
	情報工学科	2.98	3.12	3.05	3.60	3.08
	デザイン学科	3.12	2.83	3.00	3.33	3.02
	学部全体	3.08	2.95	3.08	3.48	3.06
国際学部	国際学科	3.39	3.34	3.36	3.19	3.35
	学部全体	3.39	3.34	3.36	3.19	3.35
大 学 全 体		3.26	3.14	3.23	3.26	3.22

(2) 理解度 (平均値)

学部・学科名		1年	2年	3年	4年	全学年
商学部	経営学科	3.36	3.28	3.37	3.09	3.31
	国際ビジネス学科	3.56	3.22	3.12	3.47	3.35
	会計学科	3.21	3.00	3.42	3.08	3.15
	学部全体	3.39	3.23	3.30	3.20	3.30
政経学部	法律政治学科	3.28	3.27	3.30	3.13	3.26
	経済学科	3.21	3.54	3.40	3.45	3.37
	学部全体	3.23	3.44	3.36	3.33	3.33
外国語学部	英米語学科	3.36	3.01	2.91	2.92	3.10
	中国語学科	3.61	2.58	2.85	3.00	3.13
	スペイン語学科	3.70	3.17	3.25	3.33	3.40
	国際日本語学科	3.52	—	—	—	3.52
	学部全体	3.47	2.99	2.94	3.05	3.19
工学部	機械システム工学科	3.21	3.09	3.39	3.13	3.20
	電子システム工学科	3.29	3.05	3.03	3.88	3.18
	情報工学科	2.95	3.08	3.16	3.30	3.06
	デザイン学科	3.37	3.00	3.47	3.67	3.28
	学部全体	3.18	3.06	3.22	3.45	3.17
国際学部	国際学科	3.50	3.50	3.35	3.36	3.46
	学部全体	3.50	3.50	3.35	3.36	3.46
大 学 全 体		3.33	3.27	3.27	3.27	3.29

(3) 課題の分量



4. 教職科目

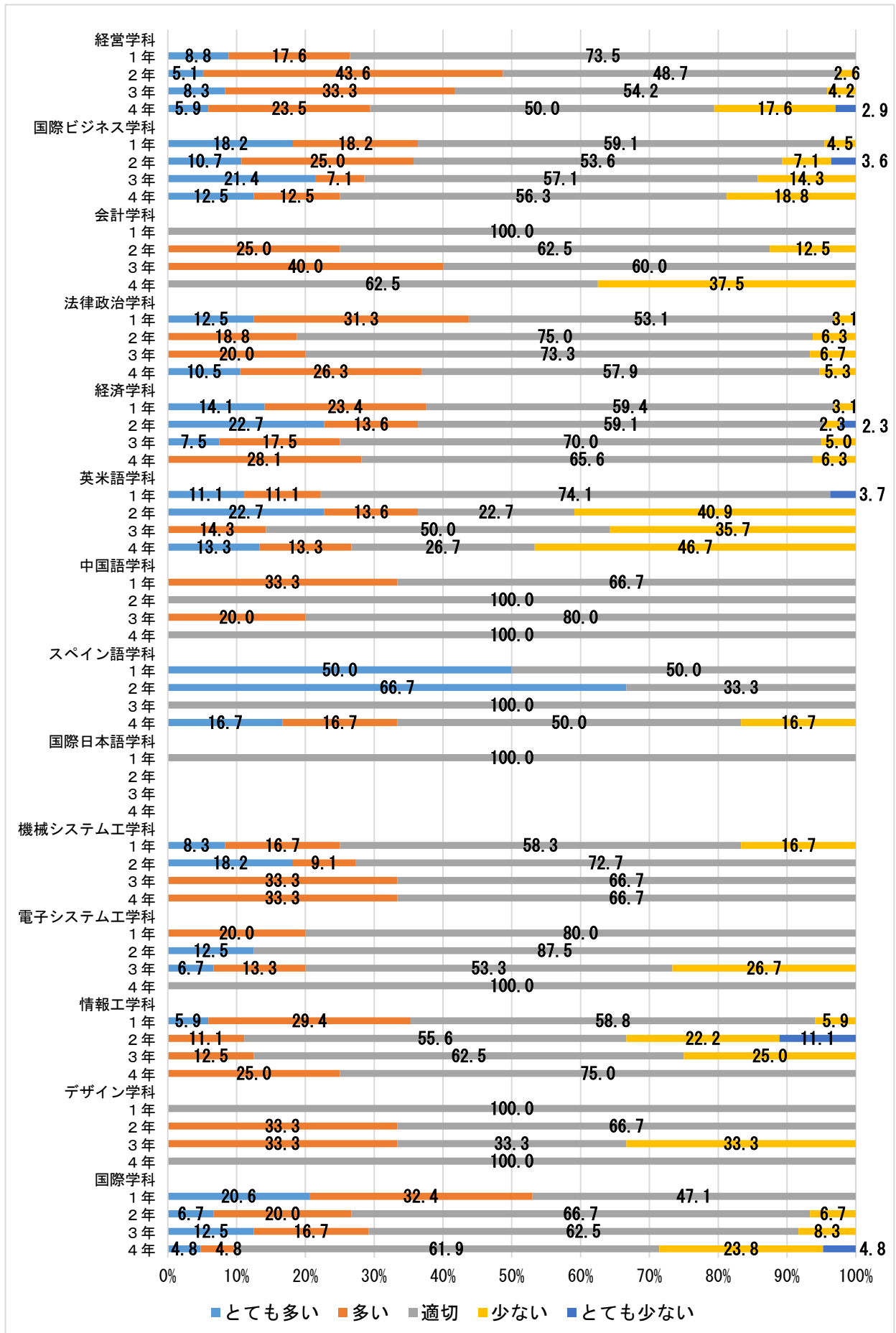
(1) 満足度 (平均値)

学部・学科名		1年	2年	3年	4年	全学年
商学部	経営学科	3.09	3.28	3.25	3.26	3.22
	国際ビジネス学科	3.09	2.71	2.79	3.44	2.98
	会計学科	4.00	3.00	2.40	3.06	3.00
	学部全体	3.12	3.04	3.00	3.26	3.11
政経学部	法律政治学科	3.28	3.25	3.13	3.58	3.32
	経済学科	3.28	3.36	3.58	3.34	3.38
	学部全体	3.28	3.33	3.45	3.43	3.36
外国語学部	英米語学科	3.33	2.73	2.50	3.33	3.01
	中国語学科	2.67	4.00	3.00	2.50	2.91
	スペイン語学科	3.25	3.67	3.00	3.33	3.33
	国際日本語学科	3.40	—	—	—	3.40
	学部全体	3.28	2.88	2.67	3.26	3.06
工学部	機械システム工学科	3.25	3.00	3.67	3.33	3.25
	電子システム工学科	3.30	3.38	3.27	3.50	3.32
	情報工学科	3.18	2.78	3.13	3.25	3.08
	デザイン学科	3.40	4.00	3.00	2.00	3.35
	学部全体	3.27	3.13	3.28	3.25	3.23
国際学部	国際学科	3.35	3.50	3.21	3.14	3.32
	学部全体	3.35	3.50	3.21	3.14	3.32
大 学 全 体		3.25	3.18	3.18	3.29	3.23

(2) 理解度 (平均値)

学部・学科名		1年	2年	3年	4年	全学年
商学部	経営学科	3.06	3.28	3.33	3.32	3.24
	国際ビジネス学科	3.23	3.14	3.07	3.44	3.21
	会計学科	4.00	3.13	2.60	3.06	3.06
	学部全体	3.16	3.21	3.16	3.29	3.21
政経学部	法律政治学科	3.47	3.31	3.20	3.53	3.40
	経済学科	3.23	3.39	3.50	3.53	3.38
	学部全体	3.31	3.37	3.42	3.53	3.39
外国語学部	英米語学科	3.59	2.82	2.29	2.93	3.01
	中国語学科	3.33	5.00	3.00	2.50	3.18
	スペイン語学科	3.50	3.67	4.00	3.17	3.47
	国際日本語学科	3.20	—	—	—	3.20
	学部全体	3.51	3.00	2.62	2.96	3.10
工学部	機械システム工学科	3.00	3.18	3.50	3.33	3.19
	電子システム工学科	3.50	3.50	3.27	3.50	3.41
	情報工学科	3.00	2.67	3.50	3.25	3.05
	デザイン学科	3.30	3.33	3.00	2.00	3.18
	学部全体	3.16	3.13	3.34	3.25	3.21
国際学部	国際学科	3.26	3.47	3.25	3.10	3.28
	学部全体	3.26	3.47	3.25	3.10	3.28
大 学 全 体		3.28	3.25	3.22	3.29	3.26

(3) 課題の分量



VI 評価及び課題

1. 商学部

(1) アンケート回答数

商学部のアンケート回答数は、914名（回答率37.4%）であった。

学科別では、経営学科553名（36.0%）、国際ビジネス学科235名（38.1%）、会計学科126名（43.6%）で、学年別では、1年320名（53.8%）、2年293名（47.8%）、3年171名（30.2%）、4年130名（19.5%）であった。

(2) 集計結果とその分析

<満足度>

商学部における全科目の満足度（平均値）は、3.19ポイントで、科目別では、教養教育科目3.16ポイント、専門科目3.21ポイント、外国語科目3.23ポイント、教職科目3.11ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.21ポイントであるが、「大変満足」又は「満足」が44.7%で、一方で「不満」又は「多少不満」が23.4%であった。

学科別の平均値では、経営学科（3.31ポイント）が最も高く、会計学科（3.10）、国際ビジネス学科（3.03）となっており、学年別では、1年（3.28）が最も高く、2年（3.20）、3年（3.15）、4年（3.12）であった。学科・学年別では、経営学科1年（3.37）が最も高く、次いで、経営学科2年及び国際ビジネス学科4年（3.36）で、一方、国際ビジネス学科3年（2.81）が最も低く、次いで、同学科2年（2.94）、経営学科4年（2.99）となっている。

◇専門科目に対する満足度（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
経営学科	3.37	3.36	3.31	2.99	3.31
国際ビジネス学科	3.08	2.94	2.81	3.36	3.03
会計学科	3.15	3.05	3.05	3.15	3.10
全学科	3.28	3.20	3.15	3.12	3.21

<理解度>

商学部における全科目の理解度（平均値）は、3.26ポイントで、科目別では、教養教育科目3.25ポイント、専門科目3.24ポイント、外国語科目3.30ポイント、教職科目3.21ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.24ポイントであるが、「よく理解できた」又は「理解できた」が46.3%で、一方、「まったく理解できなかった」又は「あまり理解できなかった」が23.3%であった。

学科別の平均値では、経営学科（3.30ポイント）が最も高く、会計学科（3.17）、国際ビジネス学科（3.14）となっており、学年別では、2年（3.29）で最も高く、4年（3.23）、1年（3.22）、3年（3.19）であった。学科・学年別では、経営学科2年（3.42）が最も高く、次いで、国際ビジネス学科4年（3.36）、経営学科3年（3.33）で、一方、国際ビジネス学科3年（2.86）が最も低く、次いで、同学科2年（3.10）、会計学科2年（3.11）となっている。

◇専門科目に対する理解度（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
経営学科	3.22	3.42	3.33	3.18	3.30
国際ビジネス学科	3.23	3.10	2.86	3.36	3.14
会計学科	3.23	3.11	3.14	3.19	3.17
全学科	3.22	3.29	3.19	3.23	3.24

<課題の分量>

商学部における全科目の課題の分量（平均値）は、3.32ポイントで、科目別では、教養教育科目 3.37ポイント、専門科目 3.38ポイント、外国語科目 3.23ポイント、教職科目 3.30ポイントであった。

専門科目においては、平均値が 3.38ポイントであるが、「適切」が 54.2%、「とても多い」又は「多い」が 37.9%で、一方、「とても少ない」又は「少ない」が 7.8%であった。

学科別の平均値では、経営学科（3.34ポイント）が最も高く、国際ビジネス学科（3.26）、会計学科（3.22）で、学年別では、2年（3.45）が最も高く、1年（3.44）、3年（3.33）、4年（3.12）であった。学科・学年別では、経営学科 2年（3.58）が最も高く、次いで、同学科 1年（3.47）、国際ビジネス学科 1年（3.45）で、一方、会計学科 4年（2.88）が最も低く、次いで、国際ビジネス学科 3年（3.12）、経営学科 4年（3.16）となっている。

◇専門科目に対する課題の分量（平均値）

区 分	1 年	2 年	3 年	4 年	全学年
経営学科	3.47	3.58	3.44	3.16	3.34
国際ビジネス学科	3.45	3.21	3.12	3.19	3.26
会計学科	3.26	3.42	3.18	2.88	3.22
全学科	3.44	3.45	3.33	3.12	3.38

<遠隔授業>

遠隔授業に関する状況は、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」（663件：73.0%）、「一日中画面に向かっているので疲れる」（405件：44.6%）、同時双方向型授業については、「対面授業より自分の意見が言いやすい」（117件：12.9%）、「一方通行の授業がある」（249件：27.4%）、オンデマンド型授業については、「都合の良い時間に勉強できるので良い」（676件：74.4%）、「物足りなく感じることもある」（208件：22.9%）、また、「質問しても、先生からの返信がないことがある」（166件：18.3%）、「提出した課題が先生に届いているか心配である」（517件：56.9%）であった。

なお、全学平均との比較では、「オンデマンド型授業は、都合の良い時間に勉強できるので良い」が 2.8%、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」が 2.5%、「質問しても、先生からの返信がないことがある」が 1.4%上回っている。一方、「オンデマンド型授業は、物足りなく感じることもある」が 1.9%、「一日中画面に向かっているので疲れる」が 1.7%下回っている。

(3) 総括

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の一環として、1年間を通じて遠隔授業を中心に実施した。遠隔授業においても、学生が学問に関心をもって授業に取り組み、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等を修得できるように、教員が個々に努力すると同時に、組織的にも研究会を開催（オンデマンド開催）し、また商学部の遠隔授業の方針や具体的な指示を行った。特に、1年生に関して、学問への関心を無くさないように配慮した。

遠隔授業の結果、満足度、理解度ともに、例年より低い結果となっている。特に、国際ビジネス学科が低い結果となっている。専門科目に関する満足度では、1年生は比較的良い評価になっている（経営学科 1位、国際ビジネス学科 2位、会計学科 1位、全学科 1位）。専門科目に関する理解度（経営学科 3位、国際ビジネス学科 2位、会計学科 1位、全学科 3位）や課題の分量（経営学科 2位、国際ビジネス学科 1位、会計学科 2位、全学科 2位）でも、1年生は比較的良い結果となっている。反対に、2～4年生の評価が低くなっている。この点が反省点であり、次年度以降の課題である。また、遠隔

授業の設問においては、「質問しても、先生からの返信がないことがある」が18.3%で他学部より高い。商学部の遠隔授業において、満足度や理解度が向上させるための改善点（課題）の1つはここにあり、特に教員からの発信力の強化によって対応していく。

商学部では、本年度の商学部FDワークショップで、「コロナ禍に対応したオンライン授業の工夫」をテーマに取り上げるなど、遠隔授業における工夫・改善に努めている。引き続き、FDワークショップの開催や、本アンケート結果を個々の教員に周知することによる個人レベルでの対応を求めるなど、教育の質の向上に向けた取り組みを実施する。

2. 政経学部

(1) アンケート回答数

政経学部のアンケート回答数は、1,006名（回答率35.4%）であった。

学科別では、法律政治学科363名（37.9%）、経済学科643名（34.1%）で、学年別では、1年376名（54.5%）、2年257名（41.1%）、3年202名（31.0%）、4年171名（19.6%）であった。

(2) 集計結果とその分析

<満足度>

政経学部における全科目の満足度（平均値）は、3.26ポイントで、科目別では、教養教育科目3.24ポイント、専門科目3.25ポイント、外国語科目3.28ポイント、教職科目3.36ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.25ポイントであるが、「大変満足」又は「満足」が45.7%で、一方で「不満」又は「多少不満」が20.5%であった。

学科別の平均値では、法律政治学科3.24ポイント、経済学科3.25ポイントとなっており、学年別では、4年（3.35）が最も高く、3年（3.29）、2年（3.22）、1年（3.20）であった。学科・学年別では、法律政治学科4年（3.49）が最も高く、次いで、経済学科3年（3.33）で、一方、法律政治学科1年（3.13）が最も低く、次いで、経済学科2年（3.20）、となっている。

◇専門科目に対する満足度（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
法律政治学科	3.13	3.26	3.23	3.49	3.24
経済学科	3.24	3.20	3.33	3.26	3.25
全学科	3.20	3.22	3.29	3.35	3.25

<理解度>

政経学部における全科目の理解度（平均値）は、3.31ポイントで、科目別では、教養教育科目3.33ポイント、専門科目3.26ポイント、外国語科目3.33ポイント、教職科目3.39ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.26ポイントであるが、「よく理解できた」又は「理解できた」が44.7%で、一方、「まったく理解できなかった」又は「あまり理解できなかった」が20.6%であった。

学科別の平均値では、法律政治学科3.32ポイント、経済学科3.22となっており、学年別では、4年（3.33）で最も高く、3年（3.27）、2年（3.25）、1年（3.23）であった。学科・学年別では、法律政治学科4年（3.54）が最も高く、次いで、同学科1年（3.29）で、一方、経営学科1年（3.19）が最も低く、次いで、同学科4年（3.21）となっている。

◇専門科目に対する理解度（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
法律政治学科	3.29	3.27	3.26	3.54	3.32
経済学科	3.19	3.23	3.27	3.21	3.22
全学科	3.23	3.25	3.27	3.33	3.26

<課題の分量>

政経学部における全科目の課題の分量（平均値）は、3.36ポイントで、科目別では、教養教育科目 3.36ポイント、専門科目 3.44ポイント、外国語科目 3.27ポイント、教職科目 3.39ポイントであった。

専門科目においては、平均値が 3.44ポイントであるが、「適切」が 53.3%、「とても多い」又は「多い」が 40.9%で、一方、「とても少ない」又は「少ない」が 5.8%であった。

学科別の平均値では、法律政治学科 3.40ポイント、経済学科 3.46ポイントで、学年別では、3年（3.50）が最も高く、2年（3.46）、1年（3.43）、4年（3.35）であった。学科・学年別では、経済学科 3年（3.59）が最も高く、次いで、同学科 2年（3.50）で、一方、経済学科 4年（3.33）が最も低く、次いで、法律政治学科 3年（3.36）であった。

◇専門科目に対する課題の分量（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
法律政治学科	3.42	3.40	3.36	3.39	3.40
経済学科	3.43	3.50	3.59	3.33	3.46
全学科	3.43	3.46	3.50	3.35	3.44

<遠隔授業>

遠隔授業に関する状況は、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」（703件：70.2%）、「一日中画面に向かっているので疲れる」（405件：40.5%）、同時双方向型授業については、「対面授業より自分の意見が言いやすい」（94件：9.4%）、「一方通行の授業がある」（213件：21.3%）、オンデマンド型授業については、「都合の良い時間に勉強できるので良い」（729件：72.8%）、「物足りなく感じることもある」（278件：27.8%）、また、「質問しても、先生からの返信がないことがある」（165件：16.5%）、「提出した課題が先生に届いているか心配である」（598件：59.7%）であった。

なお、全学平均との比較では、「オンデマンド型授業は、物足りなく感じることもある」が 3.0%、「提出した課題が先生に届いているか心配である」が 1.7%上回っている。一方、「一日中画面に向かっているので疲れる」が 5.9%、「同時双方向型授業であるが、一方通行の授業がある」が 5.5%、「同時双方向型授業は対面授業より自分の意見が言いやすい」が 3.1%下回っている。

(3) 総括

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の一環として、1年間を通じて遠隔授業を中心に実施した。満足度、理解度ともに、例年より低い結果となっている。特に、低学年ほど低い傾向が見受けられる。遠隔授業の設問においては、「オンデマンド型授業は、物足りなく感じることもある」が 27.8%で他学部より高い。「自由記述」では、授業のやり方（資料をアップするだけ）に加えて授業内でのコミュニケーション（メールへの返信がない、課題提出が確認できない等）への不満の声が多い。オンライン授業の技術的な向上のみならず、学生目線に立った授業構築が求められている。

政経学部では、Teams を用いてオンライン授業の情報や問題点を共有し、また、FDワークショップで「オンライン授業の課題と展望」をテーマに取り上げるなど、遠隔授業における工夫・改善に努めている。引き続き、FDワークショップの開催や、本アンケート結果を個々の教員に周知することによる個人レベルでの対応を求めるなど、教育の質の向上に向けた取り組みを実施する。

3. 外国語学部

(1) アンケート回答数

外国語学部のアンケート回答数は、364名（回答率41.6%）であった。

学科別では、英米語学科221名（51.9%）、中国語学科55名（57.8%）、スペイン語学科60名（29.4%）、国際日本語学科28名（58.3%）で、学年別では、1年149名（55.0%）、2年97名（47.3%）、3年70名（36.3%）、4年48名（23.2%）であった。

(2) 集計結果とその分析

<満足度>

外国語学部における全科目の満足度（平均値）は、3.08ポイントで、科目別では、教養教育科目3.06ポイント、専門科目3.08ポイント、外国語科目3.10ポイント、教職科目3.06ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.08ポイントであるが、「大変満足」又は「満足」が39.8%で、一方で「不満」又は「多少不満」が28.5%であった。

学科別の平均値では、国際日本語学科（3.43ポイント）が最も高く、スペイン語学科（3.32）、中国語学科（3.07）、英米語学科（2.97）となっており、学年別では、1年（3.26）が最も高く、4年（3.06）、3年（2.94）、2年（2.90）であった。学科・学年別では、中国語学科1年（3.52）が最も高く、次いで、スペイン語学科3年（3.50）、国際日本語学科1年（3.43）で、一方、中国語学科3年（2.64）が最も低く、次いで、同学科2年及び4年（2.83）となっている。

◇専門科目に対する満足度（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
英米語学科	3.10	2.84	2.91	3.00	2.97
中国語学科	3.52	2.83	2.64	2.83	3.07
スペイン語学科	3.35	3.17	3.50	3.33	3.32
国際日本語学科	3.43	—	—	—	3.43
全学科	3.26	2.90	2.94	3.06	3.08

<理解度>

外国語学部における全科目の理解度（平均値）は、3.17ポイントで、科目別では、教養教育科目3.09ポイント、専門科目3.26ポイント、外国語科目3.19ポイント、教職科目3.10ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.26ポイントであるが、「よく理解できた」又は「理解できた」が45.5%で、一方、「まったく理解できなかった」又は「あまり理解できなかった」が22.4%であった。

学科別の平均値では、スペイン語学科（3.50ポイント）が最も高く、中国語学科（3.38）、国際日本語学科（3.36）、英米語学科（3.15）となっており、学年別では、1年（3.45）が最も高く、2年（3.18）、4年（3.17）、3年（3.01）であった。学科・学年別では、中国語学科1年（3.83）が最も高く、次いで、スペイン語学科の各学年（3.50）で、一方、英米語学科3年（2.87）が最も低く、次いで、中国語学科2年（2.92）、英米語学科4年（3.03）となっている。

◇専門科目に対する理解度（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
英米語学科	3.36	3.13	2.87	3.03	3.15
中国語学科	3.83	2.92	3.14	3.17	3.38
スペイン語学科	3.50	3.50	3.50	3.50	3.50
国際日本語学科	3.36	—	—	—	3.36
全学科	3.45	3.18	3.01	3.17	3.26

<課題の分量>

外国語学部における全科目の課題の分量（平均値）は、3.30ポイントで、科目別では、教養教育科目3.32ポイント、専門科目3.47ポイント、外国語科目3.13ポイント、教職科目3.17ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.30ポイントであるが、「適切」が42.0%、「とても多い」又は「多い」が46.1%で、一方、「とても少ない」又は「少ない」が11.9%であった。

学科別の平均値では、中国語学科(3.51ポイント)が最も高く、スペイン語学科(3.50)、英米語学科(3.46)、国際日本語学科(3.43)で、学年別では、2年(3.68)で最も高く、1年(3.59)、3年(3.34)、4年(2.85)であった。学科・学年別では、英米語学科2年及び中国語学科(3.67)が最も高く、次いで、英米語学科1年及びスペイン語学科1年(3.65)で、一方、中国語学科4年(2.67)が最も低く、次いで、スペイン語学科4年(2.83)、英米語学科4年(2.90)であった。

◇専門科目に対する課題の分量（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
英米語学科	3.65	3.67	3.20	2.90	3.46
中国語学科	3.57	3.67	3.64	2.67	3.51
スペイン語学科	3.65	3.72	3.60	2.83	3.50
国際日本語学科	3.43	—	—	—	3.43
全学科	3.59	3.68	3.34	2.85	3.47

<遠隔授業>

遠隔授業に関する状況は、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」(243件：66.9%)、「一日中画面に向かっているので疲れる」(207件：57.0%)、同時双方向型授業については、「対面授業より自分の意見が言いやすい」(51件：14.0%)、「一方通行の授業がある」(117件：32.2%)、オンデマンド型授業については、「都合の良い時間に勉強できるので良い」(250件：68.9%)、「物足りなく感じることもある」(73件：20.1%)、また、「質問しても、先生からの返信がないことがある」(60件：16.5%)、「提出した課題が先生に届いているか心配である」(214件：59.0%)であった。

なお、全学平均との比較では、「一日中画面に向かっているので疲れる」が10.7%、「同時双方向型授業であるが、一方通行の授業がある」が5.5%、「提出した課題が先生に届いているか心配である」が0.9%上回っている。一方、「オンデマンド型授業は、物足りなく感じることもある」が4.7%、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」が2.7%、「オンデマンド型授業は、都合の良い時間に勉強できるので良い」が2.7%下回っている。

(3) 総括

外国語学部では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の一環として、1年間を通じてオンデマンド・同時双方型の遠隔授業を実施した。まず「満足度」は、外国語学部全体で「大変満足」「満足」の割合が38.4%で、全学の平均42.8%より下回っている。「理解度」は、「よく理解できた」「理解できた」の割合が、学部全体で41.5%で、全学の46.2%よりやや下回っている。「課題の分量」は、外国語学部全体で「とても多い」「多い」が34.9%で、全学の33.2%も上回っている。以上のことから、外国語学部では、遠隔授業を行うにあたり、難易度や課題の量を下げずに授業を行っていた度合いが、全学に比して高かったことが示唆される。遠隔授業の自由記述においては、「同時双方向型授業であるが、一方通行の授業がある」が32.2%で他学部より高いことから、同時双方向型授業における授業方法の工夫が求められる。

経年で見ると、全学の「満足度」は令和元年度が3.95ポイント、令和2年度が3.20ポイント、「理解度」は令和元年度が3.77ポイント、令和2年度が3.28ポイントであることから、押し並べて学生の満足度、理解度は低下していることがわかる。遠隔授業による影響が顕著に現れている可能性が高いが、外国語を扱う授業における個別の影響についても今後精査する必要がある。

外国語学部では、本年度の外国語学部FDワークショップで、「通訳・翻訳教育の最前線と今後～自立学習を促す通訳・翻訳のオンライン授業とは？～」をテーマに取り上げ、独自の遠隔授業に関するアンケートを行いながら、遠隔授業における工夫・改善に努めている。引き続き、FDワークショップの開催や、外部講師による研修を行うなど、教育の質の向上に向けた取り組みを実施する。

4. 工学部

(1) アンケート回答数

工学部のアンケート回答数は、537名（回答率42.9%）であった。

学科別では、機械システム工学科141名（46.8%）、電子システム工学科126名（42.9%）、情報工学科168名（49.7%）、デザイン学科102名（32.1%）で、学年別では、1年206名（58.5%）、2年176名（54.5%）、3年118名（41.8%）、4年37名（12.6%）であった。

(2) 集計結果とその分析

<満足度>

工学部における全科目の満足度（平均値）は、3.14ポイントで、科目別では、教養教育科目3.24ポイント、専門科目3.11ポイント、外国語科目3.06ポイント、教職科目3.23ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.11ポイントであるが、「大変満足」又は「満足」が41.5%で、一方で「不満」又は「多少不満」が28.4%であった。

学科別の平均値では、デザイン学科（3.35ポイント）が最も高く、電子システム工学科（3.20）、機械システム工学科及び情報工学科（2.99）となっており、学年別では、4年（3.36）が最も高く、1年（3.16）、3年（3.15）、2年（2.97）であった。学科・学年別では、電子システム工学科4年（3.70）が最も高く、次いで、デザイン学科3年（3.59）、同学科2年及び4年（3.40）で、一方、機械システム工学科2年（2.78）が最も低く、次いで、情報工学科2年（2.90）、同学科1年（2.97）となっている。

◇専門科目に対する満足度（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
機械システム工学科	3.19	2.78	3.07	3.00	2.99
電子システム工学科	3.30	3.00	3.15	3.70	3.20
情報工学科	2.97	2.90	3.03	3.31	2.99
デザイン学科	3.24	3.40	3.59	3.40	3.35
全学科	3.16	2.97	3.15	3.36	3.11

<理解度>

工学部における全科目の理解度（平均値）は、3.22ポイントで、科目別では、教養教育科目3.33ポイント、専門科目3.17ポイント、外国語科目3.17ポイント、教職科目3.21ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.17ポイントであるが、「よく理解できた」又は「理解できた」が43.4%で、一方、「まったく理解できなかった」又は「あまり理解できなかった」が25.8%であった。

学科別の平均値では、デザイン学科（3.45ポイント）が最も高く、電子システム工学科（3.17）、情報工学科（3.08）、機械システム工学科（3.06）となっており、学年別では、4年（3.42）で最も高く、1年（3.22）、3年（3.19）、2年（3.04）であった。学科・学年別では、デザイン学科4年（3.80）が最も高く、次いで、同学科3年（3.71）、同学科2年（3.60）で、一方、機械システム工学科2年（2.87）が最も低く、次いで、情報工学科2年（2.88）、電子システム工学科2年（3.05）となっている。

◇専門科目に対する理解度（平均値）

区 分	1 年	2 年	3 年	4 年	全学年
機械システム工学科	3.23	2.87	3.07	3.25	3.06
電子システム工学科	3.30	3.05	3.06	3.50	3.17
情報工学科	3.14	2.88	3.18	3.31	3.08
デザイン学科	3.24	3.60	3.71	3.80	3.45
全学科	3.22	3.04	3.19	3.42	3.17

<課題の分量>

工学部における全科目の課題の分量（平均値）は3.23ポイントで、科目別では、教養教育科目3.22ポイント、専門科目3.44ポイント、外国語科目3.04ポイント、教職科目3.15ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.44ポイントであるが、「適切」が53.8%、「とても多い」又は「多い」が40.4%で、一方、「とても少ない」又は「少ない」が5.8%であった。

学科別の平均値では、デザイン学科(3.89ポイント)が最も高く、情報工学科(3.45)、電子システム工学科(3.33)、機械システム工学科(3.21)で、学年別では、1年(3.56)が最も高く、2年(3.48)、3年及び4年(3.25)であった。学科・学年別では、デザイン学科1年(4.10)が最も高く、次いで、同学科2年(3.73)、同学科3年(3.71)で、一方、機械システム工学科4年(3.00)が最も低く、次いで、同学科3年(3.10)、電子システム工学科3年(3.18)であった。

◇専門科目に対する課題の分量（平均値）

区 分	1 年	2 年	3 年	4 年	全学年
機械システム工学科	3.25	3.27	3.10	3.00	3.21
電子システム工学科	3.44	3.35	3.18	3.30	3.33
情報工学科	3.44	3.67	3.23	3.31	3.45
デザイン学科	4.10	3.73	3.71	3.40	3.89
全学科	3.56	3.48	3.25	3.25	3.44

<遠隔授業>

遠隔授業に関する状況は、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」(404件：75.7%)、「一日中画面に向かっているので疲れる」(255件：47.8%)、同時双方向型授業については、「対面授業より自分の意見が言いやすい」(78件：14.6%)、「一方通行の授業がある」(158件：29.6%)、オンデマンド型授業については、「都合の良い時間に勉強できるので良い」(370件：69.3%)、「物足りなく感じることもある」(138件：25.8%)、また、「質問しても、先生からの返信がないことがある」(83件：15.5%)、「提出した課題が先生に届いているか心配である」(314件：58.8%)であった。

なお、全学平均との比較では、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」が5.1%、「同時双方向型授業であるが、一方通行の授業がある」が2.8%、「同時双方向型授業は対面授業より自分の意見が言いやすい」が2.1%、「オンデマンド型授業は、物足りなく感じることもある」が1.0%上回っている。一方、「オンデマンド型授業は、都合の良い時間に勉強できるので良い」が2.3%、「質問しても、先生からの返信がないことがある」が1.3%下回っている。

(3) 総括

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の一環として、1年間を通じて遠隔授業を中心に実施した。各学科それぞれの学びの特性や学生の事情を考慮したうえでBlack BoardとTeamsを中心に遠隔授業を展開した。結果としては満足度、理解度ともに、例年より低い値となっている。昨年度と比較して、満足度は各学科で0.54～0.68ポイント、理解度は0.28～0.43ポイントの低下がみられた。低下の度合いは全学平均（満足度-0.75、理解度-0.49）と比較してやや小さい。しかし、2年生の評価が低い点については分析と対応が必要と考える。

また、専門科目の課題の分量については、適切と感じている学生がデザインを除く3学科では、51.5～67.9%を占めているが、デザイン学科では「とても多い」「多い」と感じている学生が67.6%で全学平均40.7%を大きく上回り、突出しているため、調整の必要がある。一方、専門科目の満足度と理解度に関して、デザイン学科は比較的高い値を示している。全学のデータで満足度、理解度、課題の分量における相対比較では、適切な分量の課題が満足度を高める傾向とともに、課題の少なさが不満につながっている可能性を指摘しており、特に遠隔授業においては科目間の調整が重要であると考えられる。また、自由意見には学科を問わず課題の多さに対する指摘とともに提出の確認に対する不安の記述が目立っていることから、対面時よりきめ細かいフィードバックが求められ、これが満足度にも反映されると考える。

遠隔授業の設問においては、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」が75.7%で全学平均より5.1%高いが、その他の設問では全学と大きな差はみられない。しかし、「オンデマンド型授業は、物足りなく感じることもある」学生が25.8%である点は真摯に受け止める必要がある。実験や実習、演習形態の授業科目が多いため、対面授業や同時双方向型授業による実施が望まれており、自由意見でもこの問題が多く指摘されている。オンデマンド型授業では、学生と教員間のコミュニケーションに加えて学生間の情報共有などについて授業方法の工夫が求められる。

工学部では、引き続き、FDワークショップの開催等による情報の共有、本アンケート結果の活用による学科、個人レベルでの対応により、教育の質の向上に向けた取り組みを実施する。また、令和3年度から、各学科のコース構成変更、4学科共通の学部横断型特別プログラムの新設、専門基礎科目の見直しなどを実施し、教育改善に努める。

5. 国際学部

(1) アンケート回答数

国際学部のアンケート回答数は、430名（回答率35.0%）であった。

学年別では、1年178名（55.5%）、2年127名（43.3%）、3年80名（26.4%）、4年45名（14.5%）であった。

(2) 集計結果とその分析

<満足度>

国際学部における全科目の満足度（平均値）は、3.28ポイントで、科目別では、教養教育科目3.25ポイント、専門科目3.24ポイント、外国語科目3.35ポイント、教職科目3.32ポイントであった。

専門科目においては、平均値が専門科目3.24ポイントであるが、「大変満足」又は「満足」が47.0%で、一方で「不満」又は「多少不満」が21.8%であった。

学年別の平均値では、1年（3.31ポイント）が最も高く、2年（3.27）、4年（3.22）、3年（3.05）であった。

◇専門科目に対する満足度（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
国際学科	3.31	3.27	3.05	3.22	3.24

<理解度>

国際学部における全科目の理解度（平均値）は、3.40ポイントで、科目別では、教養教育科目3.41ポイント、専門科目3.35ポイント、外国語科目3.46ポイント、教職科目3.28ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.35ポイントであるが、「よく理解できた」又は「理解できた」が51.6%で、一方、「まったく理解できなかった」又は「あまり理解できなかった」が16.8%であった。

学年別の平均値では、1年（3.40ポイント）が最も高く、2年（3.38）、4年（3.29）、3年（3.23）であった。

◇専門科目に対する理解度（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
国際学科	3.40	3.38	3.23	3.29	3.35

<課題の分量>

国際学部における全科目の課題の分量（平均値）は、3.41ポイントで、科目別では、教養教育科目3.44ポイント、専門科目3.46ポイント、外国語科目3.34ポイント、教職科目3.34ポイントであった。

専門科目においては、平均値が3.46ポイントであるが、「適切」が50.9%、「とても多い」又は「多い」が41.9%で、一方、「とても少ない」又は「少ない」が7.2%であった。

学年別の平均値では、2年（3.61ポイント）が最も高く、1年（3.60）、3年（3.26）、4年（2.82）であった。

◇専門科目に対する課題の分量（平均値）

区 分	1年	2年	3年	4年	全学年
国際学科	3.60	3.61	3.26	2.82	3.46

<遠隔授業>

遠隔授業に関する状況は、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」(268件：62.6%)、「一日中画面に向かっているので疲れる」(227件：53.0%)、同時双方向型授業については、「対面授業より自分の意見が言いやすい」(65件：15.2%)、「一方通行の授業がある」(129件：30.1%)、オンデマンド型授業については、「都合の良い時間に勉強できるので良い」(291件：68.0%)、「物足りなく感じることもある」(105件：24.5%)、また、「質問しても、先生からの返信がないことがある」(72件：16.8%)、「提出した課題が先生に届いているか心配である」(233件：54.4%)であった。

なお、全学平均との比較では、「一日中画面に向かっているので疲れる」が6.7%、「同時双方向型授業であるが、一方通行の授業がある」が3.4%、「同時双方向型授業は対面授業より自分の意見が言いやすい」が2.7%上回っている。一方、「電車に乗って通学する必要がないので楽である」が7.9%、「オンデマンド型授業は、都合の良い時間に勉強できるので良い」が3.6%、「提出した課題が先生に届いているか心配である」が3.6%下回っている。

(3) 総括

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の一環として、1年間を通じて遠隔授業を中心に実施した。そのため満足度、理解度ともに、例年より低い結果となっている。来年度は対面授業を基本に一部遠隔授業を実施予定である。対面授業の実施により改善されるものと思われるが、より満足度が高まるよう改善を図りたい。また3年の専門科目に関する満足度、理解度が他学年に比べて低い。4年進級後、ゼミ指導、卒論指導の中で補っていくようにしたい。

遠隔授業の設問においては、「同時双方向型授業は対面授業より自分の意見が言いやすい」が15.2%で他学部より高いが、一方で「質問しても、先生からの返信がないことがある」が16.8%で商学部に次いで高く、また「提出した課題が先生に届いているか心配である」が54.4%であることから、不安に思う学生に対するコミュニケーション努力の改善・強化が求められる。

国際学部では、引き続き、FDワークショップの開催や、本アンケート結果を個々の教員に周知することによる個人レベルでの対応を求めるなど、教育の質の向上に向けた取り組みを実施する。

6. 教養教育科目

(1) アンケート回答数

教養教育科目に対する回答数は、3,191名で、学部別では、商学部 893名、政経学部 986名、外国語学部 358名、工学部 527名、国際学部 427名であった。また、学年別では、1年 1,221名、2年 937名、3年 627名、4年 406名であった。

(2) 集計結果とその分析

<満足度>

教養教育科目に対する満足度について、全体の平均値では 3.20 ポイントである。

学科・学年別の平均値では、工学部デザイン学科 4年 (4.00 ポイント) が最も高く、次いで、工学部電子システム工学科 4年 (3.70)、デザイン学科 3年 (3.53) である。一方、外国語学部中国語学科 2年 (2.55) が最も低く、次いで、中国語学科 3年 (2.79)、商学部会計学科 2年 (2.84) となっている。

○参考：教養教育科目（講義科目）の満足度の推移

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
満足度（平均値）	3.86 ポイント	3.88 ポイント	3.91 ポイント	3.97 ポイント

<理解度>

教養教育科目に対する理解度は、全体の平均値では 3.29 ポイントである。

学科・学年別の平均値では、工学部デザイン学科 4年 (4.20 ポイント) が最も高く、次いで、工学部電子システム工学科 4年 (3.90)、政経学部法律政治学科 4年及び工学部機械システム工学科 4年 (3.63) である。一方、外国語学部中国語学科 4年 (2.50) が最も低く、次いで、中国語学科 2年 (2.55)、中国語学科 3年 (2.86) となっている。

○参考：教養教育科目（講義科目）の理解度の推移

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
理解度（平均値）	3.66 ポイント	3.69 ポイント	3.75 ポイント	3.74 ポイント

<課題の分量>

教養教育科目に対する課題の分量は、「適切」が 57.9%で、「とても多い」又は「多い」が 34.4%で、一方、「とても少ない」又は「少ない」が 7.7%である。平均値では、3.35 ポイントで、全科目の平均値と比較すると 0.02 ポイント高い状況となっている。

学科・学年別で、「とても多い」又は「多い」の回答率が高かったのは、外国語学部中国語学科 1年 (69.6%)、中国語学科 2年 (54.5%)、国際学部国際学科 1年 (53.4%)、一方、「とても少ない」又は「少ない」の回答率が高かったのは、外国語学部中国語学科 4年 (66.7%)、スペイン語学科 4年 (41.7%)、国際学部国際学科 4年 (37.2%) となっている。

(3) 総括

専攻分野についての専門性を有するだけでなく、思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材の育成が本学には求められている。高度な教養と専門性を備えた先導的な人材の養成のためには、教養教育科目の充実が重要である。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、遠隔授業を実施したため、例年と比べて授業環境が著しく異なる状況であった。

教養教育科目の課題の分量については、「適切」が 57.9%で、「とても多い」又は「多

い」が34.4%で、一方、「とても少ない」又は「少ない」が7.7%で、「多い」と感じている学生が例年より多くなっている。遠隔授業では毎回課題を出して、出席確認とするよう大学から指示が出ていたので、これは当然のことである。

理解度は、平均値3.29ポイントであり、昨年度3.74ポイント、一昨年度3.75ポイントと比べて、約0.5ポイントしか低下していない。学生教員双方とも慣れない遠隔授業であったにもかかわらず、本学では理解度がほとんど低下していないことは双方の努力の賜物である。本来は、学生自身が評価する理解度より、教員が学生の理解度を評価する学生の成績の平均値が例年よりどのくらい下がったかが、よい指標になるはずである。

満足度は、平均値3.20ポイントであり、昨年度3.97ポイント、一昨年度3.91ポイントと比べて約0.7ポイント低下している。急遽、遠隔授業に変わったために、学生がこのように感じるのには仕方がないことであるが、理解度があまり下がっていないことを考慮すると、教育そのものはうまく機能していたと考えられる。

自由記述では、「教養科目において講義資料だけ公開して終わりという授業が多く、授業内容を理解するのが厳しいので、必ず解説動画や音声を作成して講義資料と一緒に公開してほしい。」「教養科目が資料だけ配られそれを読んで理解する教科が多く自分の身につかないため zoom を用いて授業してほしい。」「教養科目に多く見られる現象ですが、『自分の考察や感想を述べよ』といった課題は点数の基準がよくわからず尚且つ Bb において提出しても点数が表記されていないので単位修得できるのか、かなり不安である。」などの意見が寄せられた。これらの意見は重要であるので、必ず教員へフィードバックをして、春からの授業では改善されるべきである。一方、これらの意見を直接教員に伝えられるような能力を学生に涵養させることも重要な教育である。そのことを学生・教員双方が理解することも重要な事案である。

引き続き、広く深く学術の基礎を学び人間性を涵養する教育となるよう、授業内容や授業方法の工夫・改善を推進する。工学部において理解度、満足度が高いのは、遠隔授業においては学生教員双方の IT リテラシーが重要であることを示している。遠隔授業を続けるのであれば、学生教員双方の IT リテラシーを涵養することが遠隔授業成功にとって重要な課題である。一般の対面授業においては長い歴史から、学生教員双方に共通した「あるべき授業の姿」が暗黙のうちに了解されていると思われるが、遠隔授業ではそうはなっていないことがアンケートから伺える。遠隔で授業を実施する際は、授業方法の工夫、質問機会の確保、課題の質・量の再検討に努める必要がある。同時に大学全体として基本となる遠隔授業あり方を共通なものとして学生教員双方にはっきりと伝えるべきであることがこのアンケート結果から浮かんでくる。

7. 専門科目

(1) アンケート回答数

専門科目に対する回答数（5学部の合計）は、3,243名で、学部別では、商学部913名、政経学部1,003名、外国語学部362名、工学部535名、国際学部430名であった。また、学年別では、1年生1,227名、2年生950名、3年生641名、4年生425名であった。

(2) 集計結果とその分析

<満足度>

専門科目に対する満足度について、全体の平均値では3.19ポイントである。

学科・学年別の平均値では、工学部電子システム工学科4年（3.70ポイント）が最も高く、次いで、工学部デザイン学科3年（3.59）、外国語学部スペイン語学科3年（3.50）である。一方、外国語学部中国語学科3年（2.64）が最も低く、次いで、工学部機械システム工学科2年（2.78）、商学部国際ビジネス学科3年（2.81）となっている。

○参考：専門科目（講義科目）の満足度の推移

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
満足度（平均値）	3.90ポイント	3.99ポイント	4.01ポイント	3.95ポイント

（注）ゼミ、外書講読は含んでいない数値である。

<理解度>

専門科目に対する理解度は、全体の平均値では3.25ポイントである。

学科・学年別の平均値では、外国語学部中国語学科1年（3.83ポイント）が最も高く、次いで、工学部デザイン学科4年（3.80）、同学科3年（3.71）である。一方、商学部国際ビジネス学科3年（2.86）が最も低く、次いで、外国語学部英米語学科3年及び工学部機械システム工学科3年（2.86）となっている。

○参考：専門科目（講義科目）の理解度の推移

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
理解度（平均値）	3.73ポイント	3.80ポイント	3.83ポイント	3.79ポイント

（注）ゼミ、外書講読は含んでいない数値である。

<課題の分量>

専門科目に対する課題の分量は、「適切」が52.1%で、「とても多い」又は「多い」が40.7%で、一方、「とても少ない」又は「少ない」が7.2%である。平均値では、3.43ポイントで、全科目の平均値と比較すると0.10ポイント高い状況となっており、課題の分量が多いと感じている学生が多いことが窺える。

学科・学年別で、「とても多い」又は「多い」の回答率が高かったのは、工学部デザイン学科（82.0%）、外国語学部スペイン語学科2年（61.1%）、同学科1年（60.0%）、一方、「とても少ない」又は「少ない」の回答率が高かったのは、外国語学部中国語学科4年（50.0%）、スペイン語学科4年（41.7%）、国際学部国際学科4年（31.1%）となっている。

(3) 総括

本学では、建学の精神及び教育目標に基づき、国際性、専門性、人間性を備えた人材を育成することを目標としており、専門性については「それぞれの専門分野における基礎的な知識を修得し、これを実際の現場において活用し問題の発見と解決を図ること

とができる」としている。

各学部においては、ディプロマ・ポリシーに基づき、特色ある教育課程を編成しており、学部間の相対的な分析・評価は馴染まないが、各学部における学部平均の満足度は3.08ポイントから3.25ポイントの間であり、総体的に標準以上の評価を得ている。学年別では、1年及び4年が3.24ポイントと高い状況となっている。また、各学部における状況は、「VI 評価及び課題」1～5（p51～p63）に示したとおりである。

なお、各学部において、引き続き、専門教育の順次性、体系性を明確にするとともに教育の実質化を図るため科目数の削減を実施するなど、時代の進展に合わせたカリキュラム改革を推進する。

8. 外国語科目

(1) アンケート回答数

外国語科目に対する回答数は、3,077名で、学部別では、商学部859名、政経学部936名、外国語学部351名、工学部515名、国際学部416名であった。また、学年別では、1年生1,210名、2年生932名、3年生568名、4年生367名であった。

(2) 集計結果とその分析

<満足度>

外国語科目に対する満足度について、全体の平均値では3.22ポイントである。

学科・学年別の平均値では、工学部電子システム工学科4年(3.75ポイント)が最も高く、次いで、工学部情報工学科4年(3.60)、政経学部経済学科4年(3.47)である。一方、外国語学部中国語学科3年(2.62)が最も低く、次いで、外国語学部英米語学科4年(2.71)、中国語学科2年(2.75)となっている。

○参考：外国語科目の満足度の推移

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
満足度(平均値)	4.08ポイント	4.12ポイント	4.13ポイント	4.07ポイント

<理解度>

外国語科目に対する理解度は、全体の平均値では3.29ポイントである。

学科・学年別の平均値では、工学部電子システム工学科4年(3.88ポイント)が最も高く、次いで、外国語学部スペイン語学科1年(3.70)、工学部デザイン学科4年(3.67)である。一方、外国語学部中国語学科2年(2.58)が最も低く、次いで、同学科3年(2.85)、英米語学科3年(2.91)となっている。

○参考：外国語科目の理解度の推移

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
理解度(平均値)	3.94ポイント	3.96ポイント	3.98ポイント	3.96ポイント

<課題の分量>

外国語科目に対する課題の分量は、「適切」が65.4%で、「とても多い」又は「多い」が24.9%で、一方、「とても少ない」又は「少ない」が9.7%である。平均値では、3.21ポイントで、全科目の平均値と比較すると0.12ポイント低い状況となっているが、「適切」との回答が65.4%を占めることから、課題の分量については、総体的には適切であると判断できる。

学科・学年別で、「とても多い」又は「多い」の回答率が高かったのは、外国語学部スペイン語学科3年(62.5%)、商学部経営学科2年(41.8%)、国際学部国際学科2年(41.0%)、一方、「とても少ない」又は「少ない」の回答率が高かったのは、外国語学部英米語学科4年(54.2%)、中国語学科4年(50.0%)、英米語学科3年(40.0%)となっている。

(3) 総括

本学のグローバル教育の最大の特徴は、学生は、世界80%の国・地域において使用されている14言語を学ぶことができ、各言語科目では「使える語学力」の養成を重視した教育が行われている。さらに、学生は、本学の海外研修制度を利用して、現地で実践的に語学力を高めることができる。しかしながら、本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、講義を遠隔授業にて実施せざるを得なかったため、例年と比べて授業環境が著しく異なる状況であった。さらに、例年通り、海外研修を実施することがで

きなかった状況も考慮して、以下のとおり分析・評価した。

はじめに、課題の分量については、「適切」が65.4%、「とても多い」又は「多い」が24.9%であり、一方、「少ない」又は「とても少ない」が9.7%であった。周知の通り、外国語科目の学修目的の一つは、継続的な学修習慣を身につけることであるが、約65%の学生がしっかりと課題に取り組むことができたが、一方、約35%の学生にとっては、課題の分量が適切ではなく、その学修目的が完全に達成されなかったという状況であった。以上のことから、特に、学生の外国語に対する理解度や習熟度に合った、最適な課題の分量についての見直しが必要である。

次に、理解度と満足度については、理解度の平均値3.29ポイントであり、昨年度3.96ポイント、一昨年度3.98ポイントと比べて、約0.7ポイント低下している。満足度は、平均値3.22ポイントであり、昨年度4.07、一昨年度4.13と比べて約0.9ポイント低下している。ポイント低下の要因としては、外国語科目においては、学生が「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能をバランス良く向上させることが必須であるが、遠隔教育が4技能の向上にとっては十分ではなかったことが想定される。

また、自由記述を通じて、学生から授業の進め方について意見が寄せられた。そのアンケート内容に基づくと、今後改善すべき点とは、以下の2点である。

1. 大学入学後、学生が初めて学修する第二外国語においては、理解のしやすさに配慮する
2. 外国語の4技能をバランス良く向上させる授業内容と進め方

今回のアンケートが、第一外国語（英語）と第二外国語を含めた全般的な設問であったため、満足度や理解度の数値が低い授業科目（言語）が特定化されていないが、全外国語科目において、学生の外国語に対する理解度と習熟度に配慮し、4技能をバランス良く向上させるためのさらなる取り組みが強く望まれる。

引き続き、「国際大学」に相応しい教育を実現し、世界でグローバルに活躍できる人材を育成するためには、ICTを効果的に活用し、学生の外国語を学ぶ意欲と、それを使う機会のさらなる充実化を図り、学生の外国語によるコミュニケーション能力を育成するとともに、さらなる教育の質の向上を目指した改革を推進する。

9. 教職科目

(1) アンケート回答数

教職科目に対する回答数は、846名で、回答者数全体の26.0%である。

学部別では、商学部242名、政経学部262名、外国語学部109名、工学部124名、国際学部109名であった。また、学年別では、1年276名、2年222名、3年生175名、4年生173名であった。ただし、本年度の教職課程登録者数は、商学部91名、政経学部199名、外国語学部80名、工学部56名、国際学部75名の計501名であり、アンケート回答数の方が上回っていることを記しておく。

(2) 集計結果とその分析

<満足度>

教職科目に対する満足度について、全体の平均値では3.23ポイントである。

学科・学年別の平均値では、商学部会計学科1年、外国語学部中国語学科2年、工学部デザイン学科2年が4.00ポイントで最も高かった。一方、工学部デザイン学科4年(2.00)が最も低く、次いで、商学部会計学科2年(2.40)、外国語学部英米語学科3年及び中国語学科4年(2.50)となっている。

○参考：教職科目の満足度の推移

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
満足度(平均値)	4.11ポイント	4.23ポイント	4.34ポイント	4.25ポイント

<理解度>

教職科目に対する理解度は、全体の平均値では3.26ポイントである。

学科・学年別の平均値では、外国語学部中国語学科2年(5.00ポイント)が最も高く、次いで、商学部会計学科1年及び外国語学部スペイン語学科3年(4.00)である。一方、工学部デザイン学科4年(2.00)が最も低く、次いで、外国語学部英米語学科3年(2.29)、中国語学科4年(2.50)となっている。

○参考：教職科目の理解度の推移

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
理解度(平均値)	3.92ポイント	4.07ポイント	4.14ポイント	4.00ポイント

<課題の分量>

教職科目に対する課題の分量は、「適切」が60.3%で、「とても多い」又は「多い」が29.9%で、一方、「とても少ない」又は「少ない」が9.8%である。平均値では、3.29ポイントで、全科目の平均値と比較すると0.04ポイント低い状況となっている。

学科・学年別で、「とても多い」又は「多い」の回答率が高かったのは、外国語学部スペイン語学科2年(66.7%)、国際学部国際学科1年(52.9%)、スペイン語学科1年(50.0%)、一方、「とても少ない」又は「少ない」の回答率が高かったのは、外国語学部英米語学科4年(46.7%)、同学科2年(40.9)、商学部会計学科4年(37.5%)となっている。

(3) 総括

本学の教職課程における教員養成については、国際社会に生きる一人の国民として主体的に行動し、持続可能な社会を創り手として貢献することができる教員の輩出を目指している。そのために、専門的な知識を身に付け、多様な人々と協働して課題の発見と解決ができ、生徒・保護者から信頼され尊敬される教員の養成を、本学の教員養成の理念とし、使命であると考えている。

そこで、①世界を視野に入れた多様な視点をもつ教員の育成、②教育に熱意と使命感を抱き、心豊かな人間性をそなえた教員の養成、③教員に求められる高い専門性と高い指導力の養成を掲げて、全学的な協力・指導体制の下、次代を担う生徒たちのため、学校教育が求める実践的指導力の育成強化にあたっている。

本年度の教職課程においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、教育の基礎的理解に関する科目、教科及び教科の指導法に関する科目などの授業を遠隔授業により実施せざるを得なかった。例年と比べて授業環境が著しく異なる状況であったことを考慮しつつ、以下のとおり分析・評価した。

教職科目の「満足度」「理解度」については、昨年度などと比べて数値が低下した。「満足度」の平均値は3.23ポイントであり、昨年度4.25、一昨年度4.34と比べて約1.1ポイント低下している。また、「理解度」の平均値は3.26ポイントであり、昨年度4.00ポイント、一昨年度4.14ポイントと比べて、約0.8ポイント低下している。教職科目以外の教養教育科目、外国語科目、専門科目の平均値も低下しているが、科目全体の平均値では、「満足度」は昨年度比0.75ポイントの低下、「理解度」は0.49ポイントの低下であることから、教職科目の下げ幅はより大きい。

低下の要因としては、大学全体で1年間を通じて遠隔授業を中心に授業を展開したことに関わって、教員・学生ともに遠隔授業に精通できていなかったことが挙げられる。これに加えて、教職科目では従来、講義に留まらず、学校現場で通用する指導力の基礎を身に付ける実践的な演習が取り入れられてきたが、本年度の遠隔授業にはこうした授業形態が十分反映できなかったこともある。自由記述に寄せられた「教職科目は対面授業の方がよいのではないかと感じた」という意見は、教職科目における遠隔授業の問題点を指摘しているのとらえることもできる。今後は、遠隔授業の効果的な方法をさらに学ぶとともに、対面授業と遠隔授業の双方の利点を生かした授業改善を検討していく必要がある。

教職科目の「課題の分量」については、「適切」が60.3%で、「とても多い」又は「多い」が29.9%、一方、「少ない」又は「とても少ない」が9.8%であった。これは、科目全体の平均値よりも「適切」が1.8ポイント高く、「とても多い」「多い」が3.3ポイント低く、「少ない」「とても少ない」は1.5ポイント高くなっている。これまでも、レポートや指導案の作成を宿題・課題として課す教員が多く、今回の自由記述にもある「教職科目の課題が多すぎる」という意見は、従来から指摘されてきた。本年度については、平均値から見ると、教職科目の課題の負担感は必ずしも際立ってはいないが、引き続き、宿題・課題を課すねらいと効果を教員が吟味するとともに、その意義を学生に周知するきめ細かな指導を行っていく必要がある。

現在、新学習指導要領の実施に伴って「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善が、また「令和の日本型学校教育」の実現に向けて対面授業とオンライン授業のハイブリッド化を推進する方策が求められている。今後は、こうした要請に的確に応え、本学に課せられた質の高い教職教育の実現を目指して、本年度の遠隔授業実施の反省を踏まえながら、授業改善を推進する。

参 考 資 料

- ・令和2年度「授業改善のための学生アンケート」実施要領
- ・アンケート様式

令和2年度「授業改善のための学生アンケート」実施要領

1. 目的

学生に対するアンケートを実施し、その結果を教員及び教員組織が授業の改善に役立て、本学における教育の質の向上を図ることを目的とする。

2. 対象科目

個々の対象科目は設定せず、教養教育科目、専門科目、外国語科目及び教職科目についての全般を対象とする。また、新型コロナウイルス感染症拡大により本年度に新たに導入した教育方法（遠隔教育）についても対象とする。

3. 実施期間

令和2年12月14日（月）～12月19日（土）

4. 実施方法

従来のマークシート方式による調査に代え、本年度は、遠隔システム（Blackboard）を利用したオンライン方式にて実施する。学生1名に対して1つのアンケートとする。

5. 実施結果の取りまとめ

- (1) 学長事務室において、設問項目ごとにデータを整理する。
- (2) FD委員会は、学長事務室において整理したデータをもとに、「全体集計」及び「学部別集計」の分析を実施する。また、各学部FD委員会と連携して「各学部等における評価及び課題」を取りまとめる。
- (3) FD委員会は、上記の各項目を取りまとめて、「令和2年度授業改善のための学生アンケート報告書」を作成する。

6. 活用方法

- (1) 教員は、実施報告書における分析内容等を参考にして、教員自己の授業改善に役立てる。
- (2) 各学部自己点検・評価委員会又は各学部FD委員会は、実施報告書をもとに、組織的に授業改善の方策を検討する。
- (3) 学長は、実施報告書をもとに、必要な改善策を検討する。

以 上

[アンケート様式]

令和2年度 授業改善のための学生アンケート

アンケート情報

- ・説明：このアンケートは、本年度後期の遠隔授業を対象に実施するものです。
以下のとおり実施しますので、あなたが履修している科目が属する区分について、該当する設問に答えて下さい。
- ・実施回数の設定：許可されていません。このアンケートは1回だけ受けることができます。
- ・強制完了の設定：このアンケートは提出せずに保存して、後から再開することができます。

質問1 学年：1. 1年 2. 2年 3. 3年 4. 4年

質問2 学科：1. 経営 2. 国際ビジネス 3. 会計 4. 法律政治 5. 経済
6. 英米 7. 中国 8. スペイン 9. 国際日本語 10. 機械
11. 電子 12. 情報 13. デザイン 14. 国際

質問3 あなたが履修している教養教育科目全般について満足度はどの程度ですか。

※国際学部は基礎科目（教養）について回答すること

5. 大変満足 4. 満足 3. どちらとも言えない 2. 多少不満 1. 不満

質問4 あなたが履修している教養教育科目全般について理解度はどの程度ですか。

※国際学部は基礎科目（教養）について回答すること

5. よく理解できた 4. 理解できた 3. どちらとも言えない
2. あまり理解できなかった 1. まったく理解できなかった

質問5 ここまでの教養教育科目全般における課題の分量はどの程度ですか。

※国際学部は基礎科目（教養）について回答すること

5. とても多い 4. 多い 3. 適切 2. 少ない 1. とても少ない

質問6 あなたが履修している専門科目全般について満足度はどの程度ですか。

5. 大変満足 4. 満足 3. どちらとも言えない 2. 多少不満 1. 不満

質問7 あなたが履修している専門科目全般について理解度はどの程度ですか。

5. よく理解できた 4. 理解できた 3. どちらとも言えない
2. あまり理解できなかった 1. まったく理解できなかった

質問8 ここまでの専門科目全般における課題の分量はどの程度ですか。

5. とても多い 4. 多い 3. 適切 2. 少ない 1. とても少ない

質問9 あなたが履修している外国語科目全般について満足度はどの程度ですか。

※外国語学部は選択必修科目（外国語：第2外国語）について回答すること

5. 大変満足 4. 満足 3. どちらとも言えない 2. 多少不満 1. 不満

- 質問 10 あなたが履修している外国語科目全般について理解度はどの程度ですか。
※外国語学部は選択必修科目（外国語：第2外国語）について回答すること
5. よく理解できた 4. 理解できた 3. どちらとも言えない
2. あまり理解できなかった 1. まったく理解できなかった
- 質問 11 ここまでの外国語科目全般における課題の分量はどの程度ですか。
※外国語学部は選択必修科目（外国語：第2外国語）について回答すること
5. とても多い 4. 多い 3. 適切 2. 少ない 1. とても少ない
- 質問 12 あなたが履修している教職科目全般について満足度はどの程度ですか。
(教職科目登録者のみ)
5. 大変満足 4. 満足 3. どちらとも言えない 2. 多少不満 1. 不満
- 質問 13 あなたが履修している教職科目全般について理解度はどの程度ですか。
(教職科目登録者のみ)
5. よく理解できた 4. 理解できた 3. どちらとも言えない
2. あまり理解できなかった 1. まったく理解できなかった
- 質問 14 ここまでの教職科目全般における課題の分量はどの程度ですか。
(教職科目登録者のみ)
5. とても多い 4. 多い 3. 適切 2. 少ない 1. とても少ない
- 質問 15 遠隔授業全般について
ここまでの遠隔授業全般について、自分の状況に当てはまるものを教えて下さい。
(複数回答可)
1. 電車に乗って通学する必要がないので楽である。
2. 一日中画面に向かっているので疲れる。
3. 同時双方向型授業は対面授業より自分の意見が言いやすい。
4. 同時双方向型授業であるが、一方通行の授業がある。
5. オンデマンド型授業は、都合の良い時間に勉強できるので良い。
6. オンデマンド型授業は、物足りなく感じることもある。
7. 質問しても、先生からの返信がないことがある。
8. 提出した課題が先生に届いているか心配である。
- 質問 16 【自由意見欄】
遠隔授業について、改善してほしい点があれば具体的に書いて下さい。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

令和2年度
授業改善のための学生アンケート報告書

令和3年3月発行

編集・発行 拓殖大学 FD委員会
〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14
電話 03-3947-7299 (学務部 学長事務室)